

# 愛知県文化振興事業団 20年誌

～20年の軌跡を振り返る～

# はじめに

## 1 愛知県文化振興事業団について

1980年代までの経済の発展・自由時間の増大などを背景として、文化・芸術への関心、期待が急速に高まり、文化的環境の充実が強く求められるようになる中、財団法人愛知県文化振興事業団（以下、「事業団」）は、愛知県からの出えんにより、民法第34条に基づく公益法人として、平成4年4月1日に設立されました。

事業団は、各種の芸術文化事業を行うことにより、個性豊かな地域文化の振興を図り、世界に開かれた魅力ある愛知づくりに寄与することを目的としています。

この目的を達成するため、事業団では、愛知芸術文化センター（栄地区）（以下、「芸文センター」）内の3つのホールを活用した舞台芸術公演や、それを核とした県内諸地域への文化の普及啓発事業など、以下のような事業を展開してまいりました。

- (1) オペラ、クラシックコンサート、演劇などの舞台芸術公演
- (2) 上記公演に関連した、レクチャー、ワークショップ、連続鑑賞講座等の普及啓発事業
- (3) 機関紙の発行等による広報活動
- (4) 愛知県美術館ミュージアムショップ、アートショップ、プレイガイドの運営

なお、事業団は、平成24年4月1日に公益財団法人へ移行しました。

## 2 活動の拠点—愛知芸術文化センター（栄地区）について

平成4年秋にオープンした芸文センターは、将来に向けた多様な芸術文化活動を推進する一大拠点として、愛知県が建設した総合文化施設です。

芸文センターには、「愛知県美術館」と、アートプラザ、アトライブラリー、アートスペースからなる「愛知県文化情報センター」の他、「愛知県芸術劇場」として以下に示す3つのホール等が備えられており、これらの管理運営は愛知県が行っています。

＜愛知県芸術劇場の概要＞

- (1) 大ホール（2,500席）  
本格的なオペラの上演が可能なプロセニウム型ホール
- (2) コンサートホール（1,800席）  
クラシック音楽に最適な豊かな響きを持った本格的なコンサート専用ホールで国内最高水準のオルガンを設置
- (3) 小ホール（最大330席）  
演劇、舞踊など現代の舞台芸術の可能性に挑戦できる小規模ホール
- (4) 大リハーサル室、中リハーサル室  
演劇やバレエなど舞台芸術用の大リハーサル室と、音響効果も考慮された音楽用の中リハーサル室

## 3 愛知県文化振興事業団20年誌について

本誌は、事業団が創設以来歩んできた軌跡を、20年を機に、記録としてまとめたものです。

なお、本誌は、事業団の事業構成に合わせ、以下のように編集しています。

- (1) 主要ジャンルに沿ったホール別の記述  
事業団では、主たる公演会場である愛知県芸術劇場の3つのホールを活用して事業を実施しており、本誌の記述も、原則として各ホール別にまとめています。以下順に、愛知県芸術劇場大ホールでのオペラと民俗芸能、同コンサートホールでのコンサート（オルガン含む）、そして、同小ホールでの演劇を記述しています。

また、各ジャンル別の変遷を示すため、本文の記述に先立ち、事業の「推移図」Ⅰ～Ⅲを掲載しました。

なお、芸文センター開館記念事業は本誌の冒頭にてご紹介しています。

- (2) 各種関連事業等  
事業団では、上記のジャンルそれぞれにおいて、舞台芸術の普及啓発事業及び人材育成事業も併せて展開してきましたので、これら関連事業も取り上げました。

さらには、愛知県芸術劇場以外での事業も行っていますので、そちらもご紹介しています。

### (3) 全事業の記録

事業団のこれまでの事業の記録として、本誌の巻末に、全事業の一覧を年表にして掲載しました。

※公演・関連事業の詳細については、事業団のホームページでご覧いただけます。

([http://www.aac.pref.aichi.jp/sinkou/past\\_event/index.html](http://www.aac.pref.aichi.jp/sinkou/past_event/index.html))

[注記]本文中の人名については、敬称を略させていただきました。また、団体名、氏名、肩書等は記述内容に示された当時のものを記載しています。

# 目 次

<b>愛知芸術文化センター開館記念事業</b> .....	1
❖ 大ホールでの柿落としオペラ上演	
❖ コンサートホール開館	
❖ 愛知県芸術劇場オープニング演劇祭	
<b>推移図Ⅰ「オペラ事業の推移」</b> .....	3
<b>海外歌劇場公演事業</b> .....	4
❖ ローマ、メトロポリタン、モンテカルロ	
<b>国際級プロダクションによるオペラ振興</b> .....	5
❖ 小澤征爾とヘネシー・オペラ・シリーズ他	
<b>プロデュースオペラ</b> .....	6
❖ 鈴木敬介演出による初期3年間	
❖ 栗山昌良演出2作品	
❖ プロデュースオペラ、待望の復活	
❖ プロデュースオペラは次の段階へ～『椿姫』	
❖ 愛知万博・委嘱作品『白鳥』	
❖ 大規模オペラ2作目『ラ・ボエーム』	
❖ 岩田演出2度目の受賞『ファルスタッフ』	
❖ 共同制作『カルメン』	
❖ あいちトリエンナーレ2010『ホフマン物語』	
❖ 20周年オペラ『ランメルモールのルチア』	
<b>オペラ教室</b> .....	12
❖ 日生劇場との提携	
<b>地元オペラ団体との共催事業</b> .....	13
<b>オペラの関連事業</b> .....	13
❖ 舞台芸術により親しむための連続講座「シリーズ・トーク」	
❖ 公開ゲネプロの実施	
❖ 「ワクワク、オペラ体験」	
❖ オペラ・ワークショップ	
<b>愛知県ふるさと芸能祭</b> .....	15
<b>推移図Ⅱ「コンサート事業の推移」</b> .....	16
<b>海外オーケストラ事業</b> .....	17
<b>国内オーケストラによる事業</b> .....	17
❖ NHK交響楽団定期演奏会	
<b>オルガンコンサート</b> .....	18
❖ オルガンコンサートシリーズからXmasへ	
<b>THE オルガンDAY</b> .....	19
❖ ワンコイン・45分で広がるオルガンの魅力	
<b>コンサートシリーズ「音楽への扉」</b> .....	20
❖ クラシック音楽の世界へようこそ	
❖ 音楽の3大要素編	
❖ オペラ編	
❖ 再び多彩な音楽を聴く	
❖ 集大成の10年目	

「音の楽園 The Three by One」 .....	22
◆一人のアーティストがナビゲート	
コンサート企画の公募事業 .....	23
◆未来を紡ぐ～若き音楽家	
AC合唱団 .....	24
音楽ワークショップ&公開レッスン .....	25
◆子ども&若手の育成	
<hr/>	
<b>推移図Ⅲ「演劇事業の推移」</b> .....	<b>26</b>
平成5年度から平成12年度の演劇事業 .....	27
子供のためのシェイクスピア公演 .....	29
愛知県芸術劇場演劇フェスティバル .....	30
AAFリージョナル・シアター .....	31
AAF戯曲賞受賞作とプロデュース公演 .....	32
演劇関連事業 .....	34
芸文センター外での事業 .....	36
◆移動美術館	
◆愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会	
◆訪問演奏～音楽を届ける	
舞台技術者セミナー .....	37
アウトリーチ .....	37
愛知県文化振興事業団事業年表 .....	38

## 愛知芸術文化センター開館記念事業

平成4年10月、愛知県の芸術文化の環境と水準を劇的に向上させる契機が訪れました。それは、長年親しまれてきた愛知県文化会館が、当時、日本で最新の機構・設備を有する芸文センターに生まれ変わった時でした。

芸文センター内にある愛知県芸術劇場の3つのホールは、開館記念事業の多彩なラインナップによって、多くの方々に、その素晴らしい姿をお披露目することとなりました。

愛知県の文化振興の一翼を担うため、これらの3つのホールを活用して自主事業を行うことをその活動の核とする事業団も、この開館記念事業の実行委員会の一員として、大ホールでのオペラとコンサートホールでのクラシックコンサート、そして、小ホールでの「愛知県芸術劇場オープニング演劇祭」の実施を担いました。

### ー大ホールでの柿落としオペラ上演ー

馬蹄型オペラ劇場の雰囲気を取り入れた3層の囲み型バルコニーを有する愛知県芸術劇場大ホールは、ヨーロッパの伝統的な大規模歌劇場を彷彿とさせ、本格的なオペラ公演が可能な日本初の大劇場です。この開館により、本場のオペラ公演をほぼそのままの形で愛知において鑑賞することが可能となりました。それを証明したのが、柿落としとなった、オペラ大国ドイツのバイエルン国立歌劇場引越公演でした。

この時の演目は、日本でもお馴染みの定番作品、モーツァルト『フィガロの結婚』と、愛知初演のリヒャルト・シュトラウス『影のない女』の2本立て。オーソドックスな演出の前者とは対照的に、『影のない女』は、三代目市川猿之助の演出により歌舞伎仕様で彩られ、親日派のサヴァリッシュ指揮の下、ペーター・ザイフェルトやルアーナ・デヴォールをはじめとする、この大型歌劇作品を歌うのに相応しい歌手陣や同歌劇場管弦楽団・合唱団の充実した演奏で、満員の聴衆を感動の渦に巻き込みました。

### ーコンサートホール開館ー

最大規模のオーケストラ演奏が可能な舞台面と、理想的な音響空間により、演奏した数多くの楽団から高い評価を得、鑑賞した多くの聴衆からも支持されている愛知県芸術劇場コンサートホール。そのお披露目は、サー・ネヴィル・マリナー指揮のセント・マーチン・アカデミー管弦楽団

によるものでした。実力派ヴァイオリン奏者諏訪内晶子を独奏者に迎えてのモーツァルトの協奏曲や、チャイコフスキーの悲愴交響曲など魅力的なプログラムを、2夜連続で聴かせてくれました。さらに、バイエルン国立歌劇場管弦楽団と、オペラ公演に出演したソリストによる「ガラ・コンサート」で、聴衆の皆様には、ドイツオペラのエッセンスを堪能していただくことができました。

また、このホールの目玉の大規模オルガンもお披露目となりました。わが国屈指のパイプ数とストップ数により、音量と音色の選択肢が多種多様の大オルガンは、まさに「楽器の王様」に相応しいものです。この楽器を十分に活用して、当地域の音楽文化をさらに豊かにするため、事業団では、オルガン披露コンサートに先駆けて、親子向けのレクチャーコンサートを無料で実施しました。そして、栄えある披露コンサートでは、現在指揮者としても活躍中のマルティン・ハーゼルバックが、J.S. バッハ『トッカータとフーガ』ニ短調に始まるドイツオルガン音楽の系譜を前半に、後半は多彩な音色が特色のフランスオルガン音楽という好プログラムを演奏しました。このコンサートは、楽器の特長を生かし、オルガニストの演奏能力と音楽性を発揮すべく、日本の旋律を用いた「即興演奏」で締めくくられ、大オルガンの素晴らしさを堪能していただけるものとなりました。

こうして、芸文センター開館記念事業を出発点に、事業団は、翌平成5年度以降、愛知県芸術劇場大ホールでオペラ事業等、同コンサートホールでオーケストラやオルガンのコンサート事業等を、また、次頁で述べるように、同小ホールで演劇事業等を展開。現在までの20年に渡る歩みの中で、自主制作＝プロデュースの力を蓄えていくことになりました。(中沢)

## ー愛知県芸術劇場オープニング演劇祭ー

“実験小劇場”として設計された愛知県芸術劇場の小ホールは、壁も床も舞台面も全面黒一色に塗られた“ブラックシアター”で、しかも客席は可変、舞台には昇降機構があり、充実した照明機材等、当時のクリエイター達が望んでいた機能を多く備えていました。20年を経た現在では典型的になりましたが、当時は、演劇、舞踊、音楽、パフォーマンスなど、ジャンルにとらわれない自由で創造的な表現の場として注目を集めました。

その小ホールの特性を活かそうと、事業団では、開館記念事業の一環として、当時盛んであった小劇場系の劇団を一同に集め、「愛知県芸術劇場オープニング演劇祭」を開催しました。当時の名古屋の演劇界の拠点、名演小劇場の島津秀雄（名演会館代表取締役社長）を総合プロデューサーに迎え、事業団と地元演劇界に携わる10数名の委員とで実行委員会を組織して実施したものです。県内外の話題の8劇団と、トークショーを組み合わせたシリーズは大好評を博し、愛知県芸術劇場小ホールという実験的な場のお披露目に一役買いました。

オープニング演劇祭では、全国クラスの劇団と地元の劇団がバランスよく組み込まれ、また、異色と思われるかもしれませんが、歌舞伎もプログラムされました。実験小劇場ですから歌舞伎も可能です。

全国クラスの劇団は、作家・柳美里の青春五月党と演出家・松本修率いるMODEが合同で行ったMODE×青春五月党、自由劇場出身の大谷亮介と余貴美子らによって旗揚げされた東京壱組、今も常に話題をふりまく金守珍が主宰する新宿梁山泊、そして今ではNHKの大河ドラマまで書き下ろす三谷幸喜率いる東京サンシャインボーイズが参加。それぞれに質の高い舞台を上演し、オープニングを盛り上げました。

地元からは、小劇場系として全国に名をとどろかせた岸田國士戯曲賞受賞者・北村想のプロジェクト・ナビ、当時から不条理劇に取り組み、後年岸田國士戯曲賞を受賞した佃典彦の劇団B級遊撃隊、そして小劇場系の旗手だった今井良実プロデュースという、活気にあふれていた当時の名古屋演劇界を象徴する劇団が選ばれました。加えて、名古屋が誇る歌舞伎集団、名古屋むすめ歌舞伎が、大ホールで上演されたオペラ『影のない女』を演出した三代目市川猿之助の監修を受けて『梅川忠兵衛』を上演。多彩なプログラムとなりました。

新作の書き下ろし上演がMODE×青春五月党『魚の祭』、今井良実事務所プロデュース『アンダーグラウンド』、東京サンシャインボーイズの『もはや これまで』、プロジェクト・ナビ・プロデュース『岸田國士戯曲SHOW』、そして新宿梁山泊『それからの夏ーそれからの愛しのメディア』の5作品。名古屋初登場の東京壱組『ブラジルのいところ』、初の翻訳劇に挑戦した劇団B級遊撃隊『インド人はブロンクスへ行きたがっている』と、オープニングにふさわしく初物ばかりだった演劇祭は、内容も多彩で見どころ満載となり、演劇が“アングラ”と言われた時代から、完全に“小劇場”という形態へと変わっていく時代の変遷を目の当たりにしました。

事業団は、関連事業も含めたオープニング演劇祭を機に、この後も小ホールで演劇を中心に様々な劇を上演し、少なからず当地域の演劇界に刺激を与え続けました。オープニング演劇祭はその発端となったのでした。（大脇）



推移図 I

オペラ事業の推移 (愛知県芸術劇場大ホール)

年度	海外歌劇場(劇場名)				
		国際級オペラプロダクション	プロデュースオペラ	日生オペラ教室	地元オペラ団体との共催
H4	バイエルン国立歌劇場 『影のない女』 『フィガロの結婚』				
H5		小澤オペラ 『トスカ』	『魔笛』	『蝶々夫人』	《略語表記》 [二]名古屋二期会 [協]名古屋オペラ協会
H6	ローマ歌劇場 『椿姫』 『トスカ』	小澤オペラ 『セヴィリアの理髪師』	『ドン・ジョヴァンニ』	『魔弾の射手』	『袈裟と盛遠』[協]
H7		世界公園フェスティバル'95記念 藤原歌劇団 『アンドレア・シェニエ』	『さまよえるオランダ人』	『愛の妙薬』	『カルメル会修道女の対話』 [二]
H8			『トゥーランドット』	『夕鶴』	『額田女王』[協]
H9	外ロポリタン歌劇場 (名古屋テレビ放送と共催) 『カヴァレリア・ルスティカーナ』 『道化師』 『トスカ』 『カルメン』	小澤オペラ 『魔笛』	『ルイーザ・ミラー』	『後宮からの逃走』	『天国と地獄』[二]
H10		小澤オペラ 『ベレアスとメリザンド』 新国立劇場 『ナブッコ』 藤原歌劇団 『椿姫』		『セビリヤの理髪師』	『天守物語』[協]
H11				『ヘンゼルとグレーテル』	『魔笛』[二]
H12	モンテカルロ歌劇場 (中部日本放送と共催) 『椿姫』 『カルメン』			『愛の妙薬』	『祝い歌が流れる夜に』[協]
H13				『夕鶴』	『フィガロの結婚』[二]
H14			『仮面舞踏会』		『新・白菊物語』[協]
H15			『椿姫』		『カルメン』[二]
H16			『ゴージャス・ガラ』 (愛・地球博関連)		
		バレエ			
H17	(愛・地球博関連) フェニーチェ歌劇場(朝日新聞、名古屋テレビと共催) 『椿姫』	(愛・地球博関連) パリ・オペラ座 (中日新聞、テレビ愛知等と共催) 『シーニュ』	シンフォニック・オペラ 『白鳥』(愛知万博開催記念)		『なよ竹の輝夜』[二]
H18	外ロポリタン歌劇場 (中部日本放送と共催) 『ワルキューレ』		『ラ・ボエーム』		
H19			『オペラ・ガラ』 (芸文センター開館15周年)		『ドン・ジョヴァンニ』[二]
H20		パリ・オペラ座 (中日新聞、中部日本放送と共催) 『ル・バルク』	『ファルスタッフ』		
H21			『カルメン』 (兵庫県立芸術文化センター、東京二期会等との共同制作)		『真夏の夜の夢』[二]
H22			『ホフマン物語』 (あいちトリエンナーレ2010)		
H23					『天国と地獄』[二]
H24			『ランメルモールのルチア』 (事業団創立20周年) (芸文センター開館20周年)		



## 海外歌劇場公演事業

### ーローマ、メトロポリタン、モンテカルロー

この事業の目的は、本格的なオペラ公演が可能な愛知県芸術劇場大ホールにおいて、世界最高水準のオペラ公演の鑑賞機会を県民に提供するというものでした。そのため、2～3年に一度の割合で、世界各地の主要なオペラハウスのプロダクションを上演することとしました。

開館記念公演にドイツを代表するバイエルン国立歌劇場公演を実施したのに続いて、平成6年度には、オペラの輝かしい伝統を持つイタリアから、同国を代表するローマ歌劇場を事業団単独で直接招聘しました（初来日）。愛知のみの公演であったことや、オペラ界の至宝とも言える巨匠、ネッロ・サンティの指揮を始め、ゲーナ・ディミトローヴァ、ニコラ・マルティヌッチ、ルチア・アリベルティ、ジュゼッペ・サッパティーニ等、主役クラスの歌手に当代一流の実力派が揃ったことが全国的にも注目を集め、県外からも多くの集客を得ることとなりました。

演目は、イタリアオペラの世界的な人気作品、ヴェルディ『椿姫』とプッチーニ『トスカ』。前者は、舞台一面に敷いた地氈（じがすり）の全面に大きく描かれた絵を、舞台上に立てかけた巨大な鏡に映すという手法により、観客の目と心を惹きつけた美しい舞台美術と演出が、後者は、初演当時の舞台美術を再現したわかりやすい舞台作りが素晴らしく、両演目とも満員の客席から拍手喝采を贈られ、公演は大成功を収めました。



ローマ歌劇場『椿姫』（写真・©木之下晃）

続いて平成9年度にニューヨークのメトロポリタン歌劇場公演を名古屋テレビとの共催で実施。オーソドックスな演出が定評の同歌劇場は、人気歌手が日替わりで出演することでも知られていますが、この時は、当時の世界3大テノール

の内、プラシド・ドミンゴ（歌手としての出演に加え『カルメン』公演の指揮者としても登場し注目を浴びました）とルチアーノ・パヴァロッティの二人が出演することでも話題を呼びました。

演目は、マスカーニ『カヴァレリア・ルスティカーナ』とレオンカヴァッロ『道化師』、ビゼー『カルメン』、プッチーニ『トスカ』という同歌劇場が得意とするもので、オペラ界の巨匠フランコ・ゼッフィレリ演出及び舞台美術、マリア・グレギーナ、ダニエラ・デッシー、ファビオ・アルミリアート、ジェームズ・モリス他、同歌劇場の顔ともいえる一流歌手の出演により、満席の観客を感動の渦に巻き込む成功を収めました。



メトロポリタン歌劇場『道化師』（写真・©木之下晃）

平成12年度には、モンテカルロ歌劇場愛知公演を中部日本放送と実施（初来日）。オペラで実力を認められていたアントン・グアダーニョを指揮者に迎え、当時人気沸騰中のアンジェラ・ゲオルグー、ロベルト・アラニーヤ他を起用した歌手陣には、その後、世界中で大活躍することとなった若手のジュゼッペ・フィリアノーティやノラ・アンセルムも含まれ、清新な舞台を提供し、観客の皆様にも大いに楽しんでいただきましたが、海外歌劇場公演事業は平成12年度をもって一旦終了することとなりました（平成17年度、18年度は共催公演を実施）。



モンテカルロ歌劇場『カルメン』（撮影：三浦興一）

## 国際級プロダクションによるオペラ振興

事業団では、平成5年度当時、次のようなラインナップを柱にオペラ事業を展開していました。

- ① プロデュースオペラ
- ② オペラ教室（日生劇場提携公演）
- ③ 海外歌劇場公演
- ④ 国内制作による国際レベルの公演

①と②は6頁以下にて、また③は4頁にて詳述。④については、本頁にてご紹介するとおり、指揮者や演出家などの主要なプランナーやスタッフ、出演歌手陣に、国際的に活躍する人材を配した国内制作のプロダクションを意味しています。

事業団では、上記4つの柱によるオペラの事業展開を行うことで、幅広い観客層へオペラ鑑賞の機会を提供し、当地域のオペラ文化の振興を図りました。

### ー小澤征爾とヘネシー・オペラ・シリーズ<sup>1</sup>他ー

上記の④として、まず事業団が招致したプロダクションが、世界的に知名度の高い小澤征爾を指揮者に迎えたオペラ・シリーズ（以下「小澤オペラ」）でした。小澤オペラは、小澤の人脈から演出のデイヴィッド・ニース、舞台美術のジャン＝ピエール・ポネルやデイヴィッド・ホックニーなどの世界的な芸術家が参加し、マーラ・ザンピエリ、テレサ・ストラータス、ウィリアム・マテウツィ、ポール・プリシュカ等一流の歌手陣による素晴らしい歌と演技で、海外歌劇場と比べても遜色のない、洗練された舞台公演となりました。

魅力的なプロダクションとして人気を博した小澤オペラでは、平成5年度のプッチーニ『トスカ』、平成6年度のロッシーニ『セヴィリアの理髪師』、平成9年度のモーツァルト『魔笛』、平成10年度のドビュッシー『ペレアスとメリザンド』（小澤の急病により、指揮はジェラルド・シュワルツに交代）を上演し、愛知県芸術劇場大ホールにおけるオペラ公演の歴史を彩り溢れるものにするにも繋がりました。



小澤オペラ『魔笛』（撮影：南部辰雄）

事業団では、小澤オペラ以外でも特筆すべきオペラ公演を実施しております。例えば、平成7年度には、世界公園フェスティバル'95の記念事業として、大テノール、ジュゼッペ・ジャコミーニをタイトル・ロールに起用した『アンドレア・シェニエ』（藤原歌劇団）を上演しました。主役クラスのソリストには、ジョヴァンナ・カゾッラ、レナート・ブルゾンなど実力者も揃い、イタリアオペラならではの輝かしい声の競演が繰り広げられ、忘れ難いオペラ公演の一つとして、今なお、語り継がれております。

さらに、平成10年度には、ヴェルディ『ナブッコ』（新国立劇場）と『椿姫』（藤原歌劇団）を上演しました。この2つのヴェルディ作品も、『ナブッコ』のアントン・グアダーニョ、直野資、『椿姫』のレナート・パルンゴ、ヴィクトリア・ルキアネッツを始め、出演者・スタッフに内外の実力派を起用してのプロダクションでした。小澤オペラと同様、これら3演目も、事業団プロデュースオペラを意識した料金設定により、多くの皆様に鑑賞していただくことができました。

これらの事業は、本格的なオペラ公演が少なかった当地域で、大ホールの活用に加え、オペラの楽しみや迫力を観客に伝え、オペラ文化を振興する役割を担いました。（中沢）



『アンドレア・シェニエ』（撮影：加藤弘一）

1 コニヤックで有名なヘネシー社の協賛により公演タイトルは、「ヘネシー・オペラ・シリーズ」と冠された。平成5年度『トスカ』は同シリーズVI。平成10年度は協賛がローム社に変更。

## プロデュースオペラ

芸文センターの開館は、「箱モノ行政からの脱却」という時代の波が押し寄せていた時期でした。

前身であった愛知文化講堂は、“愛知県芸術劇場”と名を変え、それまでの単なる貸し館ではなく、舞台芸術を“創る”公立劇場という側面を持つこととなり、その担い手として設立されたのが事業団でした。芸文センターを直接運営している愛知県の一翼として、愛知県芸術劇場の3つのホールの特性を活かした事業を行うのが事業団の主な使命です。

平成4年度の華々しく展開された開館記念事業が終わり、実質的に事業団の事業がスタートしたのは平成5年度ですが、本格的なオペラの上演が可能な愛知県芸術劇場大ホールの特性を活かしたオペラ公演を提供するには、自主制作しかありません。必然的にこれが事業団の根幹をなす事業となりました。

自主制作オペラとは、既存のオペラ団体や音楽事務所に頼らず、オペラ公演の要となる演出家と指揮者を主催者が自ら選び、劇場で何をお客様に提供していくのか、出演者は誰を起用するのか等を一緒に考え、制作するものです。この自主制作オペラを“プロデュースオペラ”と称しました。チラシ等にこの名称を使用したのは芸文センター開館10周年にあたる平成14年度のヴェルディ『仮面舞踏会』からでしたが、公立劇場が自ら制作するという意味では広報的によく使っていた表現でした。しかしながら、今では珍しくなくなった公立劇場のプロデュースオペラも、当時は誰も聞いたことのない名称なので、お客様のみならず、関係者にも理解をしてもらうことが困難な時もありました。

### ー鈴木敬介演出による初期3年間ー

当初の平成5年度から7年度までの3年間のプロデュースオペラの方針は次のとおりでした。

- ① ポピュラーな演目
- ② できるだけオーソドックスな演出
- ③ 指揮者は有望な若手
- ④ 歌手は可能な限り日本人。管弦楽は原則として、名古屋フィルハーモニー交響楽団(以下「名フィル」)。

その方針に基づき、平成5年度からの3年間は、日本のオペラ演出家の草分けの一人、鈴木敬介を演出家に迎え、モーツァルト『魔笛』(H5)、同『ドン・ジョヴァンニ』(H6)、ワーグナー『さまよえ

るオランダ人』を上演(H7)。



『魔笛』(撮影:中川幸作)

演出家が大ベテランの鈴木敬介であったので、指揮者には若手を起用。今では国内外で高い評価を受けている大友直人、大野和士、佐渡裕がそれぞれ指揮しました。若手の指揮者にとっても、愛知県芸術劇場大ホールという大きな舞台でオペラを指揮するという経験は貴重なものであったに違いありません。

『魔笛』と『ドン・ジョヴァンニ』は、当時、鈴木が芸術監督を務めていた日生劇場から舞台美術を借用して制作。既に定評のあった舞台は鈴木とともに選んだ歌手達の好演で、非常に洗練された公演となりました。舞台美術については、平成7年度の『さまよえるオランダ人』で初めて愛知県芸術劇場大ホールに合わせて最初からデザイン・設計・製作しました。『さまよえるオランダ人』には幽霊船が出てきますが、2階建にも相当する高さのある幽霊船が後ろ舞台から主舞台へ、舞台機構によって音もなくせり出してくるその迫力は、観客の目を釘付けにするほど圧倒的なものでした。しかも鈴木は、オーソドックスな演出の中にも、オランダ人船長を第2次世界大戦時の原爆を落とした航空機のパイロットに見立て、平和へのメッセージも込めるなど、これこそが本当にプロデュースオペラだ、と思わせる内容でした。



『さまよえるオランダ人』(写真・©木之下晃)

平成5年度から7年度までの3年間は、新設の事業団にとっては未経験のことばかりで、まだいろいろなシステムが構築されておらず、一つの公演を実施するのに多大な労力を要した時期でした。この間に、演出家を始めとするプロの制作集団の協力や助言を受けながら、事業団の職員は、制作スタッフとしてのノウハウを一つひとつ身に付けていくことができました。また、オペラのプロデュースを通して、公演の主催者として、何を発信していくべきなのかを考える、良い機会にも恵まれたのでした。

### ー栗山昌良演出2作品ー

鈴木敬介による3作品の次は、日本のオペラ演出家の草分け的存在のもう一方の雄、栗山昌良に演出を依頼しました。栗山演出の作品は、プッチーニ『トゥーランドット』(H8)、ヴェルディ『ルイーザ・ミラー』(H9)です。

栗山が選んだ『トゥーランドット』は、中国の紫禁城を舞台にした大規模な作品で、愛知県芸術劇場大ホールであれば、その雄大さを余すことなく表現できます。この劇場ならではの演目としての『トゥーランドット』の選択は、我々事業団にも嬉しいものでした。



『トゥーランドット』(撮影:中川幸作)

合唱だけでも約120名を要する大規模なオペラを、まだ経験の少ない我々が制作するには苦勞を伴いましたが、地元のオペラ団体や合唱、愛知県立芸術大学、舞台スタッフ等大勢の方々の惜しみない協力をいただくことにより、『トゥーランドット』の公演は、愛知で創るプロデュースオペラの意義が大いに発揮された事業となりました。指揮の外山雄三をはじめ、トップクラスの歌手陣で固めた音楽面の充実に加え、プッチーニが創造した壮大なスケール感を、巨大な舞台セット、絢爛豪華な衣裳や小道具、精巧な舞台機構により、目を見張るような舞台効果を存分に発揮した栗山の演出は、今でも再演を望む声が聞かれるほどです。この公演は、大成功を収め、事業団のプロデ

ュースオペラ事業の評価がさらに高まりました。

続く栗山の2作目は、指揮者に若杉弘を迎えました。若杉の要望もあり、日本初演の作品、ヴェルディ『ルイーザ・ミラー』が選ばれました。ミラノ・スカラ座など世界の一流歌劇場で主役を何シーズンにも渡って務め、この大ホールをものもしない林康子と市原多朗の二人が主役とあって、非常に質の高い舞台になりました。栗山の演出は、前作『トゥーランドット』とは打って変わり、シンプルな舞台美術の中に、シラー原作の特色でもある登場人物の心理が巧みに表現されており、充実した歌手陣と若杉の的確な指揮に導かれた名フィルの演奏とともに当時の話題作となり、NHKでも公演が放映されました。



『ルイーザ・ミラー』(撮影:加藤弘一)

### ープロデュースオペラ、待望の復活ー

平成5年度から平成9年度までは、年に1本のプロデュースオペラを制作・上演してきましたが、バブル経済崩壊の影響が現れ始め、プロデュースオペラは、平成9年度を一つの区切りとして、平成14年度まで休止せざるを得ませんでした。その間も、日生劇場との提携公演(12頁参照)や地元団体との共催公演(13頁参照)は続けていたため、愛知県芸術劇場でのオペラの灯が絶えることはありませんでしたが、同大ホールの特性を活かした事業を自ら制作するのが事業団の使命であるため、いかにして上演するかを検討した時期もありました。この時期には、富山のオーバードホール、新国立劇場、びわ湖ホールなどが相次いで開館し、厳しい経済状況の中でも、オペラを自主制作する機運が高まってきていました。

そして芸文センター開館10周年の平成14年度には、なんととしてでも10周年にふさわしいプロデュースオペラを実施しようと模索しました。結果、イタリアのパルマ王立歌劇場から舞台セットと衣裳を借用することにより、公演の質の維持と経費の削減を実現させました。演目は、ヴェルディ

中期の傑作『仮面舞踏会』で、借用した衣裳とセットは美しく、質の高いものでした。演出はこの作品からは若手を起用し、鈴木敬介のもとで学んだ高島勲に託しました。そして指揮はイタリア人のマルコ・ボエーミを招聘。コレパティトゥア<sup>2</sup>時代から培った豊富な経験に裏打ちされた指揮は、日本人歌手達に大変有益な機会を与えました。佐野成宏、佐藤しのぶ、オランダ人を熱演した直野資という歌手陣が大人のオペラの醍醐味を表現し、久々のプロデュースオペラは成功裏に幕を閉じました。



『仮面舞踏会』(撮影:中川幸作)

#### ー プロデュースオペラは次の段階へ～『椿姫』ー

平成15年度のオペラ公演は事業団にとって新たな一歩となりました。オペラの制作方法をこの年を境に大きく変えたのです。

厳しさの増す経済状況の中、平成5年度から提携していた「日生劇場オペラ教室」愛知公演及びシリーズ「オペラへの誘い」を休止、また地元オペラ団体との共催オペラ事業も毎年実施から隔年実施としたため、事業団のオペラ事業は、これまでのラインナップを再構成する必要に迫られました。上記に加え、海外歌劇場の引越公演(4頁参照)も、国内制作による国際級の公演(5頁参照)もできなくなった今、残るのはプロデュースオペラです。プロデュースオペラを核として、我々が使命としてきたオペラの振興をいかにして推進していくかを課題に、検討を重ねた結果、次のように制作していくことにしました。

- ① 舞台制作の中で委託していた業務のうち可能な部分は事業団が行い、委託制作費を軽減する。

<sup>2</sup> オペラにおいては、各役の歌手に対して、オーケストラが奏でる音をピアノで演奏し、個人練習の伴奏を務める。その際に楽譜解読や暗譜、発音矯正を手助けすることで音楽への理解を深化させる職業。

- ② 出演者は原則、公募オーディションで決定する。
- ③ 立ち稽古から本番までの期間、出演者を拘束する。
- ④ 立ち稽古は当劇場で実施する。
- ⑤ オペラ教室または子ども向けの関連事業を実施する。



『椿姫』(撮影:中川幸作)

この制作方法はすべて画期的だったのですが、特筆すべきは③でした。欧米では当たり前のことですが、日本では出演者が大学等で教えていることも少なくなく、舞台に集中できる環境にはありません。そのため、稽古は出演者全員の出欠を確認してから日程を組み、場合によっては、主役の誰かがいなくても、いることにして稽古を進めざるを得なかったのです。

平成15年度は、演目にヴェルディ『椿姫』を選びました。指揮者は、ドイツの歌劇場で照明のキュー出し<sup>3</sup>からスタートして芸術監督まで務めた児玉宏、そして演出はイタリア育ちの栗國淳でしたから、二人にとっては全員が稽古に参加するのは当たり前のことでした。出演者の理解を得るには苦労しましたが、良いものを創るためそれを実現させました。これ以降は事業団でのプロデュースオペラはほぼこの方式を踏襲しています。また、④についても何が画期的かと思われるかもしれませんが、出演者や舞台スタッフの大半は東京在住ですから、上演劇場の本舞台での稽古に入る前に、通常1ヶ月から1ヶ月半の間行われる立ち稽古は、東京で行われていました。そして、ほとんど仕上がった時点で愛知の劇場に移るというパターンでした。その立ち稽古の間、稽古の進行・管理は舞台製作会社に任せているので、我々が出

<sup>3</sup> オペラ公演での照明作業の進行は、音楽的な流れに沿って図られるため、照明転換の指示(キュー)を出すには、オペラの楽譜を解読する能力が求められる。当該公演のための稽古ピアニスト等が担当することが多い。

演者達と顔を合わせることもほとんど無く、広報のタイミングを逃してしまうこともありました。出演者全員の参加により、公演が行われる劇場で立ち稽古以降を実施すること—これは真のプロデュース公演のためにはとても当たり前のことなのですが—を、日本で実現させた公立劇場は、我々が最初となりました。

また、⑤については、日生劇場オペラ教室の代わりにオペラ教室も実施。演目に『椿姫』を選択したのも、若い人たちに、オペラらしいオペラを観ていただきたいかったためです。参加校は男子校が多く、客席を埋めたのは8割が男子生徒でしたが、2幕1場や3幕フィナーレでは涙ぐむ生徒達もいたようです。終演後のアンケートで、字幕は無くても良いと書かれていたのが印象的でした。

#### —愛知万博・委嘱作品『白鳥』—

続く平成16年度は、事業団では初めて主催するオペラ公演が一つもなかった年度でしたが、愛知では翌年度に愛知万博の開催を控えていたこともあり、事業団でも記念のオペラ公演の準備を進めました。

そして、翌17年度に臨んだのは、芸文センター開館後10年以上が経過し、それまで経験を積んできた事業団が初めて挑む新作委嘱作品のオペラ公演でした。

記念となる新作オペラの作曲は、管弦楽・声楽の両方で作曲家としての実績がある愛知県名古屋生まれの新実徳英に委嘱しました。委嘱にあたっては、作曲された作品が今後どこでも再演されやすいようにと、①2管編成程度の規模の管弦楽、②特定の地域限定の物語にしないこと、③合唱が参加できるもの、という条件を提示しました。新実は、台本作家に、数々の名CDを手掛けてきた音楽プロデューサーで詩人の川口義晴を起用。川口は全国及び世界中にみられる白鳥伝説を元に、時代を超えて出会う男女の物語『白鳥』(しろとり)を書き、新実はその台本に作曲。作品は、交響乐的な要素をより強く押し出したとのことで、“シンフォニック・オペラ”という名称を付しました。

難度の高い歌唱パートも、作曲家がもともと想定していたソプラノ浜田理恵とテノール福井敬が見事に歌い切り、現田茂夫指揮の名フィルが歯切れのいい演奏でバックアップ。演出は日本人作曲家のオペラを何作も手掛けている岩田達宗に依頼。時代も場所も明確な設定のない物語を、美しい舞台で観客にもわかりやすく仕上げたその

手腕は高く評価され、この公演は第1回名古屋音楽ペンクラブ賞及び第4回佐川吉男音楽賞<sup>4</sup>を受賞し、愛知万博の記念にふさわしい公演となり、事業団として2度目となるNHKでの放映も実現できました。



『白鳥』(撮影:中川幸作)

#### —大規模オペラ2作目『ラ・ボエーム』—

『トゥーランドット』に次ぐ大規模オペラとなった平成18年度のプッチーニ『ラ・ボエーム』公演は、2回公演のうち1回目は中高生を対象としたオペラ教室、そして公演と公演の中日を利用して行った子どものための普及事業“ワクワク、オペラ体験”を実施し、大人向けの講演会“シリーズ・トーク”と合わせて、関連事業(13頁~14頁参照)も充実した内容となりました。

『ラ・ボエーム』は新国立劇場(以下、「新国」)から舞台セットを借りて上演しました。この新国バージョンの演出家栗國淳は、衣裳や出演者を変えることで愛知バージョンの『ラ・ボエーム』にする、と強い意気込みで臨みました。新国のオペラ劇場と愛知県芸術劇場の大ホールはほとんど同じ大きさですが、新国は4面舞台であるのに対し愛知は3面舞台です。そのため、舞台セットの動かし方に舞台監督以下スタッフは苦労しましたが、舞台の大きさが同じであるため、舞台セットそのものには何も手を加える必要がなく、大きな舞台の迫力を、ほぼそのまま愛知でも伝えることができました。

日本が誇るテノール市原多朗を中心に、オーディションで他の役を選定し、主役のソプラノ二人は地元出身で東京を中心に活躍する吉田恭子と山本真由美が射止めました。そして、市原を始め多くの歌手たちからも信頼の厚い指揮者小崎雅弘が統率した名フィルと事業団独自のAC合唱団(24頁参照)の活躍は言うまでもありません。また国際的なレベルと全国的なレベル、そして助

<sup>4</sup> 音楽評論家故佐川吉男氏の業績を称え、同氏の専門分野であったオペラ等の音楽活動の振興を目的に同氏夫人により平成15年7月に設立。優れたオペラ公演等に与えられる。

演出の一般市民の参加なども含め、地元の力を合わせて創り上げるのが事業団の目指すプロデュースオペラです。『ラ・ボエーム』はまさにそのような趣旨を象徴する公演になりました。



『ラ・ボエーム』(撮影:中川幸作)

### —岩田演出2度目の受賞『ファルスタッフ』—

愛知万博の頃からしばらくは、“名古屋一人勝ち”と言われた経済状況ではありましたが、舞台芸術公演を支える県の財政状況を改善に向わせる程ではありませんでした。平成20年度にプロデュースした『ファルスタッフ』では、入場料収入を増やすため、学生向け公演をあきらめ、一般向け公演回数を2回としました。

制作方法は平成15年度から大きな変化はありませんが、この時は、キャストオーディションに、既にプロとして目覚ましい活躍をしていたソプラノ歌手からの応募があり、見事合格となりました。「演出家岩田達宗のオペラに、愛知の舞台に立ちたい。」そういう思いを秘めてのチャレンジは、事業団のプロデュースオペラの実績が呼び込んだのだと、制作現場で奮闘する事業団職員にも大いなる勇気を与えてくれました。また、それだけの舞台にしなければという思いを新たにし、邁進した結果、『ファルスタッフ』は、美しい舞台づくりと音楽面での充実度が高く評価され、第17回三菱UFJ信託音楽賞<sup>5</sup>を受賞しました。



『ファルスタッフ』(撮影:中川幸作)

5 現公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団が創設。同財団の当該年度助成公演の中から選ばれる。事業団の企画制作による愛知初演のオペラであり、実力ある充実したキャストによる素晴らしいアンサンブルと磨き上げられた完成度の高い公演が評価されての受賞。

### —共同制作『カルメン』—

この頃、国にも動きがありました。平成19年度に、文化庁が複数の劇場とオペラ団体による共同制作公演に対して助成制度を創設したのです。事業団のプロデュースオペラ公演は2年に1度となりましたので、平成20年度『ファルスタッフ』の次は平成22年度実施の予定でしたが、兵庫県立芸術文化センターの呼びかけに応じ、平成21年度は、日本オペラ連盟、兵庫県立芸術文化センター、東京二期会とともに共同制作として、佐渡裕指揮による『カルメン』を2公演上演しました。

指揮の佐渡は、当時から「題名のない音楽会」というTV番組に出演していたため、一般にもよく知られており、しかも演目も人気の高い『カルメン』でしたから、チケットは2公演とも早々に完売しました。

共同制作ではありましたが、稽古日程などの都合により、残念ながら名フィルやAC合唱団は参加できず、当地域からこのプロダクションに参加できたのは名古屋少年少女合唱団のみでした。しかし、一方では、違う劇場や団体と共同制作することにより、学ぶことも多く、貴重な機会になりました。

### —あいちトリエンナーレ2010『ホフマン物語』—

平成22年度、愛知県が初めて行う国際的な現代芸術の祭典、“あいちトリエンナーレ2010”(以下「トリエンナーレ」)が、8月から10月の2ヶ月以上に渡り開催されました。芸文センターを拠点としているため、美術だけでなく、パフォーマンスやオペラも実施することで、他の地域の芸術祭にはない特色をもたらしました。事業団は、愛知県や名古屋市などと構成する実行委員会の一員としてトリエンナーレに参画し、オペラの企画・制作・運営を担いました。

愛知県初の大規模な国際芸術祭ということで、これまでは予算面からも舞台制作の側面からも選択できなかった演目に挑戦する機会となりました。指揮者や演出家、そして出演歌手についても、検討の枠を国外まで広げることができたことから、演目は、オッフエンバックの『ホフマン物語』に、演出家はイタリア育ちの日本人で事業団のプロデュースオペラはもとより、国内外にその活躍の場を拡げていた栗國淳に、そして指揮者には、バレンボイムの愛弟子で海外のオペラハウスで活躍しているアッシャー・フィッシュを起用することとなりました。

『ホフマン物語』は、舞台設定の読み替えが可能で、現代にもアピールする要素が多くありながら、規模の大きさと歌いこなせる歌手の選択の難しさという点から上演機会の少なかったオペラです。

栗國は、国際感覚溢れた感性と、既に評価の高まっていた演出手腕をいかんなく発揮し、大ホールを巧みに利用することで演出効果を最大限に引き出し、幻想的な世界を創り上げ、観客を夢の世界に引き込みました。

タイトル・ロールのホフマン役には、メキシコ人の新進テノール歌手アルトゥーロ・チャコン＝クルス、4役を演じ分ける難役のバス歌手は、日本にもファンの多いカルロ・コロンバーラを招聘し、指名キャストオーディションで選ばれた3人のソプラノ歌手には、幸田浩子、砂川涼子、中嶋彰子、ホフマンを詩の世界に誘うミューズのメゾ・ソプラノには加賀ひとみなどを起用し、それぞれが持ち味を十分に活かした結果、高水準のオペラ公演が実現し、本公演はおかげさまで高い評価をいただきました。



『ホフマン物語』(撮影:中川幸作)

この舞台は、オペラ評論家の永竹由幸の尽力により、平成23年秋にスロベニア国立マリボール劇場で再演されました。日本の劇場が制作した作品が、演出家本人の演出とともに、海外のオペラハウスで、シーズンのオープニングに上演されたのは、恐らく日本のオペラ史上初めてのことで、目覚ましい成果を残すことができました。

#### —20周年オペラ『ランメルモールのルチア』—

平成24年秋、芸文センターも事業団も20周年を迎えました。20年前と比較して、予算はますます厳しくなる中、どのようにオペラを制作していくかが改めて課題となりました。幾度も検討を重ねた結果、稽古回数を極力削減することはできないかと考えるに至りました。つまり、本番会場である劇場の舞台上で行う稽古の前に、通常は1ヶ月

程度の期間をかけてリハーサル室等で行っている立ち稽古をせずに、日程の少ない舞台上での稽古だけで公演を迎えるというものです。

欧米のオペラハウスではこのような日程で行うことは頻繁にありますが、日本の場合、再演であっても、1年以上間が空いている場合、またはキャストが一部変更になった場合は、通常一から稽古をし直すのが普通です。ただ、日本のオペラ史も100年を超え、場数を踏んだ歌手やスタッフも増え、機が熟してきていると思いました。

これは新たな挑戦でした。演出家の岩田達宗は、これが成功すれば、全国的にもオペラの制作に好影響を与えることができると、この挑戦に賛同してくれました。条件としては、岩田がかつて演出した演目で、できるだけ出演者も同じにすること。その結果、演目はドニゼッティ『ランメルモールのルチア』に決定しました。

ところが、以前に出演したキャストは、タイトル・ロールであるルチア役の佐藤美枝子とエドガルド役の村上敏明のみで、それ以外は愛知版として新たにキャスティングすることになりました。また、合唱もオーケストラも、この演目を全曲上演するのは初めてです。稽古日数の少ないことがどう本番に影響するのか不安ではありましたが、名フィルと共同招聘した、オペラもコンサートも経験豊富なイタリア人指揮者マッシモ・ザネッティの優れた音楽的なリードと、演出家との息の合った協同制作により、『ランメルモールのルチア』は20周年にふさわしい公演となりました。

本格的なオペラ上演が可能なホールとして日本で初めて開館した劇場としての誇りを持って、事業団では、今後も、愛知県芸術劇場において、日本のオペラ界に一石を投じる様ないろいろな挑戦をしていきたいと思えます。

(中沢・大脇・水野・小出)



『ランメルモールのルチア』(撮影:中川幸作)



## オペラ教室

### 一日生劇場との提携一

「青少年のための『日生劇場オペラ教室』(以下「日生オペラ」)は、1979年(昭和54年)から日生劇場が東京で実施していた事業を、平成5年度から、事業団との共催により愛知でも開始したものでした。高校生や中学生を対象に、良質のオペラ公演を学校の授業として、愛知県芸術劇場大ホールという本格的なオペラ劇場で観賞してもらい、特に若い世代にオペラを啓蒙・普及させることを目的としていました。

事業の特色としては、次の点が挙げられます。

- ① 全ソリストを公募オーディションで選抜
- ② 開催地で全ての稽古を実施
- ③ 日本語による訳詞上演
- ④ 事業の主は学校公演であり、一般公演は、学校公演と基本的に同じ内容のものを、普及型事業として実施

第1回『蝶々夫人』を皮切りに、事業が終了となった平成13年度『夕鶴』まで、この特色は一貫して維持されました。

特に①のオーディションは、事業団側からの提案が取り入れられたものであり、その有効性が認められ、後に日生劇場の東京での公演でも採用される事になりました。

このオーディションで、度々ソリストとして選考されることが、その後の活動基盤の一つとなった歌手も少なくありません。彼らは東京二期会や藤原歌劇団に所属して全国的に活躍を続けていたり、活動拠点を名古屋に構え、地元の歌手を中心とした意欲的な公演を展開したりしており、オペラ教室での貴重な舞台経験が活かされています。

さらに、事業団が組織するAC合唱団についても、日生劇場へ起用を働きかけた結果、2度の『夕鶴』公演を除く7演目に出演することとなりました。公演の都度オーディションで選抜された団員は、貴重な舞台経験を通して、事業団プロデュースオペラの中核を担う存在へと成長していきました。日生オペラの1演目3公演という本番回数は、プロデュースオペラの1演目2公演を上回り、《本番が一番の勉強》と言われるように、当地における舞台人の育成面で重要な役割を担っていました。特に、平成10年度～平成13年度のプロデュースオペラ休止期間におけるオペラ教室の存在意義は、非常に大きなものでした。

一方、観客の育成面でも日生オペラは大きな成果を挙げ、9年間の17公演(台風による警報発令で休校の為、中止1公演)で、実に延べ52校、約24,000人の高校生などにオペラを鑑賞していただきました。多感な思春期に視覚・聴覚と複数の感覚に訴えかけ、心に響くオペラという芸術の鑑賞機会を持つ事は、これからの国際人に必要な教養の素地を作る上でも重要であったと言えるでしょう。日生オペラを鑑賞した生徒達は、開演まではお喋りや客席内を動き回るなど、初めてに等しい劇場体験で落ち着かない様子も見受けられましたが、ひとたび上演が始まると、オペラの世界に入り込み、カーテンコールで熱烈な拍手を送っていたのがとても印象的でした。

ソリストなどの舞台人と青少年を中心とする観客の双方の育成に大きな成果を上げていた日生オペラでしたが、舞台セット等が日生劇場の所有しているものに縛られるため、演目の選択肢が限られる他、劇場の規模や機構が愛知県芸術劇場と異なるため、問題がなかった訳ではありません。

それでも、制作主体である日生劇場側の全面的な協力もあり、オペラ制作のノウハウを内包した形でのプロダクションは、後のプロデュースオペラを事業団が主導で制作していく上で、大きなノウハウの蓄積となった事に違いありませんでした。現在のプロデュースオペラ制作形態は、日生オペラなくしては実現し得なかったと言っても過言ではないのです。(水野)



『愛の妙薬』(撮影:加藤弘一)

## 地元オペラ団体との共催事業

事業団では、“創る”公立劇場の担い手として事業を実施してきましたが、“創る”だけではなく、地元のオペラ団体との共催事業も長年実施しています。公立劇場は県民の劇場であり、本格的なオペラ上演が可能な愛知県芸術劇場大ホールを地元のオペラ団体に使用していただくことで、自分達の劇場であることをより感じてもらい、かつ県民へのオペラ鑑賞機会の提供回数を増やすことを目的としていました。平成6年度から15年度までは年に1本、名古屋オペラ協会と名古屋二期会とで交互に上演していただきました。

ところが、平成7年度をピークに、事業団の負担金も減額せざるを得なくなり、さらには、名古屋オペラ協会が一時活動を控えていたこともあり、その後は、平成17年度から2年に1度の開催となり、いずれも、名古屋二期会との共催でオペラ公演を継続して実施しています。

愛知県芸術劇場大ホールは地元オペラ団体も待ち望んでいた劇場でした。この共催事業では、全国的にも話題となったプーランク『カルメル会修道女の対話』や原嘉寿子『祝い歌が流れる夜に』など意欲的な作品も取り上げられ、地元のオペラ鑑賞の幅を広げるなど、芸術文化の振興に貢献してきました。

経済的な状況がどこまで許すかが問題ですが、大ホールを地元のオペラ団体が使用するのを支援する必要性は、今後も変わらないでしょう。

## オペラの関連事業

### －舞台芸術により親しむための連続講座「シリーズ・トーク」－

芸文センターが開館した当時、日本はバブル経済の真ただ中でしたが、それは同時に、“働き蟻”と揶揄された日本人にとって、働くばかりだけでなく、生活を楽しむ余裕ができた時期でもありました。芸術というのは一部の人の楽しみでは既になくなっており、より広く門戸を開き、知らなかった人にも芸術の良さを知ってもらい、人生をより豊かなものにしてもらいたい。“創る”公立の劇場には、人々がそれぞれの人生を豊かに彩るために、舞台芸術と出会う機会を提供するという使命があります。人生を楽しむことに長けている欧米の劇場などでは、20年前のその当時、既に、ワークショップやバックステージツアー、リハー

サルのパブリックなどが盛んに行われていました。そこで、生まれたのが「シリーズ・トーク」（以下「トーク」）です。

「トーク」はそもそもオペラ公演の観客を増加させるための啓発事業です。オペラは視覚的にも聴覚的にも非常に多くの要素がありますので、それらをひも解くことで、オペラの良さを知ってもらい、楽しんでいただこう、というのが趣旨ですが、一方的な講演会ではなく、わかりやすさを重視し、聴き手または司会者との対談形式にしています。話の内容に沿った実演（実技や演出の指導なども含む）も入れ、オペラ公演の演出家や指揮者、出演者など、直接的な関係者を始め多彩な講師陣を招いています。また、公演期間中であれば、実際のオペラの舞台に上がってもらうバックステージツアーも加えるなど、“創る”劇場ならではの内容を盛り込んでいます。

普段接する機会の無いアーティストやスタッフの生の声をじっくり聞くことを通じて、まだオペラを観たことの無い参加者が、実際に公演に足を運ぶ契機ともなっています。

オペラを普及啓発するためのオペラの関連事業ではある一方、最近では講演会として聴きに来られる方もあり、一つの独立した事業として成り立っている感もありますが、「トークで事前に勉強して、オペラの内容を楽しむことができた。」というお声をいただく時は、企画意図が活かされていることを実感します。



「シリーズ・トーク『ホフマン物語』第2回

### －公開ゲネプロの実施－

平成9年度に名古屋テレビ放送との共催でメトロポリタン歌劇場公演を行いました。この時、ゲネプロを中高生に無料で公開しました。恐らくこのような大規模な公演では、日本で初めてのことです。

「ゲネプロ」はドイツ語 General Probe (ゲネラル・プローベ) の略で、本番前に本番通りに行う最終の通し稽古のことを意味します。英語では Final Dress Rehearsal と言います。

若い世代への働きかけということで、メトロポリタン歌劇場の協力もあり、ゲネプロの無料公開をすることが決定した時は、大変な反響をいただきました。この時の公演では、世界3大テノールと言われたうちの二人、パヴァロッチェとドミンゴが出演していたため、大人の方からも問い合わせが相次ぎ、我々も対応に苦慮しました。

ゲネプロは本番通りに行うと言っても、あくまでも稽古です。どうしても演出家が気に入らないことがあれば、途中で止めることもありますし、止めるまでにいかになくても、演出助手が舞台を動き回っていることもあります。しかしながら、そういう場面が見られること自体、めったにない機会だからと、終了後のアンケートでも感激した中高生達の声が多く寄せられました。その後も機会があればゲネプロを公開していますが、本番を優先した日程を組んでいるため、ゲネプロの公開日時が中高生が参加しにくい状況になってしまうことも多く、課題はありますが、今後も引き続き取り組みたいと思っております。

#### －「ワクワク、オペラ体験」－

「ワクワク、オペラ体験」は、平成18年度のプロデュースオペラ『ラ・ボエーム』の時から始めた子ども向けのオペラ普及事業です(25頁参照)。対象は小学校高学年から中学3年まで。

プロデュースオペラの公演期間中のオフ日を利用して実施する事業で、演出家に1時間半程度の内容で仕立ててもらっています。

事業団の意向は、①オペラの1場面を見せてどんな舞台芸術なのかを知ってもらう、②歌手の声で子どもたちをびっくりさせる、③いろんなスタッフが関わっていることを知ってもらう、④実際に舞台上がって舞台装置や小道具を間近で見たり、舞台上で声を出して見たりという経験してもらう、という4点です。これらを含めて90分の子ども向け事業として、その公演時の演出家に創ってもらい、また演出家には、当日も講師として子どもたちに説明もしてもらうものです。

これは、子どもたちにオペラだけではなく、劇場という場所を知ってもらうための企画でもあり、子どもの頃から自分たちの劇場であるという意識を持ってもらい、大人になったら観客として、

スタッフとして、また出演者として戻ってきてもらうことを期待して開催しているものです。

スタッフ達も協力的で、毎回非常におもしろい趣向がなされ、子どもたちだけでなく、付添いの保護者も大変楽しんでくれます。

今後もしできる限り続けていきたい企画です。

#### －オペラ・ワークショップ－

“創る” 公立劇場としての使命は、観客作りの他に、舞台の創り手の育成という使命もあります。そのために実施してきたのが「オペラ・ワークショップ」です。歌手だけでなく、オペラ制作において必要不可欠なコレペティトゥアや指揮者も対象とし、短い期間ではありますが集中して研修できる機会を提供してきました(25頁参照)。

特に平成15年度の『椿姫』を指揮した児玉宏によるオペラ・ワークショップは、受講した歌手達に多大な影響を与えました。児玉は長年ドイツの歌劇場で指揮や芸術監督を務めており、豊富な経験に裏打ちされた、またプロフェッショナルな厳しさを持った教え方は、受講生には衝撃的だったようです。中には、これまで一体何を勉強してきたかわからなくなったり、あらためて自分の成果を試すためにドイツに渡ったりした人もいて、様々な成果があったワークショップでした。

実はワークショップは受講した本人だけのためではなく、事業を行う我々にとっても人材を探す貴重な機会となりました。これらのワークショップの受講者に、後日、実際に事業団主催事業への出演などをお願いしたこともあります。

オペラ・ワークショップは指導していただくのに適切な人材の確保や日程の調整などが困難で、毎年続けていけないのが実情ですが、できるだけ続けていきたい事業です。(大脇)



「ワクワク、オペラ体験－オペラ『ラ・ボエーム』」より  
(撮影:中川幸作)

## 愛知県ふるさと芸能祭

愛知県内各地域には様々な民俗芸能、伝統芸能が伝承されており、それぞれが地域の個性として、本県文化の特色になっています。愛知県ふるさと芸能祭はこうした郷土文化について県民の関心を高め、その素晴らしさを再発見してもらうとともに、伝統文化の保存伝承活動の振興を図ることを趣旨として行ってきました。実施については、平成3年度から愛知県（文化振興局）が主体となっていました。平成10年度に事業団に事務委譲され、平成19年度までは、事業団と愛知県の共催という形で実施しました。平成20年度からは、県、県教育委員会等と実行委員会を組織し、その事務局として事業団が事業実施を担うという形になりました。

なお、この事業では企画検討会議を設置し、企画概要の検討や出演団体の選定等を行ってきました。委員には、景山正隆（社団法人義太夫協会会長）、三隅治雄（財団法人民族芸術交流財団理事長）（共に平成16年度まで就任）、長谷川栄胤（御園座代表取締役社長）、安田文吉（南山大学人文学部教授）、鬼頭秀明（愛知県文化財保護審議会委員、17年度から就任）の各氏に就任していただきました（平成22年度からは同検討会議廃止に伴い、安田（平成23年度まで）・長谷川・鬼頭の3人が引き続きアドバイザーに就任）。公演時には、葛西聖司アナウンサーの司会のもと、各人が解説も行い、好評を博しました。

平成3年度から平成6年度までは、県内外の山車、花祭り、古典万歳等主に民俗芸能を中心に芸能団体を紹介しました。初年度の平成3年度は、5日間開催し、15,000人を超える入場者があるなど大盛況でした。

平成7年度と平成8年度は、「ふるさと歌舞伎大集合」と題し、歌舞伎特集として、県内の団体とともに、山形、埼玉、岐阜、静岡、岡山、愛媛、福岡の各県から団体が出演しました。平成9年度は、「ふるさとの獅子と歌舞伎」と題して、県内と、群馬、高知各県の地芝居と、県内外の獅子芝居団体、獅子舞保存会が出演しました。

平成10年度からは事業団が愛知県と共催し、「ふるさとの田楽と歌舞伎」で再スタートし、この年度以降、会場は毎年愛知県芸術劇場大ホールになりました。以後平成22年度まで（平成13年度のみ歌舞伎特集）、地芝居と民俗芸能が揃い踏みするスタイルとなりました。中でも平成20年度に

出演した長野県の大鹿歌舞伎保存会は、300余年の歴史があり、地芝居で初めて国立劇場で上演するなど全国に知られた団体で、大いに注目を集めました。また、平成19年度は、愛知芸術文化センター開館15周年記念公演として、中村橋之助をトークゲストに迎え、祝祭年に相応しく華を添えました。

さらに平成20年度からは、会場当日、大ホールホワイエに市町村ブースを設置し、アートプラザでは、「愛知の民俗芸能」他の上映会を、県図書館では伝統芸能、民俗芸能に関する図書、資料の展示を行うなど、芸文センターの協力で関連事業も充実させました。

この事業を通じて、県内には、約20の地芝居の団体が熱心に活動していること、また、岐阜・三重・静岡を含めた東海地域は、全国約200ある団体の3分の1を占める団体が活動する地芝居の宝庫であることを、多くの方に知らせることができました。一方、民俗芸能についても、古来より様々な民俗伝統芸能が地域の人々に大切に受け継がれ今日も息づいていることを伝えることができました。

なお、ふるさと芸能祭は平成23年度をもって事業団の事業としては終了することになりましたが、平成24年度からは、再び県が主催する新たな事業として、その趣旨を継承することになりました。（富田）



「ふるさとの歌舞伎」（小原歌舞伎保存会）

（撮影：服部真由子）

推移図Ⅱ

コンサート事業の推移		(愛知県芸術劇場コンサートホール)		※本図記載の人名について、その専門は氏名に続く括弧内に表記しています。38頁の凡例参照。		
年度	海外オーケストラ	国内オーケストラ	オルガン			
H4	セント・マーチン・アカデミー管弦楽団 サー・ネヴィル・マリナー(指)他		マルティン・ハーゼンバック 「レクチャーコンサート」			
	バイエルン国立歌劇場管弦楽団 ウォルフガング・サヴァリッシュ(指)他		マルティン・ハーゼンバック 「オルガン披露」			
			コンサートシリーズ	オルガン普及		
H5	フランクフルト放送交響楽団 ドミトリー・キタエンコ(指) 伊藤 恵(P)	NHK交響楽団 尾高忠明(指) 伊藤 恵(P)	1 ハイジ・エマート			
			2 ジリアン・ウィーア			
			3 カロロ・カーリー			
			4 大原佳代			
H6	ホルティモア交響楽団 デイヴィット・ジンマン(指) ヨーヨー・マ(Vc)	名古屋フィル特別 竹本泰蔵(指) 白石禮子(Vn)	5 レクチャー: 廣野嗣雄			
			6 ジャン・ボワイエ			
			7 ルトウガー・ローマン、田宮聖二(Tp)			
H7	スコットランド室内管弦楽団 ジョセフ・スウェンセン(指) シュテファン・ヴラダー(P)	NHK交響楽団名古屋公演 北原幸男(指) ポール・メイエ(Cl)	8 レクチャー: ヴァインフリート・ペーニヒ	ホリディ①新山恵理		
			9 エドガー・クラップ			ホリディ②久野将健
H8	フィラデルフィア交響楽団 ウォルフガング・サヴァリッシュ (P・指)他 ※会場:大ホール		11 フランソワ・エスピナス	ホリディ③青田絹江	H8 室内楽 原田幸一郎(Vn) 他	
			12 ミシェル・ブヴァール			
H9		N響定期演奏会 県芸術劇場シリーズ ①ウォルフガング・ サヴァリッシュ(指) マーク・ベスカノフ(Vn)	13 開館5周年記念 マルティン・ハーゼンバック (ウィーンの文化とオルガン音楽)	レクチャー: 吉田 文他		
			14 フロリアン・バギツチュ (ウィーンの文化とオルガン音楽)			
H10		②エフゲニー・ スヴェトラノフ(指) ニコライ・ベトロフ(P)	15 ステファノ・インノチエンティ (イタリア・ヨーロッパとオルガン音楽)			
			16 ダニエル・モレ (イタリア・ヨーロッパとオルガン音楽)			
			17 藤枝照久 & AC合唱団 (イタリア・ヨーロッパとオルガン音楽)			
			コンサートシリーズ ☆名フィル出演による公演			
			年間テーマ		「音楽への扉」I～III (Org含む)	
H11		③レナード・スラトキン(指) ジョン・ブラウニング(P)		メロディ	1テーマ 池辺晋一郎(企画・話)他	2古楽 鈴木雅明(Org)
					3現代 木村まり(Vn) 他	4声楽 碓目裕夫(P) 他
					5テーマ 橋場めぐみ(P)	6Org 小林英之
H12	フランクフルト放送交響楽団 エリアフ・インバル(指) [共催]	④準・メルクル(指) 竹澤恭子(Vn)		リズム	1テーマ 池辺晋一郎(企画・話)他	2Org 三浦はつみ
					3テーマ 清水直子(Va) 他	4現代 野平一郎(P)
					5声楽 森島英子(P) 他	6古楽 浜中康子(バロックダンス) 他
H13		⑤ウォルフガング・ サヴァリッシュ(指) マリアーナ・リボヴエック(Ms)		ハーモニー	1テーマ 池辺晋一郎(企画・話)他	2Org 廣江理枝
					3テーマ クアルテット・エクセルシオ他	4声楽 小崎雅弘(指) 他
					5古楽 小倉貴久子(フォルテピアノ)	6現代 御喜美江(アコーディオン) 他
			Xmas はオルガンだ!			
			年間テーマ		「音楽への扉」IV～VI	
H14	ワイマール州立歌劇場管弦楽団 ゲルト・アルブレヒト(指) 及川浩治(P) [共催]	⑥スタニスラフ・ スクロヴァチェフスキ(指)	1藤枝照久	オペラは声だ!	1 木下美穂子(S) 他	2 佐野茂宏(T) 他
					3 足立桃子(企画・P) 他	4☆ ガラ『仮面舞踏会』抜粋 他 ポエーミ(指) 他
H15		⑦広上淳一(指) ボリス・ベルキン(Vn)他	2三浦はつみ	オペラはドラマだ!	1 岩田達宏(企画) 他	2 佐藤亜希子(S) 他
					3 緑川まり(S) 他	4☆ ガラ『椿姫』抜粋 他 小崎雅弘(指) 他
H16		⑧ヨアフ・タルミ(指) ジェームズ・エーネス(Vn)	3吉田 恵	オペラ・ フォーヴァー	1☆ 『リゴレット』(セミ・ステージ) 大勝秀也(指) 他	2 中嶋彰子(S)、土橋 薫(Org)
					3 田村麻子(S) 他	4 市原多朗(企画・T) 他
					愛・地球博関連 フラチナ・ ガラ☆	井崎正浩(指)、清水直子(Va) 他
			年間テーマ		「音楽への扉」VII～X	
H17	PMFオーケストラ名古屋公演 ネルロ・サンティ(指)[共催]		4新山恵理 及川豊(T)	(愛・地球博関連) 感動・クラシック 新発見!	1 井上さつき(企画) 他	2 上野 真(P)
					3 高橋薫子(S) 他	4☆ 児玉 宏(指)
H18		⑨シャルル・デュワ(指) ジャン・フィリップ・コラール(P)	5米山麻美 佐藤真由美(マリンバ)	時を駆ける モーツァルト	1 朝枝信彦(Vn) 他	2 久元祐子(P)
					3 池田直樹(B/Br) 他	4☆ 迫 昭嘉(指・P) 小菅 優(P)
H19		⑩ヘルベルト・ フロムシュテット(指) クリスティアン・ゲルハール(Br)	サマー・オルガン・コンサート 勝山雅世、菅沼真一(Tp)	時代を拓いた この一曲	1 米元響子(Vn) 他	2 廻 由美子(P)
					3 林 康子(S) 他	4☆ 高関 健(指)
H20		⑪ドミトリー・キタエンコ(指) 上原彩子(P)	6近藤 岳 堀江裕介(Sax)	扉の向こうの 音楽の世界	1 池辺晋一郎(指・話) 他	2 上野 真(P)
					3 クアルテット・エクセルシオ 他	4☆ 「オペラ・ガラ」小崎雅弘(指)他
			THEオルガンDAY			
H21	フランス国立リヨン歌劇場管弦楽団 大野和士(指)	⑫セミオン・ ピシュコフ(指) アレクセイ・ヴォロディン(P)	7桑山彩子 照喜名有希子(Tb)	①勝山雅世	☆ 『ナブッコ』(演奏会形式) 柳澤寿男(指)、直野 資(Br)、大岩千穂(S)、AC他	
					(ナビゲーター)	「音の楽園」I～III
H22		⑬ネルロ・サンティ(指)	8山本真希 栃本浩規(Tp)	②高橋博子	I: チェロ (堤)	1 堤 剛(Vc)
					2 堤 剛、石橋栄実(S) 他	
					3☆ 下野竜也(指)、堤 剛、清水直子(Va)	
H23		⑭ネーメ・ヤルヴィ(指) セルゲイ・ツィンマーマン(Vn)	9浅井美紀 二宮咲子(S)	③洪澤久美	II: マクベス (服部)	1 服部容子(P)、中嶋彰子(S)、樋口達哉(T)
					2 服部容子(P)、清水華澄(Ms)、須藤慎吾(Br)	
					3☆ 『マクベス』(演奏会形式) 時任康文(指)、堀内康雄(Br)、田口智子(S) 他	
H24		⑮準・メルクル(指) ヘルベルト・シュフ(P)	10藤枝照久 山野雅美(F)	④大塚直哉	III: ワーグナー (西村)	1 西村 朗(話)、Duo YAMAMOTO(P)
					2 西村 朗(話)、野原みどり(P) 他	
					3 西村 朗(話)、広瀬悦子(P) 他	

## 海外オーケストラ事業

平成4年度の芸文センター開館記念事業（1頁参照）におけるセント・マーチン・アカデミー管弦楽団、ならびに、バイエルン国立歌劇場のオーケストラコンサートに続き、事業団では、生の音響を重視したクラシック音楽専用の愛知県芸術劇場コンサートホールの特性を最大限活かすべく、平成5年度から平成8年度まで、各年度1回、海外のオーケストラによる公演を行いました。有名チェロ奏者、ヨーヨー・マを独奏に迎えての、ドヴォルザーク『チェロ協奏曲』他を披露したジンマン指揮ボルティモア交響楽団（平成6年度）等、芸文センター創生期に、多くの県民の皆様にお聴きいただく機会を提供しました。

その後、主催事業としての海外オーケストラ公演は、地元の音楽文化の振興を図るため、名フィルを積極的に起用する一方で、わが国屈指の実力を誇る、NHK交響楽団の定期演奏会を招聘する事業へと軸足を移すことになりました。

なお、平成22年度においては、今や、世界を股に駆けて大活躍の指揮者大野和士とフランス国立リヨン歌劇場管弦楽団によるコンサートを開催しました。さらに、大野には、子どもを対象にした、とてもユニークかつ啓蒙的なワークショップの講師を依頼しました。音楽芸術が社会に果たす役割を大切にする大野のリードにより、この清新な試みに参加した地域の子どもの始めは硬かった表情も、次第に嬉々としたものへと変わっていきました。音楽文化における新たな時代の息吹が感じられる関連事業でした（25頁参照）。



ボルティモア交響楽団（撮影：中川幸作）

## 国内オーケストラによる事業

### －NHK交響楽団定期演奏会－

事業団では、NHK交響楽団の定期演奏会（愛知県芸術劇場シリーズ）を平成9年度から毎年度1回のペースで開催しています（平成17年度を除く）。これは、同楽団の特別演奏会としてではなく、東京で行っている定期演奏会プログラムの一つを、そのままの構成で、愛知県芸術劇場コンサートホールでお聴きいただくものです。

毎年、東京へわざわざ足を運ぶことなく、サヴァリッシュ、スクロヴァチェフスキ、デュトワ、サンティといった世界的な指揮者やブラウニング、竹澤恭子、ゲルハーヘル等の実力派ソリストによるハイレベルで華麗な演奏を同コンサートホールで堪能していただいています。

なお、事業団では、さらにこの事業を地元の音楽家の育成の一助として活用するため、平成20年度から、同楽団楽員を講師に迎えての「公開レッスン」を実施しております（25頁参照）。（中沢）



平成19年度NHK交響楽団定期演奏会（撮影：中川幸作）

## オルガンコンサート

### ーオルガンコンサートシリーズからXmasへー

愛知県芸術劇場コンサートホールの正面に備え付けられた大オルガン。それは当時、日本における新しいコンサートホールの象徴でもありました。サントリーホールが、カラヤンのアドバイスにより、日本初のステージを囲むワインヤード形式を採用した事は有名ですが、そのサントリーホールのもう一つの象徴が正面に据えられた大オルガンでした。

ヨーロッパでは、特にドイツ語圏を中心に、オルガンが設置されたホールが存在します。ウィーンのムジークフェライン、アムステルダムコンセルトヘボウ、ライプツィヒのゲヴァントハウスなどがそれです。

平成5年度からスタートした「オルガンコンサートシリーズ」は開館記念事業に続く形で年3～4回のペースで実施しました。このシリーズの特色は次の点が挙げられます。

- ① 国内最大級、世界的に見ても大規模のオルガンの魅力を最大限に発揮できる内容
- ② 海外に在住している実績あるオルガニストを中心に招聘

この方針に基づき、海外から招聘した実力ある若手からベテランのオルガニストにより、まずは、この大オルガンを弾きこなしてもらい、オルガン音楽の醍醐味をお客様に味わっていただきました。なお、本シリーズNo.3からNo.14までは、舞台上に生花による装飾を施しました。お客様にコンサートを視覚的にも楽しんでいただくという主催者としての心意気の現れでした。



No.9「エドガー・クラップ」(撮影：中川幸作)

もう一つ、このシリーズのオルガンコンサートを語る上で、忘れてはならない存在として、オルガン・アドバイザーがあります。インターネットはおろか、パソコンも無かった当時では、オルガ

ンという限られたジャンルに関する情報を得る事は非常に困難でした。このため、オルガン音楽に精通したアドバイザーが必要だったのです。一人は当ホールのオルガンの産みの親とも言うべき存在のオルガンビルダー・望月廣幸、もう一人は日本人オルガニストとして国内外で活躍していた小林英之に委嘱しました。

アドバイザーの役割は多岐にわたり、オルガニストに関する情報提供から演奏曲目についてのアドバイス、プログラムなどの監修、コンサート当日の進行まで、時には招聘オルガニストとの連絡役で頼りにする事もありました。

二人のアドバイザーによる適切なオルガニストの人選に加え、開館からの勢いと、初めて見る大オルガンの話題性もあって、オルガン音楽という狭いジャンルにもかかわらず、好調な集客で推移しました。

様々なオルガニストによるコンサートがありましたが、その中でも特徴的だったのは、No.8「オルガンレクチャーコンサート」でしょう。演奏者ではなく、アドバイザーによる判りやすいオルガンの説明と、オルガニストの演奏をうまくミックスさせた企画で、その後の普及型オルガン事業のスタイルの原型となりました。また、No.15「ステファノ・インノチェンティ」、No.16「ダニエル・モレ」、No.17「藤枝照久」で同時開催した「来て、見て、弾いて、パイプオルガン」は、まさに先駆的な企画でした。これは、最近では一般的に実施されている、子ども向けの体験型コンサートです。中でも希望者の中から一部の子どもたちがステージに上がり間近でオルガンを見て、短い時間ではありましたが、実際に大オルガンの音を鳴らし、顔を上気させながら客席に戻る様子は印象的でした。

しかしながら、芸文センター開館後5年も経つころには開館フィーバーもすっかり冷め、大オルガンへの関心も一旦おさまりました。オルガンコンサートシリーズの役割も終わったと思われるため、オルガンコンサートは、平成11年度から年間テーマのもとにコンサートをシリーズ化した「音楽への扉」(20頁参照)へ組み込まれる形に移行することとなりました。このような状況を考慮し、二人体制だったアドバイザー制度も、同じタイミングで一人体制となりました。さらに、国内のオルガニスト中心の組み立てになった事、事業団職員の経験がある程度蓄積した事などを考慮し、平成13年度からは、アドバイザーを置かな

いこととしました。

この「音楽への扉」でのオルガン事業の特色は次の点です。

- ① 層の厚くなってきた邦人オルガニストの起用
- ② シリーズ全体のテーマに沿った企画内容
- ③ 廉価なチケット料金

平成14年度になると、事業団の看板事業でもあるオペラをさらに普及しようと、「音楽への扉」は、企画内容をオペラに特化することになりました(20頁～21頁参照)。この変更により、オルガンを主体とする公演をシリーズのラインナップに組み込む事は難しくなり、オルガンコンサートについては、「Xmasはオルガンだ!」と称する独立した年1回の公演を展開していくことになりました。

特色としては、次の点です。

- ① クリスマスにちなんだ企画
- ② イメージ画像や演奏風景の投影(16年度～)
- ③ 前シリーズ同様の廉価なチケット料金

②は、他館でも導入され始めていたものですが、オルガン本体で演奏する場合、お客様からオルガニストは遠く、しかも、演奏中はオルガニストの背後からの様子しか見ることが出来ません。しかし、リアルタイムで大型のスクリーンに映し出される演奏風景の投影により、オルガニストの手元やオルガン特有の足の動きなどを客席から見る事ができるようになったのです。多彩な音色、オーケストラに匹敵する音響が魅力のオルガンコンサートに、視覚的な楽しみが加わった事で、来場者に好評を博しております。

また、共演についても、トランペット、声楽といった定番から、サクソフォーンやフルートというオルガンとの共演としては珍しいものまで、多彩な組み合わせを試みています。中でも、オルガンとは対照的な楽器と言えるマリンバとの組み合わせは、意外にも好評で、今でも話題に出るほどです。

「Xmasはオルガンだ!」は平成24年度で10回目の節目を迎え、クリスマス恒例のコンサートとして定着してきました。さらに10年、20年と長く愛されるコンサートとなるよう、より一層の工夫を凝らしていきたいと思っております。(水野)



「Xmas はオルガンだ!Ⅷ」(撮影:中川幸作)

## THE オルガンDAY

### ワンコイン・45分で広がるオルガンの魅力

愛知県芸術劇場コンサートホールにある国内最大級のオルガン(ドイツ・カールシュッケ社製作、93ストップ、手鍵盤5段ペダル付、パイプ本数6883本)を、もっと気軽に、そして身近に知って楽しんでいただこうと、平成21年度に始まったのが、“夏”のオルガンシリーズ「THE オルガンDAY(ザ・オルガン・デイ)」です。

夏休みの平日に、ワンコイン・500円(小・中学生は100円)の入場料で45分間の公演を開催。また、より多くの方にご来場いただければと、昼・夜の1日2公演としました。昼は、夏休みの親子を対象とした「子どものためのパイプオルガン入門コンサート」、夜は仕事帰りや夕食後などの大人を対象とした「大人のためのパイプオルガン名曲コンサート」とし、それぞれ普段の生活の中でもよく耳にしているような、親しみやすい曲を中心に、演奏者自身がオルガンの仕組みや曲紹介を自分の言葉で行うなど、気軽に身近な雰囲気を出しました。演奏者は、全国的に活躍されており、演奏はもちろんのこと、子ども向けレクチャーなどの実績もある方をお願いしています。

また4回目の平成24年度からは、昼の部終了後に「オルガン見学会」を開催。パイプ、鍵盤、ペダルなどを間近で見ること、オルガンにより一層の興味を持っていただけると幸いに思います。

(小出)



THE オルガンDAY vol.2 (撮影:中川幸作)



## コンサートシリーズ「音楽への扉」

### ークラシック音楽の世界へようこそー

平成11年度より、地域におけるクラシック音楽鑑賞人口の拡充を目指し、これまで、興味はあってもなかなかコンサート会場に足を運ぶことがなかった人たちを主対象として、新たな企画を立ち上げることになりました。

新たな企画は、クラシック音楽に対して、今一歩向きあうのをためらっていた人たちを音楽の世界へ迎え入れるための《扉》となるように「コンサートシリーズ『音楽への扉』」（以下「音楽への扉」）という名称にしました。

音楽への扉を開いていただくために、つまり、コンサート会場へ足を運ばない人にかに来ていただけるか、それが我々の課題でした。まずはネックとなる問題を取り除こうと、考えた方針は次のとおりです。

- ① 低廉な料金設定
- ② 定期的に来場できるような日程や時間帯の設定
- ③ 何を聴いたらいいのかわからない人のために、クラシックの中のいろいろなジャンルの音楽を聴いてもらい、好みの音楽を探してもらう
- ④ 気軽さを感じてもらうために、わかりやすい年間のテーマを設けたり、出演者による簡単な解説を入れるなどの工夫をする

上記①の低廉な料金設定については、若い人でもチケットを買うことのできる金額ということで、1,000円でスタートしました。映画の学生料金より安い料金でした。また全公演を聴いてみようと言う動機になるよう、割引率の高いシリーズ全体のセット券を設定しました。さらに幼い子を持つご家族の方々にも来ていただけるよう託児サービスも合わせて実施しました。

「音楽への扉」は10年間実施しましたが、その内容から3年ごとに大きく分けることができます。最初の3年間は音楽の基礎的な3大要素を、次の3年間はオペラに特化して、その次の3年間は再び多彩な音楽を聴いていただきました。最終の1年はそれまでの9年間を振り返った企画としました。

### ー音楽の3大要素編ー

平成11年度から3年間は音楽の3大要素「メロディ」「リズム」「ハーモニー」をそれぞれ年間テ

ーマに取り上げました。この3年間は、各年度の10月から3月まで毎月1回の頻度で年6回のコンサートを実施。当日でも気軽に来ていただけるよう全自由席にしました。

各年の1回目のコンサートには、作曲家の池辺晋一郎を招き、音楽の3大要素を解説してもらい、軽妙でわかりやすい語り口が好評を博しました。

この3年間では、いろんなジャンルの音楽を聴いていただくことも目的としており、各年のテーマに合わせた「テーマコンサートⅠ、Ⅱ」「古楽」「声楽」「現代音楽」「オルガン」というジャンルで6回を構成。楽器ではフォルテピアノなどの古楽器からアコーディオンやコンピューター制御されたヴァイオリンによる演奏、声楽、オルガンなど、多彩な音楽をシリーズにして聴いていただきました。いずれの回も好評で、ご来場いただいたお客様はクラシック音楽への扉をしっかりと開いてくださったのではないかと思います。

また、事業団オペラ公演に出演するAC合唱団にも出演の機会を設けました。AC合唱団は、その活動の幅を広げることにより、実力派の歌手や指揮者と共演する機会が増え、貴重な経験を積み重ねていくことができました。

### ーオペラ編ー

事業団では愛知県芸術劇場大ホールでのオペラ公演の実施という大きな看板事業を抱えているため、少しでもオペラを普及・振興しようと、次の平成14年度からの3年間は、オペラの音楽に特化して展開しました。年間のタイトルをそれぞれ「オペラは声だ!」「オペラはドラマだ!」「オペラ・フォーエヴァー」とし、オペラの演目や歌曲から多彩な曲目をプログラムし、ベテランから若手まで多くの歌手の方々がそれらを歌い、美しい調べと驚くような人間の生の声を堪能していただきました。



「オペラ・フォーエヴァー」第1回（撮影：中川幸作）

平成11年度からの3年間は全自由席でしたが、お客様には不便なこともあったようで、少々料金を上げてもらってもかまわないので指定席にしてほしいという要望が多くありました。そこで、平成14年度からは、料金設定を2,000円にし、その分回数を年4回に減らしました。なお、オルガン公演だけは、オペラバージョンでは企画に入れづらかったため、平成14年度から「オルガン・スペシャル」として「Xmasはオルガンだ！」という別のシリーズに仕立てました。

いろいろなオペラから多彩なプログラムを展開した3年間でしたが、このオペラ編で特筆すべきことは2点あります。一つはオペラ公演との連携、そしてもう一つは「ACオペラ・アンサンブル」(以下「ACOE」)の出演です。

一つめのオペラ公演との連携では、例えば平成14年度のプロデュースオペラ『仮面舞踏会』のカヴァー<sup>6</sup>を務める歌手に出演の機会を提供したり、平成15年度ではオペラ公演の感動をもう1度味わっていただくために、その年度に上演した『椿姫』のガラ・コンサートをプログラムに組み込んだりしました。歌手の方々にとっても歌う機会が増え、人材育成にも貢献したものと思っております。

もう一つの特徴であるACOEは、合唱とキャストの中間の人材に光をあてたもので、ベテランの歌手または演出家やコレペティトウアの方々がメインの出演者の時に、アンサンブルとして共演するメンバーをオーディションにより毎年選出したものです。

これにより、事業団では合唱、アンサンブル、キャストという3種類の出演者のオーディションを実施することとなり、人材発掘のための門戸を、より広く開けることとなり、またそのような人材の育成にも貢献できたのではないかと思います。

### —再び多彩な音楽を聴く—

オペラに特化した3年間の次の平成17年度からは再び多彩な音楽を聴いていただくシリーズにしました。各年の年間テーマを「感動・クラシック新発見!」「時を駆けるモーツァルト」「時代を拓いたこの一曲」とし、より深くクラシック音楽を味わっていただくためのプログラミングを行いました。

<sup>6</sup> 舞台公演の本番にキャストが出演不能となった場合に備えて、稽古場でその進行を頭に入れておき、代わりに舞台上に立てるよう準備する人。正式にはカヴァーキャスト「代役」と呼ばれる。

平成17年度の「感動・クラシック新発見!」は愛知万博の開催に関連して企画。復元された作曲当時の楽器を現代の楽器と比較してピアノ音楽を楽しんでいただくなど、音楽や楽器の様々な変遷をお聴きいただきました。翌年度はモーツァルト生誕250年を記念して企画したシリーズで、弦楽合奏、鍵盤音楽、ピアノ協奏曲などでモーツァルトの音楽を広くご紹介しました。平成19年度は音楽史上、ターニングポイントになる楽曲を中心に全4回の公演をプログラムし、お客様には音楽史にも関心を持っていただくことができたと思えます。

この頃には、「音楽への扉」にお越しいただくことを年中行事にされているお客様も増え、土曜の午後のひと時を有意義に過ごしていただけたようです。



「時を駆けるモーツァルト」第1回  
(撮影：中川幸作)

### —集大成の10年目—

3年ごとに大きなテーマを設け、さらに各年に決めた年間テーマで各回を展開してきた「音楽への扉」も平成20年度に10年目を迎えました。

10年目は集大成ということで、「扉の向こうの音楽の世界」と題し、過去のコンサートの中から特にお客様にご好評だった内容を取り上げました。最初の3年間に出演した池辺晋一郎も再度、1回目出演し、「音楽の不思議」を解説。そして最後の締めくくりは「やっぱりオペラは素敵!」でお客様にオペラの名曲で楽しんでいただきました。

音楽への扉の10年間には計46公演で53,874人の来場がありました。過去10年間通ってくださったお客様もあり、普及・振興事業として一定の成果があったものと思えます。音楽への扉はその趣旨と培われた経験を持って、「コンサートシリーズ音の楽園 The Three by One」に引き継がれました。(大脇)

## 「音の楽園 The Three by One」

### 一人のアーティストがナビゲーター

「音楽への扉」の10年目となる平成20年度のメインタイトルは、「扉の向こうの音楽の世界」。音楽への《扉》を開けたその向こうは、どんな世界でしょう、と次の展開を暗示するようなものでした。平成21年度は企画準備のため1年間の休止となり、満を持して平成22年度から新たなシリーズ「音の楽園 The Three by One」がスタートすることとなりました。

シリーズ名の前半、「音の楽園」は前シリーズ「音楽への扉」を引き継ぐものであり、「The Three by One」は“一人”のアーティストによる3回のコンサートの事を意味します。シリーズの顔とも言える一人のアーティストが、一つのジャンル（テーマ）に関連した趣の異なる3つのコンサートを企画することで、より密接なシリーズを構築することが可能となったのです。そのアーティストは、各回でナビゲーターとして登場し、聴衆は直接アーティストの考えなどを聞くことができるようになっており、アンケートに書かれたコメントなどでも好評を得ています。

なお、この事業では、ナビゲーターや出演アーティストによるマスタークラス、病院などへの訪問演奏、子ども対象のワークショップなどの関連事業にも力を入れています。（これらの関連事業については、25頁及び36頁を参照）

シリーズ1年目は、日本チェロ界の大御所、堤剛がナビゲーターとして登場し、全国的にも注目を集めるオープニングとなりました。全曲が無伴奏のチェロ・リサイタル、チェロ四重奏+ソプラノによるオペラ・プログラム、そして独奏チェロが主役を演じる「ドン・キホーテ」をメインとする物語性のあるオーケストラ・プログラム、とまさしくチェロ尽くしの3回シリーズを展開。

中でも、チェロ四重奏+ソプラノによる「チェロdeオペラ」は、堤と事業団共同による企画であり、オリジナリティに溢れたプログラムでした。堤もよほど気に入ったのか、その年の霧島国際音楽祭におけるチェロ・オーケストラ公演でも、チェロ20本以上によるバージョンアップした「チェロDEオペラ」が実施されたようです。



The Three by One 「チェロdeオペラ」(撮影：中川幸作)

続く2年目、「音の楽園 The Three by One」はオペラ版に様変わりしました。オペラの様々な面を紹介するという企画趣旨から、ナビゲーターには、数々のオペラプロダクションでコレペティトゥアとして活躍している服部容子を起用し、『マクベス』をテーマに3回のコンサートを構成。シェイクスピアを題材としたアリアとデュエット、魔女的な役が登場するオペラのアリアなどと合唱、そして『マクベス』演奏会形式という重量級のプログラムとなりました。白眉は、何といても『マクベス』演奏会形式であり、日本を代表するバリトンの堀内康雄、難役マクベス夫人に初挑戦した田口智子らを始めとする実力派揃いのソリストの歌唱に加え、オペラの経験豊富な時任康文の指揮が名フィルとAC合唱団から表現豊かな音楽を引き出し、近年では傑出した公演となりました。

さらに、3年目は、生誕200年を目前に控えたワーグナーの生涯を、関連のあるモーツァルト、ベートーヴェン、ブラームス、リストと絡ませながら、日本を代表する作曲家・西村朗のナビゲートにより、ピアノと声楽作品でたどる企画を実施しました。

気鋭のDuo YAMAMOTOによるモーツァルトとワーグナーのソロとデュオのピアノ編、実力者・野原みどりのピアノとマーラーを得意とするバリトン・青戸知を中心にクリムトの創作意欲を掻き立てた「第九」を軸とする声楽編、そして名古屋出身の名手・広瀬悦子のピアノと若手メゾ・ソプラノの清水華澄によるドイツ・ロマン派の黄金時代編を、西村の絶妙なトークを交えながら、ワーグナーを様々な角度から紹介しました。

凝ったプログラムと変化に富む構成により、コンサートに通いながれた音楽ファンでも、ビギナーでも楽しめる懐の深さが、このシリーズの一番の特色とも言えるでしょう。(水野)

## コンサート企画の公募事業

### －未来を紡ぐ～若き音楽家－

「あいちの未来を紡ぐ！コンサート」（以下「未来を紡ぐ」）は、コンサートの企画を募集し、著名な選考委員により選ばれた企画をコンサートホールで公演するという人材育成型の事業であり、演奏家にもコンサートにおける“企画”という意識を持ってほしいという願いから生まれたものでした。応募者が公演に至るには、企画書など提出資料による事前審査を通過した後、実演及び質疑応答による本審査を経なければなりません。このため、応募の手間や本審査での演奏者の手配が必要ですが、選考されれば、聴衆の前で自らの企画と演奏が披露でき、さらに、企画出演料に加え、各種印刷物や会場などに係る経費などの大半を、事業団が負担するという特典がありました。

事業がスタートしたのは平成18年度。最初は愛知県の音楽専攻がある3つの大学（愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋音楽大学）の在学生および卒業生を対象に募集しました。告知期間が短かったにもかかわらず、選考委員の顔ぶれやコンサート企画の公募という目新しさもあったのか、まずまずの数の応募がありました。

初回の選考委員は、作曲家の池辺晋一郎、指揮者の沼尻竜典、音楽評論家の池田卓夫の3名で、いずれも各分野で活躍中の第一人者です。各企画者は、通常のコテストと違う審査会で、選考委員にどのような質問をされるのか、演奏もどのような点に注目されるのか、緊張の面持ちで審査に臨んでいたのが印象的でした。



「第2回あいちの未来を紡ぐ！コンサート」（撮影：中川幸作）

その後の「未来を紡ぐ」の選考委員にも、作曲家の西村朗、ピアニストの仲道郁代、音楽家の宮本文昭、カザルスホールの中村ひろ子、と錚々たるメンバーが顔を並べました。また、3つの音楽大学に限っていた応募条件を見直し、関東や関西からも応募が来るようになりました。

選考された企画も、歌曲をメインとする日本近代音楽、アメリカン・テイストのヴァイオリン作品、邦人の打楽器作品、J.S. バッハ関連の作品を多彩な編成で聴かせる構成、木管アンサンブル作品からガムランまでと非常に多彩な内容となっており、各企画者の意欲が窺えました。

さらに、平成21年度からは企画に選考委員の一人との共演を含む形を取り、公演名も「若き音楽家による企画コンサート」と変え、名実ともにリニューアルしました。



「若き音楽家による企画コンサート 2011」（撮影：中川幸作）

ゲスト共演を兼ねる選考委員には、フルートの工藤重典、ピアニストで作曲家の野平一郎、クラリネットの赤坂達三、ヴァイオリンの大谷康子と世界的にもトップレベルのアーティストが登場しています。その他の選考委員も、作曲家の猿谷紀郎、指揮者の広上淳一、サントリーホールの磯貝純一、津田ホールの楠瀬寿賀子など「未来を紡ぐ」同様に各界の第一人者です。

選考された企画の関係者は、「未来を紡ぐ」でのメリットに加え、一流アーティストとの共演という直接的な行為により、第一級の音楽演奏に触れ、音楽家として貴重かつ至福の経験を得た事と思います。

平成24年度からは事業体系の見直しにより2年計画での実施となりましたが、このような人を育てる事業こそ、長期的視野を持って取り組むべきだと事業団では考えています。（水野）

## AC合唱団

オペラに合唱は欠かせません。オペラの合唱はただ歌えれば良いというものではなく、物語の理解力、そして舞台上での演技も必要になりますので、普通の合唱団とは必要な要素が違ってきます。

プロデュースオペラを制作するにあたり、当初一番困ったのが合唱でした。オペラの合唱は簡単には集められません。プロデュースオペラでは、当初は合唱を東京オペラシンガーズ（以下、「TOS」）に頼っていました。TOSは、新日本フィルハーモニー交響楽団が立ち上げた小澤オペラ（5頁参照）で指揮者の小澤征爾が世界的水準のコーラスを要望したことに応え、東京を中心に活躍する中堅、若手のソリストにより組織されたもので、非常に優れた合唱です。

一方、日生オペラの第1回目の公演『蝶々夫人』では、なんとか人材集めをしたものの、そのままの状態では公演を続けていけなかったため、翌平成6年度にAC合唱団として、公演ごとに集める臨時の合唱団を組織化しました。ACとは拠点となる愛知芸術文化センター（Aichi Arts Center）にちなんだ名称です。指導者はこの地域の合唱指導の第一人者である高須道夫に依頼し、その人望と実力と尽力で、AC合唱団が、その後のプロデュースオペラの発展に不可欠な存在へと成長するための確固たる礎を築きました。AC合唱団は、日生オペラでの本舞台の経験を積みながら、プロデュースオペラでTOSとも共演し、高須を始め多くの指揮者や演出家との稽古や本番の経験を積むことで、実力を蓄え、みるみるうちに成長したのです。



『ランメルモールのルチア』公演でのAC合唱団  
（撮影：中川幸作）

団員は、公演のたびにオーディションを行って出演者を決定しますが、最近では、特に女性の競争率が上がり、それだけレベルも高くなっています。また、県内にある3つの音楽大学の学生への

大きな励みにもなっています。

AC合唱団だけのコンサートを実施したこともあります。芸文センターのフォーラムで行ったクリスマスのミニコンサートでした。フォーラムは、センター内の共有スペースで、天井が高いため、ヨーロッパの教会のような響きを持つのでクリスマス時期にはぴったりで、質の高い合唱を多くのお客様に楽しんでいただきました。また、事業団のコンサート事業（「音楽への扉」、「音の楽園 The Three by One」）でも演奏会形式オペラ等の合唱で活躍し、中には、ソリストとして起用され、十分にその役割を果たせるほどの歌唱力を発揮する人も登場しています。男声陣の人数確保という、永遠の課題に苦労は尽きませんが、AC合唱団は、地域の音楽文化、舞台芸術文化へ確かな貢献をしています。（大脇）

## 音楽ワークショップ&公開レッスン

### ー子ども&若手の育成ー

事業団では、舞台公演だけでなく、人材育成事業も積極的に展開しています。

まず、子どもの育成事業としては、オペラ公演に付随して、「ワクワク、オペラ体験」(14頁参照)を平成18年度と平成20年度に実施しましたが、コンサート事業では、平成21年度に開催した「リヨン国立歌劇場管弦楽団」の関連事業として実施した、大野和士による2つのワークショップが最初でした。

コンサート事業の音楽ワークショップに共通しているのは、単に音楽を聴かせるだけでなく、音から感じ取る感覚を意識している点であり、場合によっては、絵画やダンスなど音楽と異分野とを結びつけ、子ども達の無限の可能性を伸ばす事も試みています。

#### 【子ども対象のワークショップ実施状況】

年度	事業名	種別
18	ワクワク、オペラ体験「ラ・ボエーム」※	オペラ
20	ワクワク、オペラ体験「ファルスタッフ」※	オペラ
21	指揮者・大野和士の子どものためのワークショップ アート体験《夏》	指揮 絵画 ダンス
	同上 アート体験《秋》	演奏
22	ワクワク、オペラ体験「ホフマン物語」	オペラ
	堤剛のチェロで音体験ワークショップ	チェロ
23	指揮&ピアノで音楽ワークショップ	ピアノ 指揮
24	ワクワク！オペラ体験！ 「ランメルモールのルチア」	オペラ

※愛知県主催事業(あいち子ども芸術大学)に参画



「堤剛のチェロで音体験ワークショップ」(撮影:中川幸作)

また、若手人材育成の分野では、オペラ・ワークショップが挙げられます(14頁参照)。

#### 【オペラ・ワークショップ実施状況】

年度	講師	対象	課題
14	佐藤正浩	ピアニスト	(複数課題)
	足立桃子	出演歌手	(公演曲目)
16	児玉 宏	歌手、指揮 ピアニスト	魔笛
17	児玉 宏	同上	こうもり フィガロの結婚
18	M.ボエーミ	同上	ドン・ジョヴァンニ
19	M.レアール	歌手	蝶々夫人

さらに、平成20年度からはオペラ・ワークショップと入れ替わるように、N響楽員による公開レッスンが始まりました。日本最高のオーケストラというネームバリューと、全国的にみても当地域は、吹奏楽が盛んな事もあって、部活動に励んでいる生徒や音大生などに好評を博しています。

#### 【N響楽員による公開レッスン実施状況】

年度	講師	楽器
20	津堅直弘 (トランペット)	金管
	日高 剛 (ホルン)	
21	山根孝司 (クラリネット)	木管 金管
	関山幸弘 (トランペット)	
22	甲斐雅之 (フルート)	木管
	山根孝司 (クラリネット)	
23	吉川武典 (トロンボーン)	金管
24	今井仁志 (ホルン)	金管

※対象は中学生～25歳以下の個人・グループ  
(平成20年度は中学生～25歳以下のグループ)



平成20年度N響楽員による公開レッスン (撮影:中川幸作)

また、これと並行して、平成22年度からスタートした「音の楽園 The Three by One」(22頁参照)の関連事業として、出演者等を講師とするマスタークラスを実施しています。初年度は「堤剛のチェロ公開レッスン」、平成23年度は「中嶋彰子のオペラ・レッスン」、平成24年度は「西村朗の作曲マスタークラス」を開催し、超一流のアーティストに指導を受けられる貴重な機会を得ようと、若手音楽家が県外からも集まっています。(水野)

推移図Ⅲ

年度	演劇事業の推移 (愛知県芸術劇場小ホール)				
H4	MODEX青春五月党	今井良実事務所	東京サンシャインボーイズ	新宿梁山泊	(愛知県芸術劇場オープニング演劇祭より舞台公演)
	東京巻組	劇団B級遊撃隊	プロジェクト・ナビ	名古屋むすめ歌舞伎	
	シェイクスピア関連 (海外劇団・グローブ座)	日本の古典:能・狂言 (H5~H12)	日本現代演劇	教育普及プログラム(一部略)	
				レクチャー	演出論
					ワークショップ等
H5	プレイボックスシアター 『リア王』	能 『景清』	北村 想 作・演出 『ひそやかな家』	トークショー 「現代における親と子」	
H6	オックスフォード・ステージ・カンパニー 『ロミオとジュリエット』	ブラックシアター能 『楊貴妃』	かもねぎショツト 『遠くを見る癖』	「シェイクスピアより愛をこめて」 『『遠くを見る癖』の誕生するまでス テージレクチャー』	「ジョン・レタラックの英国式演劇学校」  「松本修のドラマスクール」
			こととことば 『野坂恵子と片桐はいりの 愛のお散歩』	「能の劇空間」 「ドラマティックシアター'94'95に見る現 代日本演劇の状況」	
H7	シルヴィウ・ブレカレーテ 『テンペスト』	ブラックシアター狂言 『こぶとり』、『佐渡狐』		「笑いの演劇-狂言-」	「竹内統一郎の演出論」
				「マルコム体感シェイクスピア劇場」	「はせひろいちの演出論」
H8	シェアード・エクスベリエン ス・シアター 『テンペスト』		太田省吾 作・演出 『更地』	「『更地』ステージ・レクチャー」	「太田省吾の演出論」
			事業団プロデュース: はせひろいち 作・演出 『バクスター氏の実験』	シェイクスピアレクチャー「様々な嵐」 『『テンペスト』ステージ・レクチャー」	
H9	ピーター・ブルック演出 『しあわせな日々』	ブラックシアター狂言 『こぶとり』、 『月見座頭』、『磁石』		「RADA [Royal Academy of Dra matic Art]の教育システムを学ぶ」 「S・ベケットへの招待」 「フランスの演劇事情」	「鈴木忠志の演出論」
					「スズキ・メソッドを学ぶワークショップ」 「狂言役者によるワークショップ」 「演劇教室第Ⅰ期」
H10	ロイヤル・シェイクスピア・ カンパニー 『ロミオとジュリエット』	ブラックシアター能 『恋重荷』	事業団プロデュース: 赤井俊哉作・演出 『光の帝国~陽の当たる キャンパス』	「野村萬斎RSC [ロイヤル・シェイク スピア・カンパニー]を語る」 「能を楽しむためのレクチャー」	「坂手洋二の演出論」
					「演劇教室第Ⅱ期」 「坂手洋二のワークショップ『亡霊と出 会う場所』」
H11	ベル・シェイクスピア・ カンパニー 『死の舞踏』		tptプロデュース 『橋からの眺め』	「ストリンドベリと演劇の魅力」	「鴻上尚史の演出論」
	グローブ座カンパニー 『オセロー』				
H12	グローブ座カンパニー 『リア王』	ブラックシアター狂言 『武悪』、 改作『博奕十王』	JIS企画 『月ノ光』		「土田英生の演出論」
			AAF戯曲賞公演他	演劇フェスティバル公演	団体名(所在地)
					ワークショップ・育成その他
H13	グローブ座カンパニー 『リチャード二世』		第1回受賞作 『大熊猫(パンダ)中毒』	熒光群(東京)	劇団クセックACT(名古屋)
				少年ボーイズ(名古屋)	おことえYA!(名古屋)
H14			第2回受賞作 『so bad year』	劇団 太陽族(大阪)	名古屋シアター・アーツ(名古屋)
			芸文センター開館10周年 朗読劇『おとぎ想子』	劇団ジャブジャブサーキット(岐阜)	劇団B級遊撃隊(名古屋)
H15	子供のためのシェイクスピア 『シンベリン』		第3回受賞作 『アナトミア』	劇団IQ150(仙台)	総合劇集団俳優館(名古屋)
				劇団シアターガッツ(大府市)	演劇弁当猫ニヤー(東京)
H16	『ハムレット』		第4回受賞作 『water witch~漂流姉妹 都市~』	オーロール座(名古屋)	劇団八時半(京都)
				ヨーロッパ企画(京都)	伊沢勉の会(名古屋)
H17	『尺には尺を』	愛・地球博関連事業 AAF戯曲賞ドラマリーディング (上記4作品による)	愛・地球博関連事業 流山児★事務所(東京)	愛・地球博関連事業 うずめ劇場(北九州)	「ドラマリーディングを楽しむための ワークショップ」
			愛・地球博関連事業 劇団B級遊撃隊(名古屋)	愛・地球博関連事業 小三郎劇場(名古屋)	
H18	『リチャード三世』		第5回受賞作 『地藏さんが転んだ』	壁ノ花団(京都)	試験管ベビー(名古屋)
				劇団ジャブジャブサーキット(岐阜)	SPIRAL MOON(東京)
H19	『夏の夜の夢』		第6回受賞作 『塔の上から』	ニットキャップシアター(京都)	ジ・オイスターズ(名古屋)
				トリコ・Aプロデュース(京都)	劇団あおきりみかん(名古屋)
H20	『シンベリン』		第7回受賞作 『シアン』	アトミック☆グース(名古屋)	ミクニヤイハラプロジェクト(横浜)
				劇工房創芝社(名古屋)	ヨーロッパ企画(京都)
H21	『マクベス』		第8回受賞作 『船酔いパッサ』	ハイバイ(東京)	演劇ユニット屋ノ月(京都)
				テラ・インコグニタ(名古屋)	劇団気まぐれ(名古屋)
H22	『お気に召すまま』		第9回受賞作 『金色カノジョに桃の虫』	あなざ事情団(東京)	ニットキャップシアター(京都)
				劇座(名古屋)	劇団あおきりみかん(名古屋)
			AAFリージョナル・シアター	『作品名』	
H23	『冬物語』		第10回受賞作 『どこか行く舟』	京都舞台芸術協会プロデュース『異邦人』	「楽しくエンゲキ」
				少年王者館(名古屋)『超コンデンス』	「日本の近代戯曲研修セミナー in 愛知」
H24	『リチャード三世』		第11回受賞作 『虫』	京都舞台芸術協会プロデュース『建築家M』	
				日本演出家協会東海ブロックプロデュース『ゴドー氏の仕事』	

## 平成5年度から平成12年度の演劇事業

事業団では、様々な舞台設定が可能で、シンプルでタイトな舞台空間という小ホールの特徴を生かすとともに、基本コンセプトとして「言葉と身体を重視した演劇」を展開してきました。具体的には、①独自の創造性が発揮されるプロデュース公演、②この地域での上演機会の少ない優れた国内外演劇の紹介、③新しい試みによる劇場能・狂言等の古典演劇、等に取り組みました。公演を通じて演劇の本質的な素晴らしさを県民に提供するとともに、演劇の担い手や観客の育成、教育普及などの事業を実施し、演劇文化の振興を図るということをし、演劇事業の趣旨としました。

平成5年度は、「ドラマフェスティバル'93/'94」と題して、「家族はどこへ・・・」をテーマに掲げました。オーストラリアのプレイボックス・シアター『リア王』、喜多流の能『景清』、地元を代表する劇作家・演出家の北村想の作・演出による新作『ひそやかな家』の3本の舞台公演を行いました。『ひそやかな家』は、俳優陣の充実もあって注目を集め、1,000人以上の方が来場され、地元俳優陣の好演等が高い評価を受け、「名古屋の演劇界この一年」（朝日新聞）の冒頭でも意欲作として掲載されました。著名な文芸批評家の吉本隆明を招き、北村想が対談したトークショーも好評でした。

平成6年度は、「ドラマティック・シアター'94'95」と題して、「愛」をテーマに掲げ、4本の舞台公演と、ワークショップ、レクチャー、上映会など多彩に行いました。イギリスから招聘したオックスフォード・ステージ・カンパニーによるシェイクスピアの人気演目『ロミオとジュリエット』は、1,000人以上の方が来場され、「この舞台には確かにうならされた。別に新奇さをねらったわけではなくむしろオーソドックスでいて、新しい。スピーディーだけではないのに疾走感がある。」（読売新聞）等高い評価を受けました。地元の能楽笛方藤田六郎兵衛が監修した能『楊貴妃』は、小ホールの特徴から「ブラックシアター能」と名付けて、能楽堂には馴染みにくい若い観客層にも古典芸能の素晴らしさをアピールする好企画でした。

平成7年度は、洋の東西を代表する演劇ということで「狂言&シェイクスピア」をテーマに、2本の舞台公演と、ワークショップ、レクチャーを行いました。大胆な作品解釈と斬新な表現がヨー

ロッパで話題となっていたルーマニア人のS・ブルカレーテによる『テンペスト』は、彼がイギリスのノッティンガム・プレイハウスで演出したもので、ワールドツアーとしてベルリン、アテネ、東京を巡回するという国際規模の公演でした。コンピューター音楽や弦楽合奏の生演奏も交えた表現は、イマジネーションを掻き立てる美しいものでした。ブラックシアター狂言『こぶとり』は、北村想の作による新作狂言で、人間国宝の茂山千作、野村万作ら東西の狂言界を代表する名手たちが、34年ぶりに新作で共演するなど全国的な話題性があり、1,000人以上の方が来場され、「狂言としてのユーモアとウィットが各所にちりばめられていて秀逸」（日経新聞）等大好評を得ることができ、事業団のプロデュース力を示すことができました。



平成7年度ブラックシアター狂言『こぶとり』  
(撮影：安井豊彦)

平成8年度は、テーマ「再生」のもと、我が国の演劇界を代表する劇作家・演出家太田省吾が、自身の名作『更地』の公演を行いました。この公演は「夫婦間の微妙な距離の伸縮を好演」（日経新聞）等、名作の評判通りの舞台となりました。また、事業団プロデュースで、地元の優れた劇作家・演出家として台頭した、はせひろいちを作・演出に起用した『バクスター氏の実験』は、地元発の意欲的な企画として、演劇評論家の河野光雄が「神の領域に入り込む人間の知恵と狂気をパラドックス的に巧妙に描いた」（「なごや文化情報」）として年間ベスト3に選出した他、朝日新聞での年末の回顧では「プロデュース公演の可能性を広げた意欲作」と評価されました。指名とオーディション選出によるキャストはその顔合わせの新鮮さもあり、観客を堪能させただけでなく、地元演劇界への大きな起爆剤となりました。





『バクスター氏の実験』(撮影:安井豊彦)

平成9年度は、「東西の優れた会話劇の競演」をテーマとしました。世界で最も著名な演劇人の一人であるP・ブルックの演出による、S・ベケットの名作『しあわせな日々』公演は、巨匠二人がタッグを組んだ豪華な舞台として注目を集めました。そして、前回の初演時に絶賛を受けた狂言『こぶとり』を再演し、熟成を経た舞台はさらに評価を高め、再び連日チケット完売になるという大盛況でした。

平成10年度は、「二人」をテーマに、世界有数の名門劇団ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー(RSC)が『ロミオとジュリエット』を演目に公演を行い、その解釈と着想が野心作として評価を得て、名声に相応しい圧倒的なクオリティの高さを存分に見せました。また、事業団プロデューサーとして、地元の若手有望株と期待された赤井俊哉を作・演出に起用した『光の帝国—陽のあたるキャンバス—』のキャストオーディションには150人の応募があり、選抜された精鋭の俳優に、新進気鋭の優れた演劇人との貴重な共同制作の場を提供することになりました。この舞台の成果については、「ベルギーのシュールレアリズムの画家ルネ・マグリットの生涯を、彼の絵画に重ねるように不思議な舞台を作り上げた。」(「なごや文化情報」)等の評価を得ることができました。



『光の帝国—陽のあたるキャンバス—』(撮影:安井豊彦)

平成11年度は、「絆」をテーマに、その意欲的な取り組みと質の高い公演が演劇界で評判となっていたt p t (シアタープロジェクト・東京)が、ブロードウェイなど世界で活躍するロバート・アラン・アッカーマンの演出による、A・ミラーの傑作『橋からの眺め』を演目に来名しました。世界的な演出家と国内トップレベルの俳優による、その衝撃的で尖鋭的な舞台が大いに話題となり、この公演も全公演のチケットが完売し、各マスコミで盛んに報道されました。海外演劇は、オーストラリアから、ベル・シェイクスピア・カンパニーを招聘し、J・A・ストリンドベリの名作『死の舞踏』を上演しました。この舞台は、オーストラリアの「アデレード芸術祭」で初演され、高い評価を受けた後、東京と名古屋のみで上演されました。なお、愛知県内でプロ劇団によるストリンドベリ作品の上演はこれが初めてというエポックメイキングな舞台でもありました。

平成12年度は、地元出身の著名な劇作家・演出家の竹内銃一郎作・演出の『月ノ光』、地元の狂言師の野村小三郎が古典をオリジナルとして改作した狂言『改作・博奕十王』が、ともに現代世相を反映させた等好評を得ました。『月ノ光』は、人気俳優佐野史郎、地元出身の女優藤谷美紀等が出演し、上質なサスペンス劇として注目を集めた舞台となりました。

こうした国内外最高レベルの演劇の鑑賞機会の提供は、地元の多くの観客にその醍醐味を存分に伝えることとなりました。また、演劇関係者には、優れた演出や俳優の高い技量が刺激を与え、そのレベルアップに寄与したことと思います。(富田)

## 子供のためのシェイクスピア公演

「子供のためのシェイクスピアシリーズ」は、1995年（平成7年）に当時の東京グローブ座で誕生したシェイクスピア劇のシリーズです。当シリーズは子どもから大人まで、誰もが楽しめるシェイクスピア作品を創りたいという制作者の思いから生まれました。

シリーズ全公演に出演し第2作目からは演出も担当している山崎清介は、かつて子ども番組のお兄さん役をしていた経験から、子どもは創り手が本気で創った作品か、楽しんで創った作品かを見抜く力を持っていると確信しており「子どもは本物がわかる」と考えた作品作りをしています。また、シェイクスピアと聞くと、「難解」、「長い」、「子どもに理解できるのか？」との印象がありますが、「シェイクスピア作品にはいつの世も変わらない人間の感情や人間関係が描かれており、それは子どもたちの世界にも通用することで、難しいと思われがちなシェイクスピア作品も、枝葉を刈り取り、話の筋をしっかりと観せれば子どもたちにも必ずわかる」という考えのもと、シェイクスピア作品の膨大な量の台詞を整理し、原作を2時間程度の作品に再構成しています。テーマやメッセージをはっきりと描き出し、わかりやすく伝えれば「シェイクスピアは面白い」のです。完成した舞台は、翻訳家小田島雄志をして「シェイクスピアの言葉が生きている。シェイクスピアじゃない言葉まで生きていた。」と言わしめたほどで、現代をうまく反映させたものとなっております。

当シリーズでは、具体的なものをあらかず舞台装置は使いません。登場するのは木製の机とイスというシンプルなものです。これらはその配列や動きによって荒波にもまれる船になったり、王様の座る玉座になったり、牢獄へと続く廊下になったりします。固定されたイメージを見せるのではなく、視覚的な表現によって観客それぞれの感性を刺激するような演出をしています。

さらに、当シリーズの特徴として次の3点があげられます。①黒コート・・・キャストが自分の役を演じる以外に黒コートを着て登場。黒子の役割だけでなく、あるときは集団心理を、またあるときは登場人物の心の声を表現します。②シェイクスピア人形・・・当シリーズには必ず山崎清介の操る人形が登場します。登場人物の一人でもあり、物語の狂言回しやストーリーテラーなど、重要な役割を担ったりもします。③クラップ（手拍

子）・・・芝居が始まると随所で聞こえるのがキャストによるクラップ（手拍子）の音です。場面転換や登場人物の心理を表現しています。

当シリーズは、「世界で最も著名な劇作家シェイクスピア」の作品を、「一流の俳優らの演劇」により、舞台化しています。さらに「子供のために」と銘打ち、誰にでも分かりやすく、噛み砕いて表現しておりますが、これは簡単なようで並大抵の技術では成し得ません。このように一つの公演でこれだけの要素を兼ね備えた公演は国内でもなかなかないと思われれます。事業団では、こうしたトップクラスの演劇公演の鑑賞機会の提供も重要な使命の一つと考え、10年以上に渡り継続をしまりました。

その結果として、観劇された方々から「こんなに満足する舞台は他にありません」、「最高に楽しくかつ考え抜かれたシェイクスピア劇です」、「夏の恒例行事として毎年見えています」等のご感想をいただくなど毎回大好評を博しており、そのオリジナリティー溢れる芝居づくりは、子どもや初めて演劇を観る方から、シェイクスピア通や演劇評論家まで幅広い観客層から絶大に支持されております。なお、事業団では、平成11年度から以下の演目のおり実施いたしました。（長瀬）

平成11年度『オセロー』

平成12年度『リア王』

平成13年度『リチャード二世』

平成15年度『シンベリン』

平成16年度『ハムレット』

平成17年度『尺には尺を』

平成18年度『リチャード三世』

平成19年度『夏の世の夢』

平成20年度『シンベリン』

平成21年度『マクベス』

平成22年度『お気に召すまま』

平成23年度『冬物語』

平成24年度『リチャード三世』



『リチャード三世』（撮影：安井豊彦）

## 愛知県芸術劇場演劇フェスティバル

この事業は、地元を中心とした演劇界の活性化と振興を図るとともに、愛知県芸術劇場小ホールを活用して質の高い公演の鑑賞機会を提供することを目的として、平成13年度から開始しました。毎回時代性も考慮した「テーマ」を設定し、全国公募から選定された4団体が、そのテーマに相応しい演目で競演するというものです。参加が決定した団体とは、事業団が一定額を負担する共催とし、公演の実施時期は、4月から5月としました。

第1回のテーマは、新世紀の始まりにちなんだ「新-A R A T A」。全国から20団体の応募があり、選考の結果、地元からは、スペイン等で海外公演も行い、そのユニークで独創的な表現が高く評価されている劇団クセックACT他2団体が、県外からは、我が国の演劇界を代表する劇団燐光群が参加し、そのスタートを輝かしく飾りました。この新規事業は、地元のマスコミから注目を集め、新聞・雑誌・テレビ等で数多く紹介されました。公演後には、「閉塞感を打ち破って地域演劇界の活性と名古屋発の舞台創造を目指すシリーズ」（朝日新聞）、「昨年初開催され、非常に評判の良かった愛知県文化振興事業団演劇フェスティバルが、今年も行われる。（中略）150万円の援助は、地域の劇団には大きい。当然選出された劇団は、それに見合った力作を制作する。それが観客動員につながり、地域文化が活性化する。不平、不満の残るコンテストや顕彰事業などより、はるかに公正で有益な事業」（名古屋タイムズ）等、この事業の意義を大変高く評価する記事が掲載されました。観客動員も4,000人近くという大盛況となりました。

第2回は、テーマを「夢」としました。地元から、全国区の人気・実力を持つ劇団ジャブジャブサーキットと劇団B級遊撃隊が揃い踏みとなり、豪華なラインナップとして注目を集めました。

第3回は、当時地元で最多の観客動員を誇っていた劇団シアターガッツが参加し、劇団単独で1,500人近くの観客を集めました。また、仙台からはるばる劇団I・Q150が参加し、全国区でこのフェスティバルの公募が認知されている証となりました。この劇団は後に地元小劇場の草分けである七ツ寺共同スタジオでも公演を行い、地元演劇界との交流を果たすとともに、その優れた内容で刺激を与えました。

第4回は、京都から劇団八時半とヨーロッパ企

画が参加しました。ヨーロッパ企画は、全国区の人気劇団に成長し、事業団の選出の確かさが後に証明されることとなりました。さらにこの回から、新企画として「グランプリ賞」をスタートしました。これは、一般公募した30名の審査員が4団体の公演を観た後に審査をして、その結果により1団体に賞を授与するというものです。その結果は、マスコミから注目を集め、参加団体のモチベーションを高めるとともに、当フェスティバルの認知度をますます高めることとなりました。

第5回は、愛知万博の関連企画ということから、テーマを「異文化との出会い」として、海外戯曲等を題材にするという条件にしました。この結果、東京から参加した流山兎★事務所が、カナダの劇作家の戯曲『ハイ・ライフ』で圧倒的な評価を受けて、「グランプリ賞」を獲得しました。地元の狂言師の野村小三郎が立ち上げた小三郎劇場は、A・チェホフの戯曲を狂言化したネオ狂言『殿姫愛遊戯』で、伝統芸能に現代のセンスと海外のエッセンスを取り入れ、後の狂言の発展に寄与しました。



ネオ狂言『殿姫愛遊戯』（撮影：安井豊彦）

第6回は、前年のテーマに呼応する形で「和！再発見」として、日本の戯曲、文学、民話、神話等を題材とするテーマとしました。東京から参加したSPIRAL MOONが、その繊細で味わい深い舞台で「グランプリ賞」を獲得しました。共に参加した劇団ジャブジャブサーキットも高い評価を受け、その実力を証明しました。

第7回は、暗澹としたニュースの多い昨今、人の心を見つめ直す契機として「心」をテーマとしました。京都のニットキャップシアターとトリコ・Aプロデュースが共に愛知初公演として参加し、関西の演劇界の実力を見せました。また、若手成長株の劇団あおきりみかんが参加し、1,300人を超える観客を集めるとともに、「グランプリ

賞」を獲得し、躍進のきっかけを掴みました。

第8回は、テーマを「越える」として、ジャンルを越えた斬新かつ新しい表現方法や、不透明な現代の境遇や状況を乗り越える演劇作品を募集しました。その結果、海外の演劇祭に参加し、高い評価を受けていたミクニヤナイハラプロジェクトが愛知初公演として参加しました。同団体は、その斬新で独創的な表現で絶賛を受け、その勢いであいちトリエンナーレ2010にも参加しましたが、その先端性を最初に見出した事業団の先見の明を実証しました。

第9回は、先行き不安な現代、心安らぐ場所として求められるであろう「HOME」をテーマにしました。圧倒的な評価で「グランプリ賞」を受賞したのは、京都の演劇ユニット昼ノ月。社会の底辺で喘ぐ、切なくて愛らしい夫婦の姿が、現代の世相の厳しさとのテーマを見事に浮かび上がらせました。東京のハイバイは、愛知初公演で、その後着実に評価を高め、全国で注目を集める存在になりました。

最終となった第10回は、「笑」をテーマに、地元を代表する老舗劇団劇座が初参加し、会場を笑いの渦に巻き込みました。「グランプリ賞」を獲得したのは、第7回以来2回目の劇団あおきりみかんで、その成長ぶりをさらに印象付けました。

演劇フェスティバルは、回を重ねる毎に全国的な知名度が高まり、その応募数は増え続けました。また、優れた劇団が毎年参加することによって、劇団間の競争意識とマスコミ、観客の関心が高まり、演劇界のレベルアップに寄与しましたが、初期の目的の達成等により、第10回をもって終了し、その役割をAAFリージョナル・シアターに受け継ぐこととなりました。

## AAFリージョナル・シアター

平成23年度から、スタートさせた新企画。地域の特産品ブームや、B級グルメ、大規模な美術イベントの開催など「地方」に熱い視線が注がれるようになった現代。そこで愛知と地方を繋いで、良質な演劇公演を紹介するという企画意図で行いました。第一弾とのテーマとしたのは「京都と愛知」。古都京都に集う新進気鋭の舞台人がメンバーとなっているNPO法人京都舞台芸術協会が初プロデュースした『異邦人』は、「実に歯応えのある舞台だった。(中略)演劇表現の可能性と豊かさを改めて思う舞台だった。」(中日新聞)等大変高い評価を得ることが出来ました。迎える

愛知は、ダンスや映像、音響を駆使した幻想的かつ独創的な表現で、全国に誇る人気劇団少年王者館が、愛知県芸術劇場小ホールに初登場し、多くのファンの期待に応えました。また、京都と愛知の演劇人が合同でワークショップを開催する等交流を深めることも出来ました。

翌平成24年度は、京都との交流をさらに深めるため、「一つの戯曲を、二人の演出家が、違う上演作品として連続上演する」という企画としました。京都は前年に引き続いて京都舞台芸術協会が二人の若手有望株の演出家を起用して参加。愛知からは日本演出者協会東海ブロックが参加し、全国区の劇作家として成長した平塚直隆の新作戯曲を二人の若手演出家が上演することになり、地元演劇界との関わりを深めました。この公演は、企画の斬新さが話題を呼び、京都制作作品は、「抽象度の高い田辺戯曲を異なる視点で演出し、歯応えのある競演」(中日新聞)、愛知制作作品は、「前者(渡山演出)は静、後者(宮谷演出)は動、全く逆の舞台になり、演劇の面白さを満喫させた」(なごや文化情報)等大変高い評価を得ることが出来ました。(富田)



京都舞台芸術協会プロデュース『建築家M』  
(演出：筒井加寿子) (撮影：安井豊彦)



日本演出者協会東海ブロックプロデュース  
『ゴドー氏の仕事』(演出：宮谷達也) (撮影：安井豊彦)

## A A F 戯曲賞受賞作とプロデュース公演

A A F 戯曲賞（愛知県文化振興事業団戯曲コンクール）は、愛知からの文化の発信と演劇界の次代を担う人材の発掘と育成、さらに地元演劇界の振興と活性化を目的として平成12年度から開始しました。当戯曲賞の主な特徴は、単なる募集のみに留まらず、翌年度の上演を前提として全国から公募するもので、既発表・既上演の作品でも応募が可能です。また、受賞作品は、誰もが無料で参加できる公開の場で審査、決定、発表しております。

第1回は全国から56作品の応募があり、優秀賞には半澤寧子作『大熊貓中毒』を選出しました。この作品を、地元愛知で全国的人気劇団の少年王者館主宰、天野天街の演出により、プロデュース公演として実施しました。岸田戯曲賞候補にもなったことのある気鋭の劇作家半澤寧子の夢幻の劇世界を、独特の詩的幻想的作風で知られる天野天街が斬新に演出し、プロジェクト・ナビや劇団ジャブジャブサーキットなど当時の東海地方を代表する劇団やオーディションで選ばれた俳優らにより上演しました。劇団や既成の枠を越えた才能の新たな出会いは、「プロデュース公演の良さを発揮した舞台だった」（毎日新聞）、「全国から戯曲を公募、優秀作品を自らプロデュースして舞台化するという企画の実現は、演劇の枠を越え、東海地区の2001年芸術シーンにとっての<事件>ともいえる」（読売新聞）など、各新聞雑誌などでも取り上げられ全国的にも注目を浴び、新企画として華々しいスタートを飾りました。

第2回は、31作品の応募の中から、永山智行作『s o b a d y e a r』を優秀賞に選出しました。審査員の平田オリザをして「題名以外は、ほぼ完璧な作品ではないか」と言わしめたこの作品を、幻想的な絵作りやステージ構成には定評のある齋藤敏明が演出しました。全ての出演者をオーディションで選ぶフルオーディションを敢行し、さらにダブルキャストでの競演も話題となりました。

第3回は、小里清作『アナトミア』を68作品の中から優秀賞に選出しました。このミステリアスで緻密な劇世界を、地元人気劇団、劇団B級遊撃隊の演出家・俳優の神谷尚吾の演出により上演しました。佃典彦をはじめ地元の実力派俳優らの好演も奏功し「久しぶりに硬質で理知的な舞台だった」（毎日新聞）との評価も得ました。

第4回は、70作品の中から、スエヒロケイスケ作『water witchー漂流姉妹都市ー』を優秀賞に選出しました。スエヒロケイスケはA A F 戯曲賞初の地元受賞者で、演出の寺十吾（tsumazuki no ishi）は戯曲賞公演初の県外在住の演出者でした。県外の演出家、キャスト・スタッフの一部が愛知に滞在し、いわばアーティスト・イン・レジデンスでの制作体制はプロデュース公演初の試みでした。

平成17年度には、第1～4回までの受賞戯曲の新たな魅力を発見するため、全国公募で選ばれた4劇団がドラマリーディング形式で4夜連続競演し、演劇の新たな可能性を切り開くその斬新な舞台が、地元演劇界に大きな衝撃を与えました。

第5回は、松田清志作『地蔵さんが転んだ』を46作品の中から優秀賞に選出しました。田舎町を舞台にした、コミュニケーションが不器用な家族と周囲の人々との微妙な愛憎を紡ぐこの会話劇を、90年代小劇場界伝説の劇団、惑星ピスタチオを率いた西田シャトナーが演出しました。キャリアも作風も対極の組み合わせは、プロデュース公演ならではの思わぬ化学反応を起こし、その幻想的な舞台は大きな反響を呼びました。

第6回には66作品の応募がありましたが、戯曲賞初の優秀賞該当なしの結果となり、吉村健二作『塔の上から』を佳作に選出しました。劇団の座付きや劇団所属の応募者が多い中、吉村健二はフリーライターで、そのドキュメンタリー風でリアルな劇世界を、オブジェなども駆使した幻想的な作風で知られる木村繁が演出し、俳優やダンサーでもない当公演独自のパフォーマーが加わった現代美術風舞台造形も話題となりました。

第7回は、74作品の中から、棚瀬美幸作『シアン』を佳作に選出しました。2年連続で優秀賞無しという決定を下しましたが、事業団のこの決断は、「私は今回も入選作が出なかったことを悲しんでいない。価する作品がない時に潔くできる関係者の誠実な姿勢に拍手を送りたい。」（審査員：鈴江俊郎）との選評のように、戯曲賞の質を落とさないという高邁な意志や誠実さが感じられる、と称えられました。結果、佐久間広一郎演出の舞台には、「無機質で透明感のあるファンタジーを丁寧に紡いだ」（朝日新聞）など、最大級の賛辞が与えられ、同新聞の2008年年間回顧録にもラインナップされました。

第8回は、菅野直子作『船酔いバツハ』を89作品の中から優秀賞に選出しました。「表現するひ

との思いが他を圧倒していた」(審査員：鈴江俊郎)と評された作品を、当戯曲賞公演2回目となる神谷尚吾が演出しました。現代の家族がデフォルメされた寓話的色彩の濃い劇世界を、舞台美術や音楽も絡めて普遍的に表現したその舞台は、「演劇土壌や作品観の違いを乗り越えてプロデュース公演の可能性や方向性を模索した力作」(朝日新聞)など、圧倒的な評価を得て、同新聞の2009年年間回顧録に取り上げられました。

第9回は、80作品の中から、サリ n g ROCK 作『金色カノジョに桃の虫』を優秀賞に選出しました。OMS戯曲賞大賞受賞者でもある関西の新進気鋭の劇作家サリ n g ROCKの作品は、主人公の平凡な女性が芸術家との出会いにより、身体を入墨だらけのモンスターへと変容させていく物語です。この作品を、全国的にも活動を展開している劇団ジャブジャブサーキットのはせひろいちが演出しました。はせ自身が「絶対演出したい、他の誰にも譲りたくない」と語った当作品は、若者特有の風俗や疾走感を内包しつつ、心の奥底の「痛みや関係性」という普遍性を表現し、幅広い層の観客の共感を呼びました。

第10回は、過去最多となった93作品の中から、室屋和美作『どこか行く舟』を佳作(優秀賞該当なし)に選出しました。この作品を、審査員でもあり、岸田戯曲賞などの多数の受賞歴がある劇作家・演出家の鈴江俊郎の演出により上演しました。互いに寂しさを抱えそれを埋める男女の関係や、社会にはびこるぬるい痛みなど、現代社会の風景を切り取ったこの作品には、上演に際し戯曲賞初のドラマドクターが導入され、設定や会話に緊張感を与えたり、物語にメリハリがつくよう作者の室屋和美に助言を行い、上演台本の一部が改変されました。さらに、出演はオーディションによって選ばれた、容姿・年齢・キャリアの違う2組の俳優らによるダブルキャストとし、戯曲には現れない「街の人々」という群衆役も登場させました。また俳優だけでなく、音楽、舞台美術デザイン、チラシ原画もオーディションにより選抜し、特に劇中の生演奏は物語にテンポと情感を持ち込みました。

第11回は、70作品の中から、市原佐都子作『虫』を優秀賞に選出しました。戯曲賞史上最年少受賞者である市原佐都子のこの作品は、「私にとって『虫』が強い生命力に満ちた劇世界だと感じた(中略)私はその前向きな生命力に素直に感動してしまうのだ。なぜならこれは私にとって、息詰まる現代の、希望の物語に他ならないからなの

だ。」(審査員：鐘下辰男)、「受賞作は、ほぼ退屈することなく読めた。秀作だ。(中略)私は終始胸が痛んだ。表現の充実に圧倒された。」(同：鈴江俊郎)など、各審査員から、絶賛されました。

この作品を、コミュニケーションから生まれる心の機微や揺れを大切にした演出で定評があり、近年では劇場以外の場所での上演活動や、ワークショップ・専門学校講師などの育成活動にも力をいれている、にへいたかひろ(よこしまブロッコリー)が演出しました。「弁当屋でアルバイトをしている田中はある夜、部屋に侵入してきた虫に犯された。以来窓を開けて虫を待っている。バイト仲間二人も、田中をのぞき見している女とその友人も、孤独と索漠の日々をすごしている。」一見センセーショナルで不可解に見えるこの物語のなかに、「圧倒的な孤独」や「食欲に生き抜く」といった現代的普遍性を見出した舞台は、若い層だけでなくベテラン層にまで共感を持って受け入れられました。

原作戯曲では映像で描写されている虫などを男性クラウンによる肉体表現で表出したその演出は、「生身の性や生命のエネルギーの象徴として、女性たちの行動を客観視する存在として奏功した。」(朝日新聞)などの高い評価を受け、演劇評論家の河野光雄が「舞台一面の空の弁当箱、動く網の窓枠など舞台装置は印象的、演者は好演でした。」と好評するように、視覚的効果や演技の質についても称賛されました。

このように、全国から公募した優れた戯曲を基に、地元で活躍する演劇人らを中心とした叡智を結集してプロデュース上演し相応の成果を上げてまいりました。なお、そこには、単に上演するだけに留まらず、創作機会や新しい出会いの場の提供、人材の発掘と育成など、創造発信だけでなく教育普及的側面も含め、地元演劇界の振興と活性化にも多大な影響を与えたものと自負しております。(長瀬)



第11回AAF戯曲賞受賞作『虫』(撮影:安井豊彦)

## 演劇関連事業

演劇の関連事業においては、演劇文化の振興を図ることを趣旨として、演劇の担い手や観客の育成、教育普及などの事業を実施してきました。ここでは、公演に関連して、演出家や出演者等を講師に招いて行うケースと、公演とは別に、単独で講師を招いてワークショップ、レクチャーを行うケースがありました。

平成5年度は、地元を代表する劇作家・演出家の北村想の作・演出による新作『ひそやかな家』の関連企画として、著名な文芸批評家の吉本隆明を招き、北村想と対談するトークショーを行いました。

平成6年度は、イギリスから招聘したオックスフォード・ステージ・カンパニーの芸術監督J・レタラックを講師に招いて、優秀な俳優陣を生み出し続けるイギリスの演劇システムや、劇団独自の演劇教育プログラムが参加した地元演劇人に伝授されました。また、我が国屈指の演出家松本修を講師に迎えた5日間のワークショップも行い、多数の地元演劇関係者に感銘と刺激を与えました。シェイクスピア全作品の翻訳者として著名な小田島雄志を講師に招いたシェイクスピアレクチャーも、分かりやすく親しめる内容で大好評でした。さらにシェイクスピア作品を題材とした映画上映により、関心層を拡大することができました。

平成7年度は、「狂言&シェイクスピア」をテーマに、ワークショップ、レクチャーを行いました。イギリスで活躍中の演出家でワークショップの専門家であるJ・ガーヴェンを講師に招いた俳優指導のワークショップや、RSC（ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー）に留学した経験を持つ人気狂言師の野村萬齋を講師に招いた俳優訓練のワークショップを行い、地元の演劇指導者と俳優の養成に寄与しました。また、一般の方を対象としたわかりやすいシェイクスピアレクチャーによってその関心層を上げました。

平成8年度は、招聘公演を行ったイギリスの劇団の芸術監督を講師に招いて、俳優の訓練方法や、同国の演劇教育事情について学ぶワークショップを行いました。また、シェイクスピア作品の意欲的な現代語訳でも注目を集める松岡和子を講師に迎え、『テンペスト』の豊潤な世界の魅力を伝えました。

平成9年度は、P・ブルックの演出によるS・

ベケット作品を上演するにあたり、ベケットの滑稽で不可思議な世界の魅力を伝えるレクチャーと、さらに、ブルックの活動するパリの演劇事情を紹介するレクチャーを行いました。また、小劇場演劇の創始者の一人で、海外でも高い評価を受ける鈴木忠志を招いて、その独自の俳優訓練法を体得するワークショップや演出論を伝えるレクチャーを行い、地元の多くの演劇人が参加し、その活動に大きな影響を与えました。さらに京都で活動する狂言師の茂山千五郎を講師に招いたワークショップでは、長い伝統を受け継いだ狂言師から、その卓越した表現力を学びました。

平成10年度は、RSCの公演に関連して、RSCに留学経験のある野村萬齋や、イギリス文学の専門家を招いてのレクチャーで、シェイクスピアの作品の魅力を様々な角度から伝えました。特に、野村萬齋のレクチャーは参加者が200名を超える人気でした。また、前年度の3月から10年度の8月まで半年に渡って、日本演出者協会愛知支部の協力で、演劇の基本を学びながら自己発見の機会を得る「演劇教室」を行いました。この教室の参加者の多くが、その後、自発的に演劇活動に関わるなど、その成果を示すこととなりました。さらに我が国を代表する劇作家・演出家の坂手洋二を講師に招いた7日間の充実したワークショップは、集まった熱心な参加者に、各々の演劇活動への確かな指針が示されました。

平成11年度は、オーストラリアから招聘したベル・シェイクスピア・カンパニーが、近代北欧の生んだ世界的な文豪、J・A・ストリンドベリの戯曲を上演するにあたり、この文豪作家の素顔や作品の魅力を伝えるレクチャーを行いました。ゲストには著名な作家の筒井康隆を迎え、多くの参加者がその作品世界を堪能しました。また、現代演劇をリードする鴻上尚史を講師に迎えた俳優向けのワークショップと、一般向けの演出論は、いずれも多く参加者があり、大盛況でした。

平成12年度は、地元出身で、現在は京都を拠点に全国区で活動する劇作家・演出家の土田英生を講師に迎え、俳優向けのワークショップと、一般向けの演出論のレクチャーを行いました。（富田）

平成13年度は、劇団青年座所属で現在は新国立劇場の演劇芸術監督である宮田慶子を講師に迎え、俳優向けのワークショップと、一般向けの演出論のレクチャーを行いました。一般の方には「多面体」という切り口で、演劇における演出家というポジションを、ユーモアを交えて、わかりやすく解説し、俳優向けのワークショップでは地元の中堅どころの俳優らに、実践的で具体的な方法論はもちろんのこと、俳優としての心構えなども熱心に伝授しました。

平成16年度から平成18年度にかけては、「子供のためのシェイクスピアカンパニー」公演の関連事業として、当公演の出演者、山崎清介らを講師に、子供のためのワークショップ「夏休みエンゲキ体験」を開催しました。一流演劇人による分かりやすく楽しい演劇体験は、対象の小学生たちにとって夏休みの貴重で素敵な思い出となりました。

平成17年度は、同年に開催された「AAF戯曲賞ドラマリーディング」公演の関連事業として、当時注目を集めつつあったリーディング上演形式の可能性・面白さを体験するため、刈馬カオス、はせひろいち、長谷基弘、土田英生らを講師に迎え、日替わりで「リーディングを楽しむためのワークショップ」を開催し、熱心な参加者が集まりました。

平成18年度は、恒例の「夏休みエンゲキ体験」に加え、冬にも「冬休みエンゲキ体験」と銘打ち、山崎清介らを講師に迎え、小学生、中学生、高校生向けのワークショップを行い、それぞれの対象で、熱く楽しい指導が行われました。

平成19年度は、愛知県主催のこども芸術大学参画事業として、名古屋の老舗児童劇団うりんこの劇団員を講師に、小学生と中学生を対象にしたワークショップ「楽しくエンゲキ」を実施しました。演劇的手法を用いた、コミュニケーションの大切さや、他者と共に創造することの楽しさを体験するこの講座は、初心者から経験者まで大変好評でした。

このワークショップは、対象を小学生のみに変更し、小学生のためのワークショップ「楽しくエンゲキ」として、平成20年度から平成24年度まで継続して行い、毎年多くの小学生がゲームなどを通じて楽しみながら演ずる体験をしました。

平成21年度は、初めての試みとして、同年に開催されたAAF戯曲賞『船酔いバツハ』公演の関連事業として、演劇評論家の安住恭子を講師に迎

えた「現代の演劇状況について学ぶレクチャー」を開催し、近代演劇史から戯曲賞公演に至るまで、現代演劇を幅広く俯瞰した講義を展開しました。なお、このレクチャーは2回に分けて開催し、1回目は鑑賞のポイントを伝え、2回目で公演の感想を語り合うという方式を採りました。

平成22年度は、同年に開催されたAAF戯曲賞『金色カノジョに桃の虫』公演の関連事業として、劇評を学ぶ講座「AAFシアター・クリティック」を、演劇評論家の安住恭子を講師に迎えて実施しました。平成22年度、平成23年度は、公演後に討論するというスタイルに変更しましたが、演劇をより豊かに深く味わいたいという参加者らの議論が熱く展開されました。

平成23年度も引き続き、同年に開催されたAAF戯曲賞『どこか行く舟』公演をテーマに、劇評を学ぶ講座「AAFシアター・クリティック」を開催し、実際に観劇された方達の劇評を題材に、演劇公演の様々な見方・観点を学ぶ充実した講義を展開しました。

平成24年度は、同年に開催されたAAF戯曲賞『虫』公演の関連事業として、同公演の演出のにへいたかひろを講師に迎え、AAF演劇レクチャー「ワンポイントクリニック～芝居の観かた！演じかた！～」を開催しました。この講座は、普段演劇公演を観劇する際に何処に注目すればより楽しめるのか、また、演劇公演の出演者として演技をする際に何処に気をつければより上手く演じられるのか等、それらのポイントについて実演も交えたわかりやすく学ぶものでした。テキストを使用しての参加者同士での演技も行われ、実践的かつ楽しい講義でした。(長瀬)



平成24年度 小学生のためのワークショップ「楽しくエンゲキ」(撮影：安井豊彦)



## 芸文センター外での事業

事業団の主たる使命は、愛知県芸術劇場の各ホールの特徴を活かした事業を行うことですが、それ以外に、愛知県下に芸術・文化を普及・振興することも使命としてあります。その大きな事業は「移動美術館」と「愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会」でした。

また、平成22年度からは、「音の楽園」に出演する音楽家が病院等の施設に出向いて、入所者や患者などに音楽を聴かせる訪問演奏も実施しています。

### －移動美術館－

「移動美術館」は、芸文センター内にある愛知県美術館の所蔵品展を愛知県内の他の地域で実施するもので、平成6年度から愛知県美術館と開催地の市町村との共催で開催しました。

愛知県美術館は20世紀美術を中心にコレクションしており、優れた作品・名品を数多く所蔵しています。遠隔地に住んでいてなかなか芸文センターまで来られない県民の方々にも所蔵作品を鑑賞していただく機会を設けるという趣旨のもと、足助町や立田村、田原町などへ、作品を運んで行って展覧会を開催してきました。毎回大変好評で、地元を始め多くの方々にご覧いただきました。

ただ、貴重な作品にダメージを与えないような、展示に適した会場はどの地域にもあるわけではないため、仮設の展示壁を設けるなど様々な工夫をして展覧会を開催してきましたが、事業団には美術に関する専門職員がいないため、平成23年度からは愛知県美術館に事業を移管することとなりました。これまで多くの県民の方々に鑑賞いただいた「移動美術館」事業は、併せて行ったロビー・コンサート（37頁参照）の実施もあり、事業団にとっても貴重な機会でした。

### －愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会－

本事業も、「移動美術館」と同様に、遠隔地に居住されている方々に、生の管弦楽演奏の魅力を知っていただこうと企画したものです。全国で3つしかない公立の芸術大学の一つが愛知県立芸術大学で、優れた教授陣と充実したカリキュラム等により、全国から学生が集まり、毎年多くの実力ある人材を輩出しています。この事業は、演奏機会を学生に提供することにより、学生たちのレベルアップを図ることに貢献しています。

愛知県立芸術大学管弦楽団は、日本の指揮者の第一人者で同大学の客員教授を務める外山雄三が心血を注ぎ学生の指導に当たっています。公演のプログラムも近現代の曲目を入れるなど、学生のレベルアップを意識した意欲的な構成になっています。学生とはいえ質の高い公演を提供し、開催した市町村各地では高い評価をいただきました。（大脇）



平成22年度愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会  
(尾張旭市文化会館)

### －訪問演奏～音楽を届ける－

事業団では、劇場へ足を運ぶことが困難な方へ、音楽を届ける事を積極的に行っています。

特殊学校や病院などへアーティストが訪問し、生の音楽を届けることにより、心を豊かにしていただく事が願いです。（水野）

年度	訪問先	アーティスト
21	愛知県がんセンター※	大野和士 石井苗子 坂井田真美子 西村 悟
22	愛知県がんセンター※	大野和士 永崎京子 柿迫 秀
	愛知県立城山病院	堤剛 小森谷裕子
23	愛知県立盲学校 名古屋第二赤十字病院	平野雅世 永井秀司 服部容子
24	名古屋掖済会病院 豊田市立豊田養護学校	Duo YAMAMOTO

※「大野和士のころもふれあいコンサート」として実施

## 舞台技術者セミナー

照明、音響等の舞台技術は、あらゆる舞台芸術公演を劇場で成立させる重要な役割を担っており、愛知県芸術劇場を始め、ハイテク技術を駆使して完成した劇場が全国各地に誕生しています。このセミナーは、こうした状況を踏まえ、日進月歩で改良される劇場技術の高度化・複雑化に対応しうる舞台技術者を養成するため、全国的に発信力のある企画事業として、平成6年度から愛知県芸術劇場を会場に、事業団、愛知芸術文化センター（愛知県芸術劇場）及び愛知県舞台運営事業協同組合が共同で開催しており、平成24年度で19回目の開催となっています。

各年度毎に主催三者で協議の上、テーマ等を決定し、全国から参加者を募っています。参加者は、近年では毎回250人を超えており、このセミナーのテーマや内容が舞台技術者の関心に沿っていると同時に、当セミナーが継続的な事業として認知されてきた証だと思われまます。また、メインテーマである舞台技術のみならず、指定管理者制度や、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」、アートマネジメント人材の育成等、劇場を取り巻く環境の変化とその整備や、今後の展望等についての講義もセミナーに組み込まれるようになってきており、より幅広い関心層にアピールする内容に進化しています。また、舞台芸術家と若手デザイナーによる実演も行うなど、その成果が参加者にも実感できるものとなっています。（富田）



第1回舞台技術者セミナーの風景（撮影：加藤弘一）

## アウトリーチ

平成21年度及び平成22年度の「移動美術館」（36頁参照）開催期間中に、美術への関心と理解を深め、より一層の集客を図るため、会場エンタラ

スロビーにてコンサートを開催。またこれに関連した事業として、会場近隣の小学校を対象に、日頃生の芸術文化に触れることの少ない子どもたちに音楽を届ける「音楽アウトリーチ（出前音楽体験プログラム）」を行いました。

平成21年度の「移動美術館」は、豊橋市美術博物館で開催。チェロ奏者の天野武子（愛知県立芸術大学教授・芸術創造センター長）に出演を依頼し、「チェロってどんな楽器？」をテーマに、豊橋市立八町小学校、旭小学校の5・6年生（各70名程度）を対象にしたアウトリーチと、豊橋市美術博物館エンタラスロビーでのコンサートを、それぞれピアノの渡辺理恵子と共に行いました。

平成22年度は、テノール歌手の宮崎智永とピアノの西尾由希が、「オペラってなんだろう？」というテーマで安城市立明和小学校、安城東部小学校の5・6年生（各70名）を対象にしたアウトリーチを開催。また安城市民ギャラリーで開催中の「移動美術館」に合せて、隣接する安城市歴史博物館のエンタラスロビーにて、ソプラノ歌手の二宮咲子を加えた3名によるコンサートを行いました。

アウトリーチは、より間近で感じてもらいたいとの思いから、各校の音楽室にて1時限（45分間）で開催しました。それぞれ実際に、チェロを触って弾いてみようというコーナーを設けたり、テノール歌手のお腹を触らせてもらったりするという体験プログラムを取り入れ、多くの子どもたちが参加。子どもたちの楽しさに溢れた笑顔や、未知の体験に驚きの表情を浮かべる素直な反応が印象的でした。このアウトリーチをきっかけに、子どもたちが生の音楽に興味を持つようになってくれればうれしく思います。（小出）



平成22年度移動美術館ロビーコンサート  
（安城市歴史博物館）

愛知県文化振興事業団事業年表<凡例>

凡例	詳細	
公演番号	事業団の舞台公演の継続番号	
会場	大	愛知県芸術劇場大ホール
	コン	同コンサートホール
	小	同小ホール
	大リハ	同大リハーサル室
	中リハ	同中リハーサル室
	大中リ	同大・中リハーサル室
	A	愛知芸術文化センターアート・スペースA
	E・F	愛知芸術文化センターアート・スペースE及びアート・スペースF
	FO	愛知芸術センターフォーラム
	県内	県内の愛知芸術文化センター以外の施設
市内	名古屋市内の愛知芸術文化センター以外の施設	
ジャンル	オペラ	上演形式のオペラ
	コン	コンサート(オペラ演奏会形式、オペラ・ガラ・コンサート、レクチャーコンサートを含む)
	演劇	上演形式の演劇、ドラマリーディング
	民芸	民俗芸能
	WS	ワークショップ、公開レッスン、公開リハーサル、アウトリーチ
	講演	シリーズ・トーク(連続講座)、レクチャー
	その他	移動美術館、上映会、審査会、舞台技術者セミナー、見学会、バレエ等
楽器、パート等	TOS=東京オペラシンガーズ、AC=AC合唱団、ACOE=ACオペラ・アンサンブル S=ソプラノ、Ms=メゾ・ソプラノ、A=アルト、T=テノール、Br=バリトン、B/Br=バス・バリトン、B=バス 指=指揮、演=演出、講=講師、司=司会 P=ピアノ、Vn=ヴァイオリン、Va=ヴィオラ、Vc=チェロ、Fl=フルート、Cl=クラリネット、 Tp=トランペット、Tb=トロンボーン、Hr=ホルン、Sax=サクソフォン	

愛知芸術文化センター開館記念事業(平成4年度)

月日	会場	ジャンル	タイトル・出演者(奏者・講師等含む)	回数
10/29	コン	コン	「開館記念コンサート」飯守泰次郎(指)、漆原啓子(Vn)、後藤美代子(司会)、名フィル、地元合唱団他	1
10/30	コン	コン	セント・マーチン・アカデミー管弦楽団 マリナー(指)、諏訪内晶子(Vn)	1
10/30~11/1	小	演劇	①MODEX青春五月党『魚の祭』	4
10/31	コン	コン	セント・マーチン・アカデミー管弦楽団 マリナー(指)、ドーソン(S)、晋友会合唱団他	1
10/31	小	講演	トーク・ショー「奥田瑛二とその仲間たちー今なぜ愛知なのか！」	1
11/1	コン	コン	「親と子のオルガン・レクチャー・コンサート」ハーゼルベック(Org)	1
11/3	小	講演	ワイド・レビュー「名古屋演劇ガイドンナー知られざるその生感」	1
11/3	小	講演	パネル・ディスカッション「近代の(開腹)ーチャーホフ、岸田國士をめぐって」	1
11/4	コン	コン	「オルガン披露コンサート」ハーゼルベック(Org)	1
11/6~8	小	演劇	②東京巻組『ブラジルのいとこ』	4
11/8、11	大	オペラ	バイエルン国立歌劇場『影のない女』サヴァリッシュ(指)、市川猿之助(演)、ザイフェルト(T)他	2
11/9	コン	コン	バイエルン国立歌劇場管弦楽団「ガラ・コンサート」サヴァリッシュ(指)、ヴァラディ(S)他	1
11/10、12	大	オペラ	バイエルン国立歌劇場『フィガロの結婚』サヴァリッシュ(指)、レンネルト(演)、ヴァイクル(Br)他	2
11/12~15	小	演劇	③今井良実事務所プロデュース『アンダーグラウンド』	5
11/21~24	小	演劇	④劇団B級遊撃隊『インド人はブロンクスへ行きたがっている』	7
11/28~12/1	小	演劇	⑤東京サンシャインボーイズ『もはや これまで』	5
12/10~13	小	演劇	⑥プロジェクト・ナビ・プロデュース『岸田國士戯曲SHOW』	4
12/17~20	小	演劇	⑦新宿梁山泊『それからの夏-それからの愛しのメディア』	5
12/24~27	小	演劇	⑧名古屋むすめ歌舞伎『梅川忠兵衛』	6
1/14~25	大	バレエ	第1回世界バレエ・モダンダンス・コンクール	—

愛知県文化振興事業団事業年表

年度	公演 番号	実施日	会場	ジャンル	タイトル・出演者(奏者・講師等含む)	回数
H5 (1993)	1	4/28、29	大	オペラ	プロデュースオペラ『魔笛』 大友直人(指)、鈴木敬介(演)、小林一男(T)、平松英子(S)、福島明也(Br)、村井幹子(S)、戸山俊樹(B)、TOS、名フィル 他	2
	2	6/26	コン	コン	オルガンコンサートシリーズNo.1ハイジ・エマート(Org)	1
	4	7/6～8、14	大中リ	WS	呼吸法・発声法の大家 エレン・ミュラー＝ブライス教授によるワーク・ショップ	—
		7/14～25	小・大・大リハ	その他	世界劇場会議協賛事業'93 鼓童「Gathering」 始め全5事業	8
	3	7/28～29	大	演劇	『漂泊者のアリア』 沢田研二、鮫島有美子(S)、竹本泰蔵(指)、東京フィル 他	2
	5	9/23	コン	コン	オルガンコンサートシリーズNo.2 ジリアン・ウィーア(Org)	1
		10/1	大	オペラ	青少年のための「日生劇場オペラ教室」『蝶々夫人』手塚幸紀(指)、平尾力哉(演)、松波千津子(S)／内藤幸子(S)、名フィル 他	2
	6	10/2	大	オペラ	シリーズ「オペラへの誘い」'93『蝶々夫人』 手塚幸紀(指)、平尾力哉(演)、松波千津子(S)、成田勝美(T)、工藤 博(Br)、名フィル 他	1
	7	10/30	コン	コン	開館1周年記念「フランクフルト放送交響楽団」キタエンコ(指)、伊藤 恵(P)	1
	8	11/25～26	小	演劇	開館1周年記念 ドラマフェスティバル'93/'94 プレイボックス・シアター『リア王』	2
	9	12/24～25	コン	コン	開館1周年記念 オルガンコンサートシリーズNo.3カルロ・カーリー(Org)	1
	10	1/12	小	演劇	ドラマフェスティバル'93/'94 能『景清』	2
	11	2/3～6	小	演劇	ドラマフェスティバル'93/'94 北村 想作・演出『ひそやかな家』山田 昌、佃 典彦 他	6
	15	2/6	大	オペラ	『夕鶴』團 伊玖磨(指)、鈴木敬介(演)、鮫島有美子(S)、大阪センチュリー響 他	1
12	2/20	小	講演	ドラマフェスティバル'93/'94 トークショー吉本隆明VS北村 想「現代における”親と子”」吉本隆明(作家)、北村想(劇作家、演出家)	1	
13	2/26	コン	コン	オルガンコンサートシリーズNo.4大原佳代(Org)	1	
14	3/22	大	オペラ	小澤オペラ『トスカ』小澤征爾(指)、ニース(演)、ザンピエリ(S)、TOS、新日本フィル 他	1	
H6 (94)	16	5/10	コン	コン	「イタリア歌曲集(ヴォルフ作曲)～男と女の愛のお話」鮫島有美子(S)、スコウフス(Br) 他	1
	17	6/19	コン	コン	オルガンコンサートシリーズNo5「オルガン・レクチャーコンサート」廣野嗣雄(Org)	1
	18	7/8、10	大	オペラ	プロデュースオペラ『ドン・ジョヴァンニ』 大野和土(指)、鈴木敬介(演)、勝部 太(Br)、佐藤しのぶ(S)、小林一男(T)、片岡啓子(S)、池田直樹(B/Br)、TOS、名フィル他	2
		8/19	コン	コン	NHK交響楽団演奏会 尾高忠明(指)、伊藤 恵(P)	1
	19	9/11、14	大	オペラ	ローマ歌劇場『椿姫』サンティ(指)、ブロックハウス(演)、アリベルティ(S) 他	2
	19	9/13、15	大	オペラ	ローマ歌劇場『トスカ』サンティ(指)、ボロニーニ(演)、デミトローヴァ(S) 他	2
	20	9/28	大	オペラ	シリーズ「オペラへの誘い」'94『魔弾の射手』 岡田 司(指)、高島 勲(演)、稲垣俊也(B/Br)、遠藤久美子(S)、町田百々子(S)、直野 資(Br)、田中 誠(T) AC、名フィル 他	1
		9/29	大	オペラ	青少年のための「日生劇場オペラ教室」『魔弾の射手』岡田 司(指)、高島 勲(演)、山本佳代(S)、名フィル他 ※悪天候により中止	—
		10/8～16	県内	その他	移動美術館(南知多町総合体育館サブアリーナ)	—
		10/16	A	講演	小田島雄志講演会「シェイクスピアより愛をこめて」小田島雄志(講/英文学者・演劇評論家・翻訳家)	1
		10/23	コン	コン	クリスタル・ルートヴィヒ(Ms)「フェアウェルリサイタル」、スペンサー(P)	1
		10/23	A	その他	上映会「シェイクスピア・フィルムシアター」	—
	21	10/28	コン	コン	わかしやち国体協賛事業 名フィル特別演奏会「わかしやち国体前夜祭」竹本泰蔵(指)、白石禮子(Vn)	1
	22	11/12	コン	コン	ボルティモア交響楽団ジンマン(指)、ヨーヨー・マ(Vc)	1
	23	11/14～17	小	演劇	ドラマティック・シアター'94/'95 オックスフォード・ステージ・カンパニー『ロミオとジュリエット』	4
		11/15～16	大リハ	WS	ワークショップ「ジョン・レタラックの英国式演劇学校」ジョン・レタラック(オックスフォード・ステージ・カンパニー)	—
		11/23	A	講演	レクチャー「シアター・クリティック からだにとつての言葉」堂本正樹(講/演劇評論家) 他	1
	24	11/25	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(ライブレポートとよはし)	1
		12/7	EF	講演	レクチャー「能の劇空間」堂本正樹(講/演劇評論家)、藤田六郎兵衛(講/能楽笛方)	1
		12/14～18	中リハ	WS	ワークショップ「松本修のドラマスクール」松本修(講/劇作家・演出家)	—
	25	12/17	コン	コン	オルガンコンサートシリーズNo.6ジャン・ボワイエ(Org)	1
		12/20	EF	講演	レクチャー「ドラマティック・シアター'94/'95 に見る現代日本演劇の状況」安藤隆之(中京大学教授)	1
	26	12/21～23	小	演劇	ドラマティック・シアター'94/'95 かもねぎシヨット『遠くを見る癖』	3
	12/23	小	演劇	ステージ・レクチャー「『遠くを見る癖』の誕生するまで」多田慶子(講/俳優) 他	1	
27	12/24～25	小	演劇	ドラマティック・シアター'94/'95『こととことば』野坂恵子と片桐はいりの愛のお散歩	2	
28	1/18～19	小	演劇	ドラマティック・シアター'94/'95 ブラックシアター能『楊貴妃』	2	
29	2/1～2	大	オペラ	名古屋オペラ協会『袈裟と盛遠』星出 豊(指)、栗山昌良(演)、松波千津子(S)／近藤真理子(S)、名古屋シティ管 他	2	
30	2/11	コン	コン	オルガンコンサートシリーズNo.7「オルガンとトランペットの調べ」ルトウガー・ローマン(Org)、田宮堅二(Tp)	1	
	3/7～10	大・小	その他	第1回舞台技術者セミナー「舞台照明家・美術家のための照明プロジェクターによるステージ・デザイン」	—	
31	3/21	大	オペラ	小澤オペラ『セヴィリアの理髪師』小澤征爾(指)、ニース(演)、マテウツィ(T)、TOS、新日本フィル他	1	
H7 (95)	32	5/27～28	大	オペラ	名古屋二期会『カルメル会修道女の対話』外山雄三(指)、栗山昌良(演)、江口二美(S)／手嶋千尋(S)、名フィル他	2
	33	6/2	コン	コン	オルガンコンサートシリーズNo.8「オルガンレクチャーコンサート」ヴァインフリート・ペーニヒ(Org)、望月広幸(お話/オルガンビルダー)	1
	34	6/27、29	大	オペラ	プロデュースオペラ『さまよえるオランダ人』 佐渡 裕(指)、鈴木敬介(演)、直野 資(Br)、ミハイロフ(B)、渡辺美佐子(S)、田中誠(T)、西明美(Ms)、 吉田裕之(T)、TOS、AC、新日フィル 他	2
	35	8/2	コン	コン	少年少女合唱団による「阪神の亡き子たちに捧げる鎮魂歌」永友博信(指)、水谷俊二(Br)、NCCチェンバーオーケストラ、他	1
	37	9/3	コン	コン	「ホリデイコンサート I オルガンのひととき」新山恵理(Org)	1
		9/28～29	大	オペラ	青少年のための「日生劇場オペラ教室」『愛の妙薬』岡田 司(指)、鈴木敬介(演)、小山洋二郎(T)／古沢 泉(T)、AC、名フィル他	2
	36	9/30	大	オペラ	シリーズ「オペラへの誘い」'95『愛の妙薬』 岡田 司(指)、鈴木敬介(演)、山本佳代(S)、小山洋二郎(T)、岡本茂樹(Br)、稲垣俊也(B/Br)、飯塚千尋(S)、AC、名フィル 他	1
	38	10/10、12	大	オペラ	世界公園フェスティバル'95 記念 藤原歌劇団『アンドレア・シェニエ』菊池彦典(指)、マエストリーニ(演)、ジャコミーニ(T)、東京交響楽団 他	2
	10/24～29	県内	その他	移動美術館(足助町農業者トレーニングセンター)	—	

年度	公演 番号	実施日	会場	ジャンル	タイトル・出演者(奏者・講師等含む)	回数
H7 (95)	39	11/5	コン	コン	「ホリデイコンサートⅡ オルガンのひととき」久野将健(Org)	1
	40	11/27	コン	コン	スコットランド室内管弦楽団 スウェンセン(指)、ヴラダー(P)	1
	41	11/30	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(春日井市民会館)	1
	42	12/2	コン	コン	オルガンコンサートシリーズNo.9エドガー・クラップ(Org)	1
		1/12	EF	講演	レクチャー 演出論シリーズ1 竹内統一郎の演出論「演劇-消えゆく儚いもの」 竹内統一郎(講/劇作家・演出家)	1
		1/18	EF	講演	レクチャー「笑いの演劇-狂言」堂本正樹(講/演劇評論家)	1
		1/20	EF	講演	レクチャー 演出論シリーズ2 はせ ひろいちの演出論「日常はそんなに「日常臭く」なかったりする」 はせ ひろいち(講/劇作家・演出家)	1
		1/22~28	大中リ	WS	「“日常”をドラマするワークショップ」はせ ひろいち(講/劇作家・演出家)	—
		2/3	コン	WS	原田幸一郎のストリングス・アンサンブル・クリニック 原田幸一郎(講/Vn)	1
	43	2/4	コン	コン	原田幸一郎(Vn)と室内楽の仲間たちトークコンサート	1
	44	2/12~15	小	演劇	ブラックシアター狂言『こぶとり』、『佐渡狐』	4
		2/13~14	中リハ	WS	「野村萬斎のワークショップ」野村萬斎(講/狂言師)	—
		2/17	中リハ	講演	レクチャー「マルコム」の体感シェイクスピア劇場 ダフ・マルコム(講/俳優・愛知大学助教授)	1
	45	2/20	コン	コン	NHK交響楽団名古屋公演 北原幸男(指)、メイエ(CI)	1
	46	3/3	コン	コン	オルガンコンサートシリーズNo.10「オルガンとブラス・アンサンブルの調べ」小林英之(Org)、津堅直弘(Tp) 他	1
		3/5~7	大・小	その他	第2回舞台技術者セミナー「舞台技術者のための舞台技術・舞台機構の歴史・現在・未来」	—
		3/7~10	市内	その他	関連「歌劇『トゥーランドット』衣裳展」(松坂屋1階オルガン広場)	—
		3/27, 29	大リハ	WS	「英国式演劇指導のためのワークショップ」ジェイミー・ガーヴェン(講) 他	—
	47	3/28~30	小	演劇	シルヴィウ・ブレカレーテ演出『テンペスト』	3
H8 (96)		5/15	A	講演	シリーズ・トーク「オペラは私の喜び」①「オペラを指揮する喜び」大野和士(講/指揮者)、都築正道(司/音楽評論家) 他	1
	48	5/20	大	コン	フィラデルフィア管弦楽団 サヴァリッシュ(指・P)	1
		6/1~30	県内	その他	移動美術館(渥美町郷土資料館)	—
	49	6/8	コン	コン	オルガンコンサートシリーズNo.11 フランソワ・エスピナス(Org)	1
		6/11	A	講演	シリーズ・トーク「オペラは私の喜び」②「オペラを撮る喜び」木之下 晃(講/写真家)、都築正道 他	1
		6/19~21	大・小 他	その他	第3回舞台技術者セミナー「舞台技術者のための舞台技術・舞台機構の歴史・現在・未来Ⅱ」	—
		7/5	A	講演	シリーズ・トーク「オペラは私の喜び」③「オペラを作る喜び」小栗哲家(講/舞台監督)、都築正道 他	1
	50	7/6~7	大	オペラ	プロデュースオペラ『トゥーランドット』 外山雄三(指)、栗山昌良(演)、渡辺美佐子(S)/岩永圭子(S)、田口興輔(T)/福井 敬(T)、菅英三子(S)、TOS、AC、名フィル他	2
		8/6	A	講演	シリーズ・トーク「オペラは私の喜び」④「オペラを歌う喜び」稲垣俊也(講/B/Br)、都築正道 他	1
	51	9/8	コン	コン	「ホリデイコンサートⅢ オルガンのひととき」青田絹江(Org)	1
		9/10	A	講演	シリーズ・トーク「オペラは私の喜び」⑤「オペラを聴く・観る喜び」後藤美代子(講/元NHKアナウンサー)、都築正道 他	1
		9/14	EF	講演	レクチャー 太田省吾の演出論「月へ行く仕事」太田省吾(講/劇作家・演出家)	1
		10/3~4	大	オペラ	青少年のための「日生劇場オペラ教室」『夕鶴』時任康文(指)、鈴木敬介(演)、山本真由美(S)/山本佳代(S)、名古屋少年少女合唱団、名フィル	2
	52	10/5	大	オペラ	シリーズ「オペラへの誘い」96『夕鶴』 團伊玖磨(指)、鈴木敬介(演)、松波千津子(S)、大野憲一(T)、山本哲也(Br)、澤脇達晴(B)、名古屋少年少女合唱団、名フィル	1
		10/15	小	講演	「『更地』ステージ・レクチャー」太田省吾(講/劇作家・演出家)、岸田今日子、瀬川哲也(講/共に俳優)	1
	53	10/15~16	小	演劇	太田省吾作・演出『更地』岸田今日子、瀬川哲也	2
		10/22~23	中リハ	講演	「ジョン・レタラックのワークショップ」ジョン・レタラック(講/演出家)	—
	54	10/28~31	小	演劇	はせ ひろいち作・演出『バクスター氏の実験』	4
		11/2	EF	演劇	「シェイクスピア・レクチャー『様々な嵐(テンペスト)』」松岡和子(講/イギリス演劇・翻訳)	1
	55	11/3~4	大	オペラ	名古屋オペラ協会『額田女王』星出 豊(指)、栗山昌良(演)、佐藤ひさら(S)/近藤真理子(S)、名古屋シティ管他	2
	56	11/28	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(岡崎市民会館)	1
		11/28	中リハ	WS	「シアード・エクスペリエンス・シアターのワークショップ」ナンシー・メックラー(講/同シアター芸術監督)	—
	57	11/29~12/1	小	演劇	シアード・エクスペリエンス・シアター『テンペスト』	4
	12/1	小	講演	シアード・エクスペリエンス・シアター「『テンペスト』ステージレクチャー」ナンシー・メックラー(講/同シアター芸術監督)、安藤隆之(講/中京大学教授)	1	
58	3/9	コン	コン	オルガンコンサートシリーズNo.12 ミシェル・ブヴァール(Org)	1	
	3/29~30	A	オペラ	オペラ映画上映会「巨匠ゼッフィレッリの世界」	4	
H9 (97)	59	5/24	大	オペラ	メトロポリタン歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』、『道化師』レヴァイン(指)、ゼッフィレッリ(演)、ドミンゴ(T) 他	1
	59	5/25	大	オペラ	メトロポリタン歌劇場『トスカ』レヴァイン(指)、ゼッフィレッリ(演)、パヴァロッティ(T) 他	1
		5/26	大	オペラ	メトロポリタン歌劇場『カルメン』中学生・高校生のためのドレス・リハーサル公開	1
	59	5/28	大	オペラ	メトロポリタン歌劇場『カルメン』ドミンゴ(指)、ゼッフィレッリ(演)、マイヤー(Ms) 他	1
	60	6/1	大	オペラ	小澤オペラ『魔笛』小澤征爾(指)、ニース(演)、ロバルド(T)、TOS、新日フィル 他	1
		6/26~27	大・小	その他	第4回舞台技術者セミナー「舞台技術者のための舞台技術・舞台機構の歴史・現在・未来Ⅲ」	—
		7/10	A	講演	シリーズ・トーク「オペラ作曲家列伝Ⅰ:モーツァルト」①「モーツァルトの生涯とオペラ」田辺秀樹(講/独文学)、下垣真希(司/S)	1
		8/6	A	講演	シリーズ・トーク「オペラ作曲家列伝Ⅰ:モーツァルト」②「演出家が語るモーツァルトのオペラの世界」中村敬一(講/演出家)、下垣真希	1
		8/31	EF	講演	「『RADA※』の教育システムを学ぶレクチャー」ニコラス・パーター(RADA校長) ※RADA=Royal Academy of Dramatic Art	1
		9/13	コン	コン	オルガン・レクチャー・コンサート 吉田 文(Org)、ニコル(オルガンビルダー) 他	1
		9/18~19	大	オペラ	青少年のための「日生劇場オペラ教室」『後宮よりの逃走』沼尻竜典(指)、鈴木敬介(演)、山本佳代(S)/日紫喜恵美(S)、AC、名フィル 他	2
		9/19	大	講演	シリーズ・トーク「オペラ作曲家列伝Ⅰ:モーツァルト」③「『後宮よりの逃走』の舞台裏」沼尻竜典(講/指揮者)、下垣真希 他	1
	61	9/20	大	オペラ	シリーズ「オペラへの誘い」97『後宮よりの逃走』 沼尻竜典(指)、鈴木敬介(演)、山本佳代(S)、平山留美子(S)、波多野 均(T)、毛利和雄(T)、戸山俊樹(B)、名古屋少年少女合唱団、AC、名フィル 他	1
		9/27	EF	講演	ベケット・レクチャー「サミュエル・ベケットへの招待」高橋康也(講)	1

年度	公演番号	実施日	会場	ジャンル	タイトル・出演者(奏者・講師等含む)	回数
H9 (97)		10/8	EF	講演	「フランスの演劇事情〜パリの芝居小屋から」 風間 研(講/仏文学・演劇)	1
	62	10/16~18	小	演劇	ピーター・ブルック演出『しあわせな日々』(サミュエル・ベケット作)	3
		10/19~26	県内	その他	移動美術館(奥三河総合センター体育館)	—
	63	11/1	コン	コン	開館5周年記念 ウィーンの芸術文化とオルガン音楽 オルガンコンサートシリーズNo.13 マルティン・ハーゼルベック (Org)	1
	64	11/22	コン	コン	開館5周年記念 NHK交響楽団定期演奏会 サヴァリッシュ(指)、ベスカノフ(Vn)	1
	65	11/24	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(半田市福祉文化会館)	1
		12/8	大リハ	講演	シリーズ・トーク「オペラ作曲家列伝Ⅱ:ヴェルディ」①「ヴェルディのオペラ創作」 森島英子(講/P)、都築正道(司/音楽評論家) 他	1
		12/23~25	FO	コン	ミニコンサート「MERRY CHRISTMAS!」 高須道夫(指)、吉田徳子(Org)、AC (ウィーンの芸術文化とオルガン音楽)	3
	66	1/10~11	大	オペラ	名古屋二期会『天国と地獄』松尾葉子(指)、中村敬一(演)、山口雅子(S)/若狭真美(S)、名フィル 他	2
		1/15、17、18	A	その他	ウィーンの芸術文化とオルガン音楽 特集上映会「ウィーンを彩った作曲家たち」田辺秀樹(講)	—
		1/23	大リハ	講演	「オペラ作曲家列伝Ⅱ:ヴェルディ」②「私のヴェルディ」 林 康子(講/S)、都築正道 他	1
	67	2/8、11	大	オペラ	プロデューサーオペラ『ルイーザ・ミラー』 若杉弘(指)、栗山昌良(演)、市原多朗(T)、林 康子(S)、直野 資(Br)、TOS、AC、名フィル 他	2
		2/9	大	講演	シリーズ・トーク「オペラ作曲家列伝Ⅱ:ヴェルディ」③「『ルイーザ・ミラー』の舞台裏」小栗哲家(講/舞台監督)、都築正道 他	1
		2/14	EF	講演	「狂言を楽しむためのレクチャー」 小林 真(講/狂言研究者)	1
		2/17~22	中リハ	講演	「『スズキメソッド』を学ぶワークショップ」鈴木忠志(講/演出家) 他	—
		2/21	中リハ	講演	レクチャー「鈴木忠志の演出論」 鈴木忠志(講/演出家)	1
		2/24~27、3/1	A他	講演	ウィーンの芸術文化とオルガン音楽 連続講演会「ウィーンの芸術文化」 原 研二(講/都立大教授) 他	—
	68	3/8	コン	コン	開館5周年記念 ウィーンの芸術文化とオルガン音楽 オルガンコンサートシリーズNo.14 フロリアン・パギツチュ (Org)	1
	69	3/9、11	小	演劇	ブラックシアター狂言『こぶとり』、『月見座頭』	2
	69	3/10	小	演劇	ブラックシアター狂言『こぶとり』、『磁石』	1
	3/10~11	中リハ	WS	「狂言役者によるワークショップ」 茂山千五郎(講/狂言師)	2	
	3/13~24	中リハ他	WS	演劇教室第Ⅰ期「こころとからだを動かすワークショップ」 日本演出者協会愛知支部所属演出家 他	—	
H10 (98)		4/21~8/11	大リハ他	WS	演劇教室第Ⅱ期「演劇基礎入門講座」 日本演出者協会愛知支部所属演出家 他	—
	70	5/16	大	オペラ	小澤オペラ『ペレアスとメリザンド』 シュワルツ(指)、ニース(演)、ストラータス(S)、TOS、新日フィル他	1
		6/4	A	講演	シリーズ・トーク「イタリアオペラの世界からⅠ:ロッシーニとヴェルディ(以下「ロッシーニとヴェルディ」)」 ①「19世紀のイタリアオペラ」 都築正道(講/音楽評論家)、吉岡まり(司) 他	1
		6/4~5	大・小	その他	第5回舞台技術者セミナー「新たな世紀の舞台技術・舞台機構Ⅰ」	—
		6/7	EF	講演	シェイクスピア・レクチャー「加速する愛の悲劇」 安達まみ(講/イギリス演劇)	1
		6/9	A	講演	「野村萬斎RSC(ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー)を語る」 野村萬斎(講/狂言師)	1
	71	6/18~20	小	演劇	ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー『ロミオとジュリエット』	3
		7/2	大リハ	講演	シリーズ・トーク「ロッシーニとヴェルディ」②「ヴェルディを歌う喜び」 市原多朗(講/T)、吉岡まり 他	1
	72	7/5	大	オペラ	新国立劇場『ナブッコ』グアダーニョ(指)、ディアツ(演)、直野 資(Br)、新星日本響 他	1
		8/29	コン	コン	サマー・レクチャー・コンサート「チェンバロ、ピアノとオルガン」	1
		9/24~25	大	オペラ	青少年のための「日生劇場オペラ教室」『セビリヤの理髪師』 沼尻竜典(指)、鈴木敬介(演)、小山陽二郎(T)/西垣俊朗(T)、名フィル、AC 他	2
		9/24	大	講演	シリーズ・トーク「ロッシーニとヴェルディ」③「『セビリヤの理髪師』の舞台裏」 沼尻竜典(講/指揮者)、吉岡まり 他	1
	73	9/26	大	オペラ	シリーズ「オペラへの誘い」98『セビリヤの理髪師』 沼尻竜典(指)、鈴木敬介(演)、小山陽二郎(T)、山本真由美(S)、松下雅人(B)、大澤 健(Br)、岡本茂朗(Br)、橋爪万里子(S)、名フィル、AC 他	1
		10/10~18	県内	その他	移動美術館(吉良町農村環境改善センター)	—
		10/10	コン	コン	「来て、見て、弾いて バイブオルガンⅠ」 ステファノ・インノチェンティ(Org)	1
	74	10/11	コン	コン	イタリア・ヨーロッパとオルガン音楽 オルガンコンサートシリーズNo.15 ステファノ・インノチェンティ(Org)	1
		11/6	大リハ	講演	シリーズ・トーク「イタリアオペラの世界からⅡ:ヴェルディとプッチーニ(以下「ヴェルディとプッチーニ」)」 ①「イタリアオペラの到達点」 國土潤一(講/音楽評論家)、碓目裕夫(司/P) 他	1
		11/14	中リハ	講演	対談「ふたりの方程式—あふれる言葉のゆくえ—」 堀田あけみ(作家)、赤井俊哉(劇作家・演出家) 他	1
		11/14	コン	コン	「来て、見て、弾いて バイブオルガンⅡ」 ダニエル・モレ(Org)	1
	75	11/15	コン	コン	イタリア・ヨーロッパとオルガン音楽 オルガンコンサートシリーズNo.16ダニエル・モレ(Org)	1
	76	11/19	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(新城文化会館)	1
	77	11/28~29	大	民芸	ふるさと芸能祭「ふるさとの田楽と歌舞伎」	2
	78	12/4~6	小	演劇	赤井俊哉作・演出『光の帝国〜陽のあたるカンバス〜』	3
		12/10	大リハ	講演	シリーズ・トーク「ヴェルディとプッチーニ」②「『ラ・ボエーム』の世界から」 浜田理恵(講/S)、碓目裕夫	1
		12/23~24	FO	コン	「ミニコンサート合唱の調べ」 高須道夫(指)、脇山陽子(Org)、AC	2
		1/9	A	講演	「能を楽しむためのレクチャー『恋の軽さ、恋の重さ』」 馬場あき子(講/歌人)	1
		1/15	コン	コン	「来て、見て、弾いて バイブオルガンⅢ」 藤枝照久(Org)	1
	79	1/16	コン	コン	イタリア・ヨーロッパとオルガン音楽 オルガンコンサートシリーズNo.17 藤枝照久(Org)、高須道夫(指)、AC	1
		1/20	大リハ	講演	シリーズ・トーク「ヴェルディとプッチーニ」③「『椿姫』の世界から」 頼近美津子(講/コンサートプランナー)、碓目裕夫 他	1
	80	1/24	大	オペラ	藤原歌劇団『椿姫』バルンボ(指)、トマーヅ(演)、ルキアネツ(S)、東フィル他	1
81	1/28~29	小	演劇	ブラックシアター能『恋重荷』	2	
	1/28	小	講演	ステージレクチャー「能『恋重荷』の魅力」 観世鏡之丞(講/能楽師) 他	1	
	1/29	小	講演	ステージレクチャー「能の持つリアリズム」 大槻文蔵(講/能楽師) 他	1	
82	2/20	コン	コン	NHK交響楽団定期演奏会 スヴェトラノフ(指)、ベトロフ(P)	1	
	2/22~28	大中リハ	WS	坂手洋二のワークショップ「亡霊と出会う場所」 坂手洋二(講/劇作家・演出家)	—	
	2/27	大リハ	講演	レクチャー「坂手洋二の演出論」 坂手洋二(講/劇作家・演出家)	1	
83	2/27~28	大	オペラ	名古屋オペラ協会『天守物語』 星出 豊(指)、栗山昌良(演)、松波千津子(S)/藤本圭子(S)、セントラル愛知響 他	2	

年度	公演 番号	実施日	会場	ジャンル	タイトル・出演者(奏者・講師等含む)	回数
H11 (99)	84	6/3~6	小	演劇	tptプロデュース『橋からの眺め』アーサー・ミラー(作)、アッカーマン(演)	4
		6/30~7/1	大・小	その他	第6回舞台技術者セミナー「新たな世紀の舞台技術・舞台機構Ⅱ」	—
	85	7/23~24	大	演劇	ギリシャ悲劇『アンティゴネー』 山下智恵子(脚本)、伊藤 敬(演)	2
	86	8/27~28	小	演劇	グローブ座カンパニー 子供のためのシェイクスピア『オセロー』	2
	87	9/18~19	大	オペラ	名古屋二期会『魔笛』レニツク(指)、松本重孝(演)、笠井幹夫(T)ノ神田豊壽(T)、名フィル他	2
		9/30~10/1	大	オペラ	青少年のための「日生劇場オペラ教室」『ヘンゼルとグレーテル』沼尻竜典(指)、鈴木敬介(演)、杉田美紀(Ms)ノ味岡真紀子(Ms)、AC、名フィル他	2
	88	10/2	大	オペラ	シリーズ「オペラへの誘い」99『ヘンゼルとグレーテル』沼尻竜典(指)、鈴木敬介(演)、杉田美紀(Ms)、株橋顕子(S)、林 剛一(Br)、与田朝子(Ms)、串田淑子(Ms)、山本佳代(S)、飯田実千代(S)、AC、名フィル他	1
	89	10/9	コン	コン	音楽への扉①「テーマコンサート・メロディⅠ」池辺晋一郎(企画・解説)他	1
		10/9~24	県内	その他	移動美術館(新城文化会館)	—
	90	11/13	コン	コン	音楽への扉②「古楽:オルガン」鈴木雅明(Org)	1
	91	11/23	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(犬山市民文化会館)	1
	92	12/5	大	民芸	ふるさと芸能祭「ふるさとの忠臣蔵」	1
		12/9	大リハ	講演	音楽への扉「木村まり(Vn)講演会」	1
	93	12/11	コン	コン	音楽への扉③「20世紀音楽」木村まり(Vn)	1
		12/15	大リハ	講演	シリーズ・トーク「オペラを創る人びと」①「舞台美術の魅力」白石恵子(講/舞台美術家)、金子一也(司/文化事業プランナー)他	1
		12/23~24	FO	コン	「ミニコンサート合唱の調べ」高須道夫(指)、早川志づ江(Org)、AC	2
	94	1/8	コン	コン	音楽への扉④「声楽」甚目裕夫(P)、岩井理花(S)他	1
		1/21	大リハ	講演	シリーズ・トーク「オペラを創る人びと」②「オペラと言語の素敵な関係」河原廣之(講/舞台言語表現法指導)、金子一也 他	1
		1/22	A	講演	「ストリンドベリと演劇の魅力〜ロジャー・バルバースと筒井康隆の対談〜」ロジャー・バルバース(演出家・劇作家・作家)、筒井康隆(小説家・劇作家・俳優)	1
		2/11~13	大リハ	WS	「鴻上尚史のオープンワークショップ」鴻上尚史(講/劇作家・演出家)他	—
95	2/12	コン	コン	音楽への扉⑤「テーマコンサート・メロディⅡ」橋場めぐみ(P)	1	
	2/13	大リハ	講演	演出論シリーズ 鴻上尚史「演劇論・演劇的生き方のヒント」鴻上尚史(講)	1	
96	2/19	コン	コン	NHK交響楽団定期演奏会 スラトキン(指)、ブラウニング(P)	1	
	2/25	大リハ	講演	シリーズ・トーク③「オペラのオーケストラの世界」朝枝信彦(講/Vn)、金子一也 他	1	
97	3/11	コン	コン	音楽への扉⑥「オルガン音楽」小林英之(Org)	1	
98	3/24~26	小	演劇	ベル・シェイクスピア・カンパニー『死の舞踏』ストリンドベリ(作)、バルバース(演・台本)	4	
H12 (2000)	99	4/21~23	小	演劇	JIS企画『月ノ光』竹内統一郎(作・演)	4
		6/5	大	オペラ	モンテカルロ歌劇場『椿姫』中学生・高校生のためのドレス・リハーサル公開	1
	100	6/7	大	オペラ	モンテカルロ歌劇場『椿姫』ボニン(指)、ピッツィ(演)、ゲオルギュー(S)他	1
	100	6/8	大	オペラ	モンテカルロ歌劇場『カルメン』グアダーニョ(指)、サジ(演)、グレイヴズ(Ms)他	1
		6/28~29	大・小	その他	第7回舞台技術者セミナー「新たな世紀の舞台技術・舞台機構Ⅲ」	—
	101	8/25~27	小	演劇	グローブ座カンパニー 子供のためのシェイクスピア『リア王』	4
		9/21~22	大	オペラ	青少年のための「日生劇場オペラ教室」『愛の妙薬』沼尻竜典(指)、鈴木敬介(演)、小林一男(T)ノ喜納健仁(T)、AC、名フィル 他	2
	102	9/23	大	オペラ	シリーズ「オペラへの誘い」00『愛の妙薬』沼尻竜典(指)、鈴木敬介(演)、山本真由美(S)、小林一男(T)、林 剛一(Br)、片桐直樹(B)、三河紀子(S)、AC、名フィル 他	1
		9/30~10/9	県内	その他	移動美術館(立田村総合体育館)	—
		10/4	小	その他	第1回AAF戯曲賞公開審査会	1
		10/5	中リハ	講演	シリーズ・トーク「イタリア・バロック音楽の世界」①「イタリア・初期バロック演奏法」宇田川貞夫(講/ヴァイオリン・ガンバ)、上田智美(司/音楽評論家)他	1
	103	10/7	コン	コン	音楽への扉①「テーマコンサート・リズムⅠ」池辺晋一郎(企画・解説)他	1
	104	10/29	大	オペラ	名古屋オペラ協会『祝い歌が流れる夜に』古谷誠一(指)、直井研二(演)、松波千津子(S)ノ千田恭子(S)、セントラル愛知響 他	2
		10/30	コン	コン	フランクフルト放送交響楽団 インバル(指)	1
		11/9	中リハ	講演	シリーズ・トーク「イタリア・バロック音楽の世界」②「イタリア歌曲の詩と歌い方」藤崎育之(講/T)、上田智美 他	1
	105	11/11	コン	コン	音楽への扉②「オルガン音楽」三浦はつみ(Org)	1
	106	11/16~18	小	演劇	ブラックシアター狂言『武悪』、改作『博奕十王』	4
		11/16~18	小	講演	若手狂言師によるステージレクチャー 野村小三郎(講/狂言師)他	3
	107	11/23	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(蒲郡市民会館)	1
		11/27	大リハ	講演	シリーズ・トーク「イタリア・バロック音楽の世界」③「イタリア古典音楽曲の世界」嶺 貞子(講/S)、上田智美 他	1
	108	12/3	大	民芸	ふるさと芸能祭「ふるさとの風流と歌舞伎」	2
	109	12/9	コン	コン	音楽への扉③「テーマコンサート・リズムⅡ」清水直子(Va)、アイディン(P)	1
		12/16~17	FO	コン	「ミニコンサート合唱の調べ」高須道夫(指)、高橋寛樹(P)、AC	2
		1/10	大リハ	講演	シリーズ・トーク「オペラ・アラ・カルト」①「オペラの中の私」高橋薫子(講/S)、都築正道(司/音楽評論家)他	1
	110	1/13	コン	コン	音楽への扉④「現代音楽」野平一郎(P)	1
	111	1/20	コン	コン	NHK交響楽団定期演奏会 準・メルクル(指)、竹澤恭子(Vn)	1
		2/7	大リハ	講演	シリーズ・トーク「オペラ・アラ・カルト」②「オペラと衣裳」下斗米雪子(講/衣裳デザイナー)、都築正道 他	1
112	2/10	コン	コン	音楽への扉⑤「声楽」森島英子(お話・P)、西野 薫(S)、藪西正道(Br)、AC他	1	
113	2/17	コン	コン	名古屋フィルハーモニー交響楽団 21世紀記念特別演奏会 小林研一郎(指)他	1	
	3/9~11	中リハ	WS	土田英生のワークショップ「カラオケを越える演技」土田英生(講/劇作家・演出家・俳優)	—	
	3/10	中リハ	講演	講演会「土田英生の演出論」土田英生(講/劇作家・演出家・俳優)	1	
114	3/10	コン	コン	音楽への扉⑥「古楽」浜中康子(監修・バロックダンス)他	1	
	3/22	大リハ	講演	シリーズ・トーク「オペラ・アラ・カルト」③「舞台上のコミュニケーションとオペラ演出」コルネーダー(講/演出家)、都築正道 他	1	

年度	公演番号	実施日	会場	ジャンル	タイトル・出演者(奏者・講師等含む)	回数	
H13 (01)	115	4/20~22	小	演劇	第1回愛知県芸術劇場演劇フェスティバル(以下「第〇回演フェス」) 燐光群『ララミー・プロジェクト』 M・カウフマン+テクトニック・シアター・プロジェクト(作)、常田景子(訳)、坂手洋二(演)	4	
	116	4/25~30	小	演劇	「第1回演フェス」劇団クセックACT『ドン・キホーテ・・・その狂気について』セルバンテス(作)、田尻陽一(翻訳・脚色)、神宮寺 啓(演)	6	
	117	5/9~13	小	演劇	「第1回演フェス」少年ボーイズ『阿咩(あ・うん)』堤 幸彦(監修)、多田木亮佑(演)、梅緒咲紀子(脚本)	5	
	118	5/15~20	小	演劇	「第1回演フェス」おことえYA! プロデュース『君知るや雀の夢を—貞奴と亡者たち—』麻創けい子(作)、湯浅 実(演)	8	
		6/21~22	大	オペラ	青少年のための「日生劇場オペラ教室」『夕鶴』 現田茂夫(指)、鈴木敬介(演)、飯田実千代(S) / 山本佳代(S)、名古屋少年少女合唱団、名フィル	2	
	119	6/23	大	オペラ	シリーズ「オペラへの誘い」01『夕鶴』 現田茂夫(指)、鈴木敬介(演)、飯田実千代(S)、吉田伸昭(T)、林 剛一(Br)、戸山俊樹(B)、名古屋少年少女合唱団、名フィル	1	
		7/5~6	大・小	その他	第8回舞台技術者セミナー「劇場での安全確保とその技術」	—	
		7/7~8/5	県内	その他	移動美術館(田原町博物館)	—	
	120	8/25~26	小	演劇	グループ座カンパニー 子供のためのシェイクスピア『リチャード二世』	3	
		10/2	小	その他	第2回AAF戯曲賞座談会・公開審査会	1	
	121	10/13	コン	コン	音楽への扉①「テーマコンサート・ハーモニーⅠ」 池辺晋一郎(企画・解説) 他	1	
	122	10/21	コン	コン	NHK交響楽団定期演奏会 サヴァリッシュ(指)、リボヴシェック(Ms)	1	
	123	11/10~11	大	オペラ	名古屋二期会『フィガロの結婚』 佐藤功太郎(指)、松本重孝(演)、晴 雅彦(Br) / 山本哲也(Br)、名フィル他	2	
	124	11/17	コン	コン	音楽への扉②「オルガン音楽」 廣江理枝(Org)	1	
	125	11/23~25	小	演劇	第1回AAF戯曲賞優秀賞受賞作『大熊猫(パンダ)中毒』 半澤寧子(作)、天野天街(演)	4	
	126	11/25	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(瀬戸市文化センター)	1	
	127	12/2	大	民芸	ふるさと芸能祭「ふるさと歌舞伎大集合其三」	2	
	128	12/15	コン	コン	音楽への扉③「テーマコンサート・ハーモニーⅡ」 クアルテット・エクセルシオ(弦楽四重奏) 他	1	
		12/16	FO	コン	「ミニコンサート合唱の調べ」 高須道夫(指)、山本敦子(P)、AC	2	
	129	1/12	コン	コン	音楽への扉④「声楽」 小崎雅弘(企画・指)、牧野正人(Br)、AC他	1	
		1/16	大リハ	講演	シリーズ・トーク「オペラ万華鏡」①「各国の劇場とオペラ文化」 近江 養(講/劇場アドバイザー)、深谷里奈(司/アナウンサー)	1	
	130	1/18	コン	コン	名古屋フィルハーモニー交響楽団特別演奏会「コンチェルトの夕べ」 沼尻竜典(指)	1	
	131	2/9	コン	コン	音楽への扉⑤「古楽」 小倉貴久子(フォルテ・ピアノ)	1	
		2/26	大リハ	講演	シリーズ・トーク「オペラ万華鏡」②「バリトンはオペラ成功の鍵を握る」 牧野正人(講/Br)、深谷里奈 他	1	
	132	3/9	コン	コン	音楽への扉⑥「現代音楽」 御喜美江(アコーディオン)、シェンク(P)	1	
		3/14~16	大中リ	WS	宮田慶子のワークショップ「自立した役者ということ」 宮田慶子(講/演出家)	—	
		3/16	大リハ	講演	宮田慶子の演出論「多面体の演出家」 宮田慶子(講/演出家)	1	
		3/20	大リハ	講演	シリーズ・トーク「オペラ万華鏡」③「オペラ演出:台本とスコア(楽譜)から生まれるドラマ」 栗園 淳(講/演出家)、深谷里奈 他	1	
	H14 (02)	133	4/13	コン	コン	NHK交響楽団定期演奏会 スクロヴァチェフスキ(指)	1
		134	4/19~21	小	演劇	「第2回演フェス」劇団 太陽族『ここからは遠い国』 岩崎正裕(作・演)	4
135		4/26~29	小	演劇	「第2回演フェス」名古屋シアター・アーツ『春』 栗木英章(作)、木崎裕次(演)	5	
136		5/10~12	小	演劇	「第2回演フェス」劇団ジャブジャブサーキット『しるくさんど』 はせ ひろいち(作・演)	4	
137		5/17~19	小	演劇	「第2回演フェス」劇団B級遊撃隊『ミノタウロスの悪夢』 佃 典彦(作)、神谷尚吾(演)	4	
		6/16	コン	コン	ワイマール州立歌劇場管弦楽団 アルブレヒト(指)、及川浩治(P)	1	
138		7/6	コン	コン	音楽への扉「オペラは声だ!」①「Viva! ヴェルディ」 木下美穂子(S)、酒井 章(司会) 他	1	
		7/9~10	大・小	その他	第9回舞台技術者セミナー「21世紀型劇場技術-劇場技術の社会性-その展望と可能性」	—	
139		9/14	コン	コン	音楽への扉「オペラは声だ!」②「テノールの魅惑」 佐野成宏(T)、佐藤正浩(P)	1	
		10/10~12	大中リ	WS	ワークショップ「めざせ! コレペティウア」 佐藤正浩(講/P)	—	
		10/16	小	その他	第3回AAF戯曲賞座談会・公開審査会	1	
140		10/26~27	大	オペラ	名古屋オペラ協会『新・琵琶白菊物語』 星出 豊(監修・指)、直井研二(演)、松波千津子(S) / 盛 かおる(S)、小牧市交響楽団他	2	
		10/26~27	中リハ他	WS	「ACオペラ・アンサンブルワークショップ」 足立桃子(講/コレペティウア)	—	
141		11/3	コン	コン	音楽への扉「オペラは声だ!」③「声が削るオペラの舞台」 足立桃子(P・お話)、ACOE	1	
142		11/15~17	小	演劇	第2回AAF戯曲賞優秀賞受賞作『so bad year』 永山智行(作)、齋藤敏明(演)	4	
		11/21~1/19	県内	その他	移動美術館(高浜市・やきもの里かわら美術館)	—	
143		11/23	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(パティオ池鯉鮒(知立市文化会館))	1	
144		12/1	大	民芸	ふるさと芸能祭「ふるさとの人形芝居と歌舞伎」	—	
145		12/14	コン	コン	「Xmasはオルガンだ!」 藤枝照久(Org)	1	
		1/27	大リハ	講演	シリーズ・トーク「ヴェルディ『仮面舞踏会』のマルチな楽しみ方(以下「『仮面舞踏会』」) ①「ヴェルディのオペラの女性像」 水谷彰良(講/オペラ研究者)、小林史子(司/S)他	1	
146		2/8	コン	コン	音楽への扉「オペラは声だ!」④「~オペラ・ガラ~<仮面舞踏会>の聴き所」 ポエーミ(指)、並河寿美(S)、名フィル他	1	
		2/13	大リハ	講演	シリーズ・トーク「仮面舞踏会」②「ヴェルディと『仮面舞踏会』」 永竹由幸(講/音楽評論家)、小林史子 他	1	
147		2/27~3/2	小	演劇	開館10周年記念 朗読劇『おとぎ想子』 北村 想(作)、はせ ひろいち(演)	5	
	3/19	大	オペラ	『仮面舞踏会』 青少年のためのゲネプロ公開	1		
148	3/21,23	大	オペラ	開館10周年記念プロデュースオペラ『仮面舞踏会』 ポエーミ(指)、高島 勲(演)、佐野成宏(T)、直野 資(Br)、佐藤しのぶ(S)、西 明美(Ms)、天羽明恵(S)、TOS、AC、名フィル 他	2		
	3/22	大	講演	シリーズ・トーク「仮面舞踏会」③「イタリアの伝統的舞臺美術」 グラッシ(講/舞臺美術家)、小林史子 他	1		
H15 (03)	149	4/18~20	小	演劇	「第3回演フェス」劇団IQ150『東仙台物語—大改訂版—』 丹野久美子(作・演・出演)	4	
	150	4/25~27	小	演劇	「第3回演フェス」総合劇集団俳優館『Fly Me To The Moon~わたしを月につれてって~』 右来左往(作・演)	4	
	151	5/15~18	小	演劇	「第3回演フェス」劇団シアターガッツ『初恋のひと』 品川浩幸(作・演)	6	
	152	5/24~25	小	演劇	「第3回演フェス」演劇弁当猫ニャー『弁償するとき目が光る』 ブルースカイ(作・演)	4	
		7/15~16	大・小	その他	第10回舞台技術者セミナー「劇場技術の基本と最新のテクノロジー」	—	



年度	公演 番号	実施日	会場	ジャンル	タイトル・出演者(奏者・講師等含む)	回数
(03)	H15	153	8/30~31	小	演劇 子供のためのシェイクスピアカンパニー『シンペリン』	3
	154	9/14~15	大	オペラ 名古屋二期会『カルメン』大勝秀也(指)、松本重孝(演)、岩田千里(Ms)/東川恭子(A)、名古屋二期会管 他	2	
	155	9/20	コン	音楽への扉「オペラはドラマだ！」①「オペラと人間ドラマ」岩田達宗(企画・解説)、服部容子(P)、ACOE 他	1	
		10/4~13	県内	その他 移動美術館(西尾市総合体育館サブアリーナ)	—	
		10/12	小	その他 第4回AAF戯曲賞公開審査会・座談会	1	
	156	10/17	大	オペラ プロデュースオペラ『椿姫』(学生向け公演) 児玉 宏(指)、栗園 淳(演)、小林菜美(S)、樋口達哉(T)、AC、名フィル他	2	
		10/18	大	講演 シリーズ・トーク「オペラは語る」①「オペラ=音楽とドラマの融合体」児玉 宏(講/指揮者)、國土潤一(司/音楽評論家)	1	
	156	10/19	大	オペラ プロデュースオペラ『椿姫』 児玉 宏(指)、栗園 淳(演)、小林菜美(S)、樋口達哉(T)、西田昭広(Br)、AC、名フィル他	1	
	157	11/10	コン	コン NHK交響楽団定期演奏会 広上淳一(指)、ベルキン(Vn) 他	1	
	158	11/15	コン	コン シリーズ・トーク音楽への扉「オペラはドラマだ！」②「ドラマティックな声の愉悅」佐藤亜希子(S)、國土潤一(解説)他	1	
	159	11/24	県内	コン 愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(江南市民文化会館)	1	
		11/25	大リハ	講演 シリーズ・トーク「オペラは語る」②「コンサートマスターが語るオペラの世界」後藤龍伸(Vn)、國土潤一(音楽評論家・お相手)他	1	
	160	12/7	大	民芸 ふるさと芸能祭「ふるさとの七福神踊りと歌舞伎」	2	
	161	12/12~14	小	演劇 第3回AAF戯曲賞優秀賞受賞作『アトミア』小里 清(作)、神谷尚吾(演)	4	
	162	12/23	コン	コン 「Xmasはオルガンだ！Ⅱ」吉田 恵(Org)	1	
		1/14	大リハ	講演 シリーズ・トーク「オペラは語る」③「イタリア・オペラの楽しみ方」小崎雅弘(講/指揮者)、國土潤一 他	1	
163	1/17	コン	コン 音楽への扉「オペラはドラマだ！」③「オペラの華、ディーヴァの世界」大橋マリ(企画・構成・お話)、緑川まり(S)、塚本直美(P/Org)	1		
164	3/20	コン	コン 音楽への扉「オペラはドラマだ！」④「オペラ・ガラコンサート」小崎雅弘(指)、小林菜美(S)、樋口達哉(T)、西田昭広(Br)、清水芳子(Ms)、名フィル、AC他	1		
(04)	H16	165	4/16~18	小	演劇 「第4回演フェス」オーロール座『愛の妖精・オーロール』宮原峠子(作)、穂戸ゆずる(演)	4
	166	4/24~25	小	演劇 「第4回演フェス」劇団八時半『久保君をのぞくすべてのすみっこ』鈴江俊郎(作・演)	4	
	167	5/14~16	小	演劇 「第4回演フェス」ヨーロッパ企画『ムーミン』上田 誠(作・演)	4	
	168	5/20~23	小	演劇 「第4回演フェス」伊沢勉の会『海が見たい』伊沢 勉(作)、竹下喜六(演)	5	
		6/13~18	中リハ	WS 「児玉 宏のオペラワークショップ～オペラを創る！～」児玉 宏(講/指揮者)	—	
	169	6/27	コン	コン NHK交響楽団定期演奏会 タルミ(指)、エーネス(Vn)	1	
		7/3~8/8	県内	その他 移動美術館(蒲郡市博物館)	—	
		7/13~14	大・小	その他 第11回舞台技術者セミナー「劇場ルネッサンス」	—	
	170	8/8	小	演劇 「E-1グランプリ 2004名古屋大会」	1	
		8/27	大リハ	WS 子供のためのワークショップ—夏休みエンゲキ体験— 山崎清介(講/脚本・演出・出演)	1	
	171	8/27~29	小	演劇 子供のためのシェイクスピアカンパニー『ハムレット』	4	
	172	9/11	コン	コン 音楽への扉「オペラ・フォーエヴァー」①「VIVA！ヴォーチェ(『リゴレット』)」大勝秀也(指)、森 麻季(S)他、名フィル	1	
	180	9/20	コン	コン 名古屋フィルハーモニー交響楽団第306回定期演奏会『蝶々夫人』沼尻竜典(指)、AC他	1	
	173	10/16	コン	コン 音楽への扉「オペラ・フォーエヴァー」②「オルガンとともに聴くオペラ・アリア」中嶋彰子(S)、土橋 薫(Org)	1	
	174	11/20	コン	コン 音楽への扉「オペラ・フォーエヴァー」③「オペラの新星発見」田村麻子(S)、手嶋眞佐子(Ms)、江澤隆行(P)他	1	
	175	11/21	県内	コン 愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(常滑市民文化会館)	1	
	176	12/5	大	民芸 ふるさと芸能祭「ふるさとの笹踊りと歌舞伎」	—	
	177	12/10~12	小	演劇 第4回AAF戯曲賞受賞作『water witch～漂流姉妹都市～』スエヒロケイスケ(作)、寺十吾(演)	4	
	178	12/18	コン	コン 「Xmasはオルガンだ！Ⅲ」三浦はつみ(Org)	1	
		1/10	大リハ	講演 シリーズ・トーク「オペラと出会うひととき」①「『蝶々夫人』試論」ガルディーニ(講/オペラ言語コーチ)、國土潤一(司/音楽評論家)他	1	
179	1/15	コン	コン 音楽への扉「オペラ・フォーエヴァー」④「オペラに魅せられて」市原多朗(T)、森島英子(P)、ACOE	1		
181	2/19	コン	コン プレ愛・地球博「ブラチナ・ガラコンサート」井崎正浩(指)、藤枝照久(Org)、渡辺玲子(Vn)、清水直子(Va)、野平一郎(P)、名フィル	1		
	2/28	大リハ	講演 シリーズ・トーク「オペラと出会うひととき」②「制作現場とオペラを創る喜び」増田宏昭(講/指揮者)、國土潤一 他	1		
	3/8	大リハ	講演 シリーズ・トーク「オペラと出会うひととき」③「舞台裏から覗いたオペラ」伊藤隆浩(講/演出家)、國土潤一 他	1		
182	3/13	大	コン プレ愛・地球博「ゴージャス・ガラコンサート」増田宏昭(指)、緑川まり(S)、市原多朗(T)、AC、名フィル他	1		
(05)	H17	183	4/13~14	大	その他 愛・地球博記念特別公演 バリ・オペラ座・バレエ団『シーニュ』	2
	184	4/15~17	小	演劇 愛・地球博パートナーシップ事業 「第5回演フェス」流山児★事務所『ハイ・ライフ』リー・マクドゥーガル(原作)、流山児祥(演)	4	
	185	4/22~24	小	演劇 愛・地球博パートナーシップ事業 「第5回演フェス」うずめ劇場『ねずみ狩り』ペーター・トゥーリニ(原作)、ペーター・ゲスナー(演)	4	
	186	5/13~15	小	演劇 愛・地球博パートナーシップ事業 「第5回演フェス」劇団B級遊撃隊『破壊への二時間、又は私達は如何にして『博士の異常な愛情』を愛するようになったか』 佃典彦(作)、神谷尚吾(演)	4	
	187	5/20~22	小	演劇 愛・地球博パートナーシップ事業 「第5回演フェス」小三郎劇場 ネオ狂言『殿姫愛遊戯』野村小三郎、野村又三郎他出演	4	
	188	5/19	大	オペラ 愛・地球博開催記念 フェニーチェ歌劇場名古屋公演2005『椿姫』ベニーニ(指)、カーセン(演)、チョーフィ(S) 他	1	
	189	6/18~19	大	オペラ 名古屋二期会『なよ竹の輝夜』工藤俊幸(指)、西川右近(演)、二宮咲子(S)/加川文子(S)、名古屋二期会管 他	2	
		6/24	大リハ	講演 シリーズ・トーク「愛知からのオペラ創造」①「新作オペラ鑑賞への序章」白石美雪(講/音楽学)、石戸谷結子(司/音楽評論家) 他	1	
		7/12	小	その他 第12回舞台技術者セミナー「劇場ルネッサンス partⅡ」	—	
	190	7/23	コン	コン 愛・地球博パートナーシップ事業 音楽への扉「感動・クラシック新発見！」①「西洋音楽は西洋だけのもの？」井上さつき(構成・解説) 他	1	
		7/29	中リハ	WS 子供のためのワークショップ—夏休みエンゲキ体験— 山崎清介(講/脚本・演出・出演) 他	1	
	191	7/30~31	小	演劇 子供のためのシェイクスピアカンパニー『尺には尺を』	3	
	192	8/2	コン	コン PMFオーケストラ名古屋公演 サンティ(指)	1	
		8/10	小	講演 シリーズ・トーク「愛知からのオペラ創造」②「言語から舞台表現へ」岩田達宗(講/演出家)、石戸谷結子 他	1	
	193	8/25	小	演劇 愛・地球博パートナーシップ事業 AAF戯曲賞ドラマリーディング 半澤寧子『大熊猫(パンダ)中毒』、shelf(リーディング)	1	

年度	公演 番号	実施日	会場	ジャンル	タイトル・出演者(奏者・講師等含む)	回数
(05)	H17	8/25~28	EF	WS	ドラマリーディングを楽しむためのワークショップ	4
	194	8/26	小	演劇	※地球博パートナーシップ事業 AAF戯曲賞ドラマリーディング 永山智行『so bad year』、reset-N(リーディング)	1
	195	8/27	小	演劇	※地球博パートナーシップ事業 AAF戯曲賞ドラマリーディング 小里清『アナトミア』、風琴工房(リーディング)	1
	196	8/28	小	演劇	※地球博パートナーシップ事業 AAF戯曲賞ドラマリーディング スエヒロケイスケ『water witch』、Ort-d.d(リーディング)	1
		8/31	大	オペラ	『白鳥』青少年のためのゲネプロ公開	1
		9/1	大	講演	シリーズ・トーク「愛知からのオペラ創造」③「観るオペラを《創る》心」増田寿子(講/舞台美術家)、石戸谷結子 他	1
	197	9/2、4	大	オペラ	愛知万博開催記念プロデュースオペラ シンフォニック・オペラ『白鳥』 現田茂夫(指)、岩田達宗(演)、浜田理恵(S)、やまもとかよ(S)、AC、名フィル 他	2
		11/3~12/18	県内	その他	移動美術館(大口町歴史民俗資料館)	—
	198	11/5	コン	コン	音楽への扉「感動・クラシック新発見！」②「音は進化したのか？」上野 真(P)	1
	199	11/23	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(豊田市コンサートホール)	1
	200	12/4	大	民芸	ふるさと芸能祭「ふるさとのだんつくと歌舞伎」	1
	201	12/24	コン	コン	「Xmasはオルガンだ！Ⅳ」新山恵理(Org)、及川 豊(T)	1
		12/26	小	その他	第5回AAF戯曲賞公開審査会	1
	202	1/21	コン	コン	音楽への扉「感動・クラシック新発見！」③「移ろいゆくオペラ」高橋薫子(S)、服部容子(P)、ACOE	1
	2/14~21	大中リ他	WS	「児玉宏のオペラワークショップ～オペラを創る！Ⅱ～」児玉 宏(講/指揮者) 他	—	
203	2/25	コン	コン	音楽への扉「感動・クラシック新発見！」④「オケの中で変わる！」児玉 宏(指)、名フィル	1	
(06)	H18	4/14~16	小	演劇	「第6回演フェス」壁ノ花団『たまごの大きさ』水沼 健(作・演)	4
	205	4/22~23	小	演劇	「第6回演フェス」試験管ベビー『イヨはまだ・・・』かこまさつぐ(作・演)	4
	206	5/12~14	小	演劇	「第6回演フェス」劇団ジャブジャブサーキット 『亡者からの手紙』～日影丈吉作品群に顧みる昭和の犯罪考～ はせ ひろいち(作・演)	4
	207	5/19~21	小	演劇	「第6回演フェス」SPIRAL MOON『みちかける』秋葉正子(演)、門肇(脚本)	4
	208	6/12	大	オペラ	メトロポリタン歌劇場『ワルキューレ』エッセンバッハ(指)、シェンク(演)、ドミンゴ(T)、モリス(Br) 他	1
		7/11~12	大・小	その他	第13回舞台技術者セミナー「劇場技術エヴオリューション」	—
		7/17	大リハ	講演	シリーズ・トーク「ラ・ボエーム:オペラ青春物語」①「19世紀パリの庶民たち」鹿島 茂(講/仏文学)、加藤浩子(司/音楽評論家) 他	1
		8/10	小	講演	シリーズ・トーク「ラ・ボエーム:オペラ青春物語」②「現代にも共感を呼ぶ登場人物」栗園 淳(講/演)、加藤浩子 他	1
	209	8/25~27	小	演劇	子供のためのシェイクスピアカンパニー『リチャード三世』	4
		8/25	大リハ	WS	子供のためのワークショップ～夏休みエンゲキ体験～ 山崎清介(講/脚本・演出・出演) 他	—
	210	9/28	大	オペラ	プロデュースオペラ『ラ・ボエーム』(学生向け公演) 小崎雅弘(指)、栗園 淳(演)、市原多朗(T)、AC、名フィル 他	1
		9/29	大	講演	シリーズ・トーク「ラ・ボエーム:オペラ青春物語」③「オペラ衣装は素敵」増田恵美(講/衣装デザイナー)、加藤浩子 他	1
		9/30	大	WS	あいち子ども芸術大学2006「ワクワク、オペラ体験」 栗園 淳(講/演出家) 他	1
	210	10/1	大	オペラ	プロデュースオペラ『ラ・ボエーム』 小崎雅弘(指)、栗園 淳(演)、吉田恭子(S)、市原多朗(T)、堀内康雄(Br)、山本真由美(S)、柴山昌宣(Br)、清水宏樹(B)、AC、名フィル 他	1
		10/3	小	その他	第6回AAF戯曲賞公開審査会	1
	211	10/28	コン	コン	音楽への扉「時を駆けるモーツァルト」①「薫り立つ弦楽合奏」朝枝信彦(Vn)、アマデウス・アンサンブル、田辺秀樹(解説)	1
	212	11/18	コン	コン	音楽への扉「時を駆けるモーツァルト」②「ピアノに魅せられた天才」久元祐子(P)、戸山俊樹(B)、田辺秀樹(解説)	1
	213	11/26	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(幸田町民会館)	1
		12/1~24	県内	その他	移動美術館(豊川市桜ヶ丘ミュージアム)	—
	214	12/3	大	民芸	ふるさと芸能祭「ふるさとの神楽獅子と歌舞伎」	1
	215	12/8~10	小	演劇	第5回AAF戯曲賞受賞作『地蔵さんが転んだ』松田清志(作)、西田シャトナー(演)	4
	216	12/23	コン	コン	「Xmasはオルガンだ！Ⅴ」米山麻美(Org)、佐藤真由美(マリンバ)	1
		12/25~26	大リハ	WS	小中学生・高校生のためのワークショップ「冬休みエンゲキ体験」 山崎清介(講/演出家・俳優) 他	—
	217	1/21	コン	コン	NHK交響楽団定期演奏会⑨ デュトワ(指)、コラル(P)	1
218	2/17	コン	コン	音楽への扉「時を駆けるモーツァルト」③「音とドラマの結婚」池田直樹(B/Br)、山田武彦(P)、ACOE、田辺秀樹(解説) 他	1	
219	3/8	コン	コン	第一回「あいちの未来を紡ぐ！コンサート」 鳥山頼子(企画)、柳河瀬貴子(企画・P) 他	1	
220	3/17	コン	コン	音楽への扉「時を駆けるモーツァルト」④「芽生えから大樹へ」迫 昭嘉(指・P)、小菅 優(P)、名フィル	1	
	3/23~27	小他	WS	オペラワークショップⅢ「マルコ・ポーロ、オペラを創る！」 ポーロ(講/指揮者)	—	
(07)	H19	4/13~15	小	演劇	「第7回演フェス」ニットキャップシアター『お彼岸の魚』ごまのはえ(作・演)	4
	222	4/20~22	小	演劇	「第7回演フェス」ジ・オイスターズ『うそつき村』平塚直隆(作・演)	4
	223	5/11~13	小	演劇	「第7回演フェス」トリコ・Aプロデュース『豊満ブラウン管』山口 茜(作・演)	4
	224	5/17~20	小	演劇	「第7回演フェス」劇団あおきりみかん『上空劇場、さようなら』鹿目由紀(作・演)	6
		6/20	小	講演	シリーズ・トーク「愛知のオペラへの挑戦」①「それは愛知県芸術劇場から始まった」小栗哲家(講/舞台監督)、長木誠司(司/音楽評論家) 他	1
		7/3~4	大・小	その他	第14回舞台技術者セミナー「劇場等演出空間での表現と安全の確保とは」	—
		7/18	小	講演	シリーズ・トーク「愛知のオペラへの挑戦」②「浅草オペラから『白鳥』まで」雑喉 潤(講/音楽ジャーナリスト)、長木誠司 他	1
		8/1	小	講演	シリーズ・トーク「愛知のオペラへの挑戦」③「オペラの魔力」飯森範親(講/指揮者)、長木誠司 他	1
	225	8/24~26	小	演劇	子供のためのシェイクスピアカンパニー『夏の夜の夢』	4
		8/31	コン	コン	あいち子ども芸術大学2007「来て、見て、弾いてパイプオルガン」勝山雅世(Org)、望月廣幸(オルガンビルダー)	1
	226	9/1	コン	コン	「サマー・オルガン・コンサート」勝山雅世(Org)、菅沼真一(Tp)	1
	227	9/9	大	コン	開館15周年記念「オペラ・ガラ・コンサート」飯森範親(指)、小栗哲家(演)、佐藤しのぶ(S)、奥田瑛二(ナレーション)、AC、TOS、名フィル他	1
	228	10/7~8	大	オペラ	名古屋二期会『ドン・ジョヴァンニ』飯寺泰次郎(指)、平尾力哉(演)、奥村晃平(Br)／宮本益充(Br)、名古屋二期会管 他	2
		10/9	小	その他	第7回AAF戯曲賞公開審査会	1
229	10/13	コン	コン	音楽への扉「時代を拓いたこの一曲」①「弦に弾かれた作曲家」米元響子(Vn)、上田 希(C) 他	1	

年度	公演 番号	実施日	会場	ジャンル	タイトル・出演者(奏者・講師等含む)	回数
H19 (07)		10/20~11/18	県内	その他	移動美術館(田原市渥美郷土資料館・赤羽根文化会館)	—
	230	11/10	コン	コン	音楽への扉「時代を拓いたこの一曲」②「ピアノが誘う未来への扉」 廻 由美子(P)	1
	231	11/16~18	小	演劇	愛知芸術文化センター開館15周年記念 第6回AAF戯曲賞受賞作『塔の上から』吉村健二(作)、木村 繁(演)	4
	232	11/18	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(豊明市文化会館)	1
	233	11/25	大	民芸	開館15周年記念 ふるさと芸能祭「ふるさとの大獅子小獅子と歌舞伎」	1
		12/1~2	中リハ	WS	あいち子ども芸術大学2007 小・中学生のためのワークショップ「楽しくエンゲキ」 西尾栄儀(講/俳優) 他	2
	234	1/26	コン	コン	NHK交響楽団定期演奏会 プロムシュテット(指)、ゲルハーヘル(Br)	1
	235	2/11	コン	コン	音楽への扉「時代を拓いたこの一曲」③「オペラは美しく、劇的に」 林 康子(S)、村上尊志(P)、ACOE	1
		2/25~29	小他	WS	オペラワークショップⅣ「イタリア・オペラ歌唱法」 レアール(講師/S)	—
	236	3/8	コン	コン	音楽への扉「時代を拓いたこの一曲」④「バリ発・交響曲」 高関 健(指)、名フィル	1
237	3/21	コン	コン	第二回「あいちの未来を紡ぐ！コンサート」 池永健二(企画・打楽器・トーク)、中村ゆかり(企画・話) 他	1	
H20 (08)	238	4/11~13	小	演劇	「第8回演フェス」アトミック☆グース 『ザ・スクラッチ・プログラム』 西田正也(作・演)	4
	239	4/18~20	小	演劇	「第8回演フェス」ミックニヤナイハラプロジェクト『3年2組』 矢内原美邦(作・演・振付)	4
	240	5/15~18	小	演劇	「第8回演フェス」劇工房創芝社『MUNEHARU-夢、翔る-』 栗木英章(作)、深山義夫(演)	6
	241	5/23~25	小	演劇	「第8回演フェス」ヨーロッパ企画『あんなに優しくあったゴーレム』 上田 誠(作・演)	4
	242	5/29~30	大	その他	パリ・オペラ座バレエ団 2008日本公演『ル・パルク』 名フィル	2
		7/8~9	大・小	その他	第15回舞台技術者セミナー「変革期の舞台技術とは 劇場の転機その3」	—
		7/14	小	講演	シリーズ・トーク「オペラ『ファルスタフ』~ヴェルディが最後に臨んだシェイクスピア(以下『ファルスタフ』)」 ①「オペラ『ファルスタフ』ってどんな話？」 小畑恒夫(講/音楽評論家)、國土潤一(司/音楽評論家) 他	1
		8/9	コン	その他	第三回「あいちの未来を紡ぐコンサート」公開審査会	1
		8/12	小	講演	シリーズ・トーク「『ファルスタフ』」②「こんな『ファルスタフ』お目にかけます」 岩田達宗(講/演)、國土潤一 他	1
	243	8/30、31	小	演劇	子供のためのシェイクスピアカンパニー『シンペリン』	3
		9/19	大	オペラ	『ファルスタフ』青少年のためのゲネプロ公開	1
		9/20	大	WS	あいち子ども芸術大学2008「ワクワク、オペラ体験『ファルスタフ』」 岩田達宗(講/演出家) 他	1
	244	9/21、23	大	オペラ	プロデュースオペラ『ファルスタフ』 山下一史(指)、岩田達宗(演)、折江忠道(Br)、堀内康雄(Br)、大澤一彰(T)、尾崎比佐子(S)、佐藤美枝子(S)、荒田祐子(Ms)、AC、名フィル 他	2
		9/22	大	講演	シリーズ・トーク「『ファルスタフ』」③「光が創る『ファルスタフ』」 沢田祐二(講/照明家)、國土潤一 他	1
	245	10/11	コン	コン	音楽への扉「扉の向こうの音楽の世界」①「池辺晋一郎が語る音楽の不思議」 池辺晋一郎(指・解説)、愛知室内オーケストラ	1
		10/28	小	その他	第8回AAF戯曲賞公開審査会	1
	246	11/8	コン	コン	音楽への扉「扉の向こうの音楽の世界」②「ピアノ、今昔」 上野 真(P)	1
		11/14~16	小他	演劇	演劇大学 in 愛知	—
		11/20~30	県内	その他	移動美術館(武豊町民会館ゆめたらうプラザ)	—
	247	11/24	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(新城文化会館)	1
	248	12/7	大	民芸	ふるさと芸能祭「ふるさとのほねこみと歌舞伎」	1
	249	12/12~14	小	演劇	第7回AAF戯曲賞受賞作『シアン』 棚瀬美幸(作)、佐久間広一郎(演)	4
	250	12/23	コン	コン	「Xmasはオルガンだ！VI」 近藤 岳(Org)、堀江裕介(Sax)	1
		1/17	中リハ	WS	2008あいち子ども芸術大学 小学生のためのワークショップ「楽しくエンゲキ」 西尾栄儀(講/俳優) 他	1
251	1/25	コン	コン	NHK交響楽団定期演奏会 キタエンコ(指)、上原彩子(P)	1	
	1/25	コン	WS	NHK交響楽団楽員による公開レッスン第1回~金管楽器アンサンブル~ 津野直弘(Tp)、日高 剛(Hr)	1	
	2/12	県内	WS	アウトリーチ(あいち小児保健医療総合センター) クアルテット・エクセルシオ(弦楽)	1	
252	2/14	コン	コン	音楽への扉「扉の向こうの音楽の世界」③「躍動する4人の弦」 クアルテット・エクセルシオ(弦楽)、上田 希(CI)	1	
253	3/14	コン	コン	音楽への扉「扉の向こうの音楽の世界」④「やっぱりオペラは素敵！」 小崎雅弘(指)、吉田恭子(S)、名フィル、AC 他	1	
254	3/19	コン	コン	第三回「あいちの未来を紡ぐ！コンサート」 新岡ゆい(企画・オーボエ)、長谷川裕祐(企画・打楽器) 他	1	
H21 (09)		4/8	小	講演	シリーズ・トーク「オペラ『カルメン』~知っているようで知らないオペラ『カルメン』(以下『カルメン』)」 ①「オペラ『カルメン』のツボ」 山之内英明(講/音楽評論家)、玉木正之(司/音楽評論家) 他	1
	255	4/10~12	小	演劇	「第9回演フェス」ハイバイ『ヒッキー・カンクーントルネード』 岩井秀人(作・演)	4
	256	4/18、19	小	演劇	「第9回演フェス」演劇ユニット屋ノ月『顔を見ないと忘れる』 鈴江俊郎(作・演)	5
	257	5/15~17	小	演劇	「第9回演フェス」テラ・インコグニタ『H2O/ME~いつか、恋は、終わる。~』 刈馬カオス(作・演)	5
		5/8	小	講演	シリーズ・トーク「『カルメン』」②「カルメンが語る『カルメン』」 林 美智子(講/Ms)、山之内英明(司/音楽評論家) 他	1
	258	5/22~24	小	演劇	「第9回演フェス」劇団きまぐれ『鰐梨(あぼかど)の育てかた』 長縄都至子(作)、水野誠子(演)	4
		6/8	市内	講演	シリーズ・トーク「『カルメン』」③「『カルメン』をもっと身近に感じてみよう」(アートピアホール) 佐渡 裕(講/指揮者)、玉木正之(司/音楽評論家) 他	1
		7/14~15	大・コン・小	その他	第16回舞台技術者セミナー「変革期の舞台技術とは vol.2」	—
	259	7/25、26	大	オペラ	佐渡 裕芸術監督プロデュースオペラ 2009『カルメン』 佐渡 裕(指)、マルティノーティ(演)、グリゴリアン(Ms)ノ林 美智子(Ms)、名古屋少年少女合唱団、ひょうごプロデュースオペラ合唱団、兵庫芸術文化センター管 他	2
		7/25	大	WS	『カルメン』舞台見学会	1
		8/4	市内	WS	大野和士のこころふれあいコンサート2009(愛知県がんセンター) 大野和士(P・トーク)、西村 悟(T) 他	1
		8/5	中リハ	WS	指揮者大野和士の子どものためのワークショップ:アート体験<夏> ①「わたしが指揮者！」②「音ってなに色？」③「からだであらわす音」 大野和士(講/指揮者) 他	1
	264	8/27	コン	コン	THE オルガンDAY 「子どものためのパイプオルガン入門コンサート」(屋の部)、「大人のためのパイプオルガン名曲コンサート」(夜の部) 勝山雅世(Org)	2
	260	8/29~30	小	演劇	子供のためのシェイクスピアカンパニー『マクベス』	3
	261	9/5~6	大	オペラ	名古屋二期会『真夏の夜の夢』 阪 哲朗(指)、中村敬一(演)、山本みよ子(S)ノ谷田育代(Ms)、名古屋二期会管 他	2
	10/3	コン	その他	若き音楽家による企画コンサート2010公開本審査	1	
	10/26	小	演劇	第9回AAF戯曲賞公開審査会	1	
	11/6~8	芸文	演劇	演劇大学 in 愛知	—	

年度	公演番号	実施日	会場	ジャンル	タイトル・出演者(奏者・講師等含む)	回数
H21 (09)		11/7	コン	WS	指揮者大野和士の子どものためのワークショップ:アート体験<秋>	3
	262	11/7	コン	コン	フランス国立リヨン歌劇場管弦楽団 大野和士(指)	1
		11/23	EF	講演	現代の演劇状況について学ぶレクチャー① 安住恭子(演劇制作・演劇研究評論)	1
	263	11/23	県内	オケ	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(日進市民会館)	1
	265	12/6	大	民芸	ふるさと芸能祭「ふるさとの参候と歌舞伎」	1
	266	12/11~13	小	演劇	第8回AAF戯曲賞受賞作『船酔いパッパ』菅野直子(作)、神谷尚吾(演)	4
	267	12/19	コン	コン	「Xmasはオルガンだ! VII」桑山彩子(Org)、照喜名有希子(Tb)	1
		12/20	EF	演劇	現代の演劇状況について学ぶレクチャー② 安住恭子(演劇制作・演劇研究評論)	1
		12/27	中リハ	演劇	あいち子ども芸術大学2009 小学生のためのワークショップ「楽しくエンゲキ」 西尾栄儀(講/俳優) 他	1
		2/20~3/28	県内	その他	移動美術館(豊橋市美術博物館)	—
	268	2/20	コン	オケ	NHK交響楽団定期演奏会 ビシュコフ(指)、ヴォロディン(P)	1
		2/21	大リハ	教育	NHK交響楽団楽員による公開レッスン第2回~管楽器~ 山根孝司(CI)、関山幸弘(Tp)	1
		3/9	県内	WS	移動美術館 音楽アウトリーチ(豊橋市立小学校2校) 天野武子(Vc)、渡辺理恵子(P)	1
	269	3/11	コン	コン	若き音楽家による企画コンサート2010 Spring 工藤重典(FI・ゲスト共演)、板倉ひろみ(企画・作曲・P・打楽器)、吉田杏奈(企画・FI) 他	1
		3/19	小	講演	「國土潤一のオペラ『ナブッコ』スミからスミまで!」	2
		3/22	県内	コン	移動美術館 ロビーコンサート(豊橋市美術博物館) 天野武子(Vc)、渡辺理恵子(P)	1
	270	3/28	コン	コン	『ナブッコ』(演奏会形式) 柳澤寿男(指)、直野 資(Br)、大岩千穂(S)、AC、名フィル他	1
H22 (10)	271	4/9~11	小	演劇	「第10回演フェス」あなざ事情団『三人姉妹』アントン・チェーホフ(作)、わたなべなおこ(構成・演)	4
	272	4/16~18	小	演劇	「第10回演フェス」ニットキャップシアター『踊るワン・バラグラフ2010』ごまのはえ(作・演)	4
	273	5/14~16	小	演劇	「第10回演フェス」劇団『旦那さまは狩りにお出かけ』ジョルジュ・フェードー(作)、岩川 均(台本・演)	4
	274	5/20~23	小	演劇	「第10回演フェス」劇団あおきりみかん『ここまでがユートピア』鹿目由紀(作・演)	6
		6/9	県内	WS	移動美術館 音楽アウトリーチ(安城市立小学校2校) 宮崎智永(T)、西尾由希(P)	2
		6/12~7/11	県内	その他	移動美術館(安城市民ギャラリー)	—
		6/16	小	講演	シリーズ・トーク「オペラ『ホフマン物語』~オッフェンバックが描いた幻想の世界(以下「『ホフマン物語』」) ①「未完の大作オペラ『ホフマン物語』」堀内 修(講/音楽評論家)、永竹由幸(司/音楽評論家) 他	1
		6/20	県内	コン	移動美術館 ロビーコンサート(安城市歴史博物館) 二宮咲子(S)、宮崎智永(T)、西尾由希(P)	1
		7/13~14	大・小	その他	第17回舞台技術者セミナー「演出空間の姿容-映像とは!」	—
		7/15	小	講演	シリーズ・トーク「『ホフマン物語』」②「これが砂川流“悲恋の歌姫だ!”」砂川涼子(講/S)、永竹由幸 他	1
	275	7/22	コン	コン	THE オルガンDAY vol.2 「子どものためのパイプオルガン入門コンサート」(昼の部)、「大人のためのパイプオルガン名曲コンサート」(夜の部) 高橋博子(Org)	2
		7/29	コン	コン	若き音楽家による企画コンサート2011公開本審査	1
	276	8/7、8	小	演劇	子供のためのシェイクスピアカンパニー『お気に召すまま』	3
		8/23	市内	コン	大野和士のこころふれあいコンサート2010(愛知県がんセンター) 大野和士(P・トーク)、永崎京子(S) 他	
		9/16	大	オペラ	『ホフマン物語』中・高校生のためのゲネプロ公開	1
		9/17	大	講演	シリーズ・トーク「『ホフマン物語』」③「衣裳が広がる幻想世界」チャンマルーギ(講/衣裳家)、永竹由幸 他	1
	277	9/18、20	大	オペラ	あいちリエンナーレ2010プロデュースオペラ『ホフマン物語』 フィッシュ(指)、栗園 淳(演)、チャコン=クルス(T)、コロンバール(B)、幸田浩子(S)、砂川涼子(S)、中嶋彰子(S)、AC、名フィル 他	2
		9/19	大	WS	「ワクワク、オペラ体験-オペラ『ホフマン物語』」 栗園 淳(講/演出家) 他	1
	278	10/30	コン	コン	NHK交響楽団定期演奏会 サンティ(指)	1
		10/30	コン	WS	NHK交響楽団楽員による公開レッスン第3回~木管楽器~ 甲斐雅之(FI)、山根孝司(CI)	1
		11/9	小	その他	第10回AAF戯曲賞公開審査会	1
	279	11/21	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(尾張旭市文化会館)	1
	280	11/27	コン	コン	音の楽園 The Three by One Part1「人の心の響き」堤 剛(Vc)	1
		11/28	大リハ	WS	堤 剛のチェロ公開レッスン 堤 剛(講/Vc)	1
	281	12/5	大	民芸	ふるさと芸能祭「愛知県ふるさと芸能祭」	1
	282	12/23	コン	コン	「Xmasはオルガンだ! VIII」山本真希(Org)、栃本浩規(Tp)	1
	12/26	中リハ	WS	小学生のためのワークショップ「楽しくエンゲキ」 西尾栄儀(講/俳優) 他	1	
	1/7	コン	その他	音の楽園 Part2公開リハーサル		
283	1/8	コン	コン	音の楽園 The Three by One Part2「チェロ de オペラ」堤 剛、石橋栄実(S) 他	1	
	1/9	中リハ	WS	堤 剛のチェロで音体験ワークショップ 堤 剛(講/Vc) 他	1	
284	1/28~30	小	演劇	第9回AAF戯曲賞受賞作『金色カノジョに桃の虫』サリngROCK(作)、はせ ひろいち(演)	4	
285	2/11	コン	コン	若き音楽家による企画コンサート2011「白」 野平一郎(P・ゲスト共演)、英 貴子(企画・Org)、大石真裕(企画・P) 他	1	
	2/11~13	小他	演劇	演劇大学 in 愛知	—	
	2/13	EF	講演	AAFシアター・クリティック~『金色カノジョに桃の虫』を観て~ 安住恭子(講/演劇制作・演劇研究評論)	1	
	3/24	市内	コン	チェリスト堤 剛の訪問演奏(愛知県立城山病院)	1	
	3/25	コン	その他	音の楽園 Part3 公開リハーサル	1	
286	3/26	コン	コン	音の楽園 The Three by One Part3「チェロ、ヴィオラ、管弦楽による音楽物語」下野竜也(指)、堤 剛、清水直子(Va)、名フィル	1	
H23 (11)	287	6/18、19	小	演劇	AAFリージョナル・シアター2011~京都と愛知~京都舞台芸術協会プロデュース『異邦人』	4
		7/12~13	小	その他	第18回舞台技術者セミナー「東日本大震災と劇場」	—
	288	7/29~31	小	演劇	AAFリージョナル・シアター2011~京都と愛知~少年王者館『超コンデンス』 天野天街(作・演)	4
	289	8/25	コン	コン	THE オルガンDAY vol.3 「子どものためのパイプオルガン入門コンサート」(昼の部)、「大人のためのパイプオルガン名曲コンサート」(夜の部) 洪澤久美(Org)	2
		8/26	コン	その他	若き音楽家による企画コンサート2012 公開本審査	1

年度	公演番号	実施日	会場	ジャンル	タイトル・出演者(奏者・講師等含む)	回数
H23	290	8/27, 28	小	演劇	子供のためのシェイクスピアカンパニー『冬物語』	3
(11)	291	10/1, 2	大	オペラ	名古屋二期会『天国と地獄』曾我大介(指)、たかべしげこ(演)、水谷映美(S)ノやまもとかよ(S)、名古屋二期会管 他	2
		10/12	小	講演	シリーズ・トーク『オペラ『マクベス』～ヴェルディ、シェイクスピアを愛す(以下『マクベス』)』 ①『オペラになったシェイクスピア』岡田暁生(講/京都大学人文科学研究所准教授)、大脇可子(司) 他	1
		10/16	小	その他	第11回AAF戯曲賞公開審査会	1
		10/27	中リハ	WS	「中嶋彰子のオペラレッスン」中嶋彰子(講/S)	1
	292	10/29	コン	コン	音の楽園 The Three by One vol.2 part1 「シェイクスピアとオペラ」中嶋彰子(S)、樋口達哉(T)、服部容子(P)	1
		11/19	中リハ	WS	NHK交響楽団楽員による公開レッスン第4回～金管楽器～ 吉川武典(Tb)	1
	293	11/20	コン	コン	NHK交響楽団定期演奏会 ヤルヴィ(指)、ツインマーマン(Vn)	1
	294	11/20	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(飛島村中央公民館)	1
	295	12/4	大	民芸	ふるさと芸能祭「ふるさとの歌舞伎」	1
	296	12/23	コン	コン	「Xmasはオルガンだ！Ⅹ」浅井美紀(Org)、二宮咲子(S)	1
		1/10	小	講演	シリーズ・トーク『マクベス』②『シェイクスピアとヴェルディ』小畑恒夫(講/音楽評論家)、大脇可子 他	1
		1/11	市内	コン	オペラ訪問演奏(愛知県立名古屋盲学校、名古屋第二赤十字病院) 平野雅世(S) 他	2
		1/15	中リハ	WS	小学生のためのワークショップ「楽しくエンゲキ」西尾栄儀(講/俳優) 他	1
	297	1/21	コン	コン	音の楽園 The Three by One vol.2 part2 「オペラと魔女」須藤慎吾(Br)、清水華澄(Ms)、服部容子(P)、AC他	1
		1/21, 22	小	講演	日本の近代戯曲研修セミナー in 東海	—
	298	2/11	コン	コン	若き音楽家による企画コンサート2012 with 赤坂達三 “水” 赤坂達三(Cl・ゲスト共演) 都築由理江(企画・Org)、水谷優希(企画・P)	1
	299	3/3, 4	小	演劇	名古屋演劇教室 NAGOYAダイアモンズ公演Vol.4『飛んで孫悟空』	6
		3/14	小	講演	シリーズ・トーク『マクベス』③『オペラ『マクベス』の聴きどころ』時任康文(講師/指揮者)、大脇可子 他	1
	300	3/17	コン	コン	音の楽園 The Three by One vol.2 part3 『マクベス』(演奏会形式) 時任康文(指)、堀内康雄(Br)、田口智子(S)、名フィル、AC、服部容子(ナビゲーター) 他	1
	301	3/22～25	小	演劇	第10回AAF戯曲賞受賞作『どこか行く舟』室屋和美(作)、鈴江俊郎(演)	6
	3/30	中リハ	WS	「指揮&ピアノで音楽ワークショップ」服部容子(講/P)、富平恭平(講/指揮者)	1	
	3/31	EF	講演	AAFシアター・クリティック～『どこか行く舟』を観て～ 安住恭子(講/演劇制作・演劇研究評論)	1	
H24	(12)	6/21	小	講演	シリーズ・トーク『オペラ『ランメルモールのルチア』～ベルカントの真髄を聴く(以下『ルチア』)』 ①『ルチア』～ベルカント・オペラの魅力～ 水谷彰良(講/オペラ研究家)、大脇可子(司)他	1
		7/10～11	大・小	その他	第19回舞台技術者セミナー「劇場等演出空間での表現と安全の確保とはⅡ」	—
	302	7/14～15	小	演劇	AAFリージョナル・シアター2012～京都と愛知vol.2～ 京都舞台芸術協会プロデュース『建築家M』	4
		7/23	小	講演	シリーズ・トーク『ルチア』②『私が『ルチア』を歌う意義』佐藤美枝子(講/S)、大脇可子他	1
	303	7/24	コン	コン	THE オルガンDAY vol.4 「子どものためのパイプオルガン入門コンサート」(昼の部)、「大人のためのパイプオルガン名曲コンサート」(夜の部) 大塚直哉(Org)	2
	304	7/28～29	小	演劇	AAFリージョナル・シアター2012～京都と愛知vol.2～ 日本演出者協会東海ブロックプロデュース『ゴドー氏の仕事』	4
		8/21	小	講演	シリーズ・トーク『ルチア』③『オペラ『ルチア』の創り方～愛知県芸術劇場20周年に向けて』岩田達宗(講/演出家)、大脇可子 他	1
	305	8/25, 26	小	演劇	子供のためのシェイクスピアカンパニー『リチャード三世』	2
		9/5	市内	コン	あいち国際映画祭共催イベント:ランチタイムコンサート～映画の中のクラシック 山本敦子(P)、二宮咲子(S)、宮崎智永(T)	1
		9/15	大	オペラ	『ランメルモールのルチア』中学・高校生のためのゲネプロ公開	1
		9/16	大	WS	「ワクワク！オペラ体験！～オペラ『ランメルモールのルチア』」 岩田達宗(講/演出家) 他	1
	306	9/17	大	オペラ	開館・事業団創立20周年 プロデュースオペラ『ランメルモールのルチア』 ザネティ(指)、岩田達宗(演)、佐藤美枝子(S)、村上敏明(T)、堀内康雄(Br)、AC、名フィル他	1
		10/4, 5	県内	コン	訪問演奏「二人でピアノ三昧」(名古屋掖済会病院、豊田市立豊田養護学校) Duo YAMAMOTO(P)	2
	307	10/6	コン	コン	音の楽園 The Three by One vol.3 第1章「天才モーツァルトとワーグナー」 Duo YAMAMOTO(P)、西村朗(ナビゲーター)	1
		10/14	小	その他	第12回AAF戯曲賞公開審査会	1
	308	11/4	コン	コン	音の楽園 The Three by One vol.3 第2章「二人のグスタフとペーターヴェン」野原みどり(P)、青戸 知(Br)、AC、西村朗 他	1
		11/11	EF	講演	AAF演劇レクチャー「ワンポイントクリニック～芝居の観かた！演じかた！～」にへいたかひろ(講/劇作家・演出家・俳優) 他	1
		11/17	市内	その他	AAF戯曲賞受賞作『虫』稽古見学会	1
	309	11/23	県内	コン	愛知県立芸術大学管弦楽団特別演奏会(蒲都市民会館大ホール)	1
	310	12/7～9	小	演劇	第11回AAF戯曲賞受賞作『虫』市原佐都子(作)、にへいたかひろ(演)	4
311	12/22	コン	コン	「Xmasはオルガンだ！Ⅹ」藤枝照久(Org)、山野雅美(FI)	1	
	1/10	コン	その他	若き音楽家による企画コンサート2013 公開本審査	—	
312	1/19	コン	コン	音の楽園 The Three by One vol.3 第3章「ブラームスとの対立と恩人リスト」広瀬悦子(P)、清水華澄(Ms)、西村朗	1	
	1/20	中リハ	WS	小学生のためのワークショップ「楽しくエンゲキ」西尾栄儀(講/俳優) 他	1	
313	2/24	コン	コン	NHK交響楽団定期演奏会 メルクル(指)、シュフ(P)	1	
	2/24	コン	WS	NHK交響楽団楽員による公開レッスン第5回～金管楽器・ホルン～ 今井仁志(講/Hr)	1	
	3/13	大リハ	WS	西村朗の作曲マスタークラス 西村朗(講/作曲家)	1	
314	3/16～17	小	演劇	NAGOYAダイアモンズ公演vol.5『月の教室』宮沢章夫(作)、小熊ヒデジ(演)	4	

## お客様並びに関係者のみなさまへ～

末筆ではありますが、我々事業団が、発足時から各種事業を実施し現在に至ることができましたのも、ご来場いただいた多くのお客様や、文中、お名前の掲載は割愛させていただきましたが、これまで惜しみないご支援、ご協力を賜りました関係者のみなさまのおかげと、深く感謝いたしております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

## 『愛知県文化振興事業団20年誌～20年の軌跡を振り返る～』

平成25年5月31日 発行

### 執筆：

公益財団法人愛知県文化振興事業団

大脇可子、小出充訓、富田顕生、長瀬武彦、水野学（事業担当者・五十音順）

中沢純一（編集担当兼）

### 編集・発行・お問い合わせ：

公益財団法人愛知県文化振興事業団

〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13番2号

TEL 052-971-5609（事業課）

052-971-5610（管理課）

FAX 052-971-5646

Email aaf01@aac.pref.aichi.jp

◆本誌は、事業団Webサイトでも公開しています。

<http://www.aac.pref.aichi.jp/sinkou/news/20years/index.html>

◆無断転載及び複製はお断りします。